

畑田遺跡発掘調査報告書

－ 五条川小学校区統合保育園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2026

岩倉市教育委員会
株式会社アーキジオ

巻頭写真図版



調査区空中写真（北西に「井上城」） 上が北



A区1面 遺構外出土の獅子頭文

例 言

- 1 本書は、愛知県岩倉市が実施した五条川小学校区統合保育園建設事業に伴い埋蔵文化財の発掘調査を実施した愛知県岩倉市井上町地内に所在する畑田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査・整理作業は、岩倉市が主体となっており、岩倉市教育委員会の監理のもと株式会社アーキジオ中日本支店に発注して実施した。
- 3 本書で報告する発掘調査・整理作業の概要と担当者は次のとおりである。

発掘調査面積	6,602㎡（1面：3,301㎡、2面：3,301㎡）
調査準備期間	令和6年5月13日～令和6年6月12日
発掘調査期間	令和6年6月13日～令和6年12月26日
整理作業期間	令和7年1月6日～令和8年3月17日
監理担当者	岩倉市教育委員会 生涯学習課 生涯学習グループ
	統括主査 黒田かおり
	主査 山内宏之
	主任 齋藤 匠
	文化財指導員 平松久和
発掘調査担当者	株式会社アーキジオ中日本支店
	担当調査員 三島ゆかり（令和6年6月13日～令和6年12月26日）
	基峰 修（令和6年6月13日～令和6年8月9日、 令和6年11月1日～令和6年12月26日）
	阿部将樹（令和6年8月19日～令和6年10月31日）
	調査補助員 柴田 俊（令和6年7月1日～令和6年12月26日）
	土木施工・安全管理 春本和浩（令和6年6月13日～令和6年12月26日）
	測量施工 楠原 崇（令和6年6月13日～令和6年12月26日）
整理作業担当者	株式会社アーキジオ中日本支店
	担当調査員 三島ゆかり、基峰 修
	整理補助員 和田美桜、柴田 俊、桂川 慧
- 4 発掘調査及び整理作業では、次の機関よりご指導・ご協力を賜った。（順不同、敬称略）
岩倉市井上町自治会 岩倉市文化財保護委員会 愛知県民文化局 愛知県教育委員会
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
- 5 発掘調査はA区・B区・C区の地区を設定し、地区分割して2面調査を実施した。
- 6 発掘調査の遺構写真撮影は、三島（A区1面・B区1面・B区2面・C区1面）と阿部（A区2面・C区2面）が分担して行った。
- 7 発掘調査の無人航空機（Unmanned aerial vehicle、本書ではUAVと略称で記す）による空中撮影は、楠原が行い、一部を三島が行った。
- 8 整理作業では、自然科学分析、遺構・遺物の図版を作成して報告書を刊行した。
- 9 整理作業の遺物写真撮影は、三島の指示のもと和田が行い、一部を三島・桂川が行った。赤外線カメラによる遺物写真撮影は基峰が行った。
- 10 整理作業での自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボ東海支店に依頼し、その成果を第4章に掲

載した。

- 11 本書の編集は三島が担当し、執筆は第1章第1節・第2章を平松、その他は三島と基峰が分担して実施した。文責は文末に記した。
- 12 発掘調査・整理作業後の出土品及び原図・写真等の記録類は、岩倉市教育委員会が保管している。
- 13 発掘調査及び整理作業の作業員及び参加者は次の通りである。(男女別・五十音順、敬称略)
[発掘調査] 石川尚美、上杉康郎、桂川 慧、河野 潤、北村泰一、木村高彦、後藤秀夫、
近藤良成、櫻井謙二、中島雅晴、野田雅敬、馬淵一代司、山本人士、池山有美、
石川節子、小平ホヨミ
[整理作業] 後藤秀夫、小平ホヨミ

凡 例

- 1 本書で用いた座標は世界測地系Ⅶ系である。挿図の方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 2 層序（地層）および遺物観察表で記載した色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1995年版』に拠る。
- 3 遺構記号は、竪穴建物：S I、土坑：S K、溝：S D、ピット：S P、その他の遺構：S X、自然流路：N Rを用いた。
- 4 遺構実測図の縮尺は挿図中に縮尺を示した。
- 5 遺物実測図の縮尺は原則1/3であるが、その他の縮尺の場合は挿図中に縮尺を示した。
- 6 挿図中の網掛けは、次のとおりであるが、必要ある場合は個々の遺構・遺物図の脇に個別に記載した。：地山 ：須恵器の断面 ：灰釉陶器の断面 ：墨書文字
- 7 第3章第2節遺構の【堆積土】で記載した「(数字)」は遺構図版の該当する断面図中の数字と一致する。

目次

例 言 凡 例

第 1 章 調査の経緯	1
第 1 節 調査にいたる経緯	(平松) ... 1
第 2 節 発掘と整理作業の経過	(三島) ... 1
第 2 章 遺跡の位置と環境	6
第 1 節 遺跡の位置と地形	(平松) ... 6
第 2 節 歴史的環境	(平松) ... 7
第 3 章 調査の方法と成果	13
第 1 節 調査の方法と層序	(三島) ... 13
第 2 節 遺構	18
(1) A区・B区	18
① 1 面 (上層)	(三島) ... 18
② 2 面 (下層)	(三島) ... 30
(2) C区	30
① 1 面 (上層)	(三島) ... 30
② 2 面 (下層)	(三島) ... 39
(3) NR001 (旧河道)	(基峰) ... 40
第 3 節 遺物	44
(1) A区・B区	44
① 1 面 (上層)	(三島) ... 44
② 2 面 (下層)	(三島) ... 49
(2) C区	50
① 1 面 (上層)	(三島) ... 50
② 2 面 (下層)	(三島) ... 52
(3) NR001 (旧河道)	(基峰) ... 53
第 4 章 自然科学分析	77
第 1 節 放射性炭素年代測定	(パレオ・ラボ) ... 77
第 2 節 出土木材の樹種同定	(パレオ・ラボ) ... 81
第 3 節 花粉分析	(パレオ・ラボ) ... 84
第 4 節 プラント・オパール分析	(パレオ・ラボ) ... 90
第 5 節 珪藻分析	(パレオ・ラボ) ... 94
第 6 節 微細物分析	(パレオ・ラボ) ... 105
第 7 節 昆虫化石と古環境	(パレオ・ラボ) ... 112

第5章 総括	131
第1節 遺構	131
(1) 1面 調査成果	(三島) ... 131
(2) 2面 調査成果	(三島) ... 132
(3) NR001 (旧河道)	(基峰) ... 133
第2節 遺物	135
(1) 弥生土器	(基峰) ... 135
(2) 須恵器・灰釉陶器	(基峰) ... 135
(3) 山茶碗	(基峰) ... 136
(4) 天目茶碗	(基峰) ... 136
(5) ルス (呂宋瓶掛獅子頭文)	(三島) ... 137
【追記獅子】	(基峰) ... 138

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

図目次

第1図 畑田遺跡位置図	6
第2図 畑田遺跡周辺の遺跡分布図	9
第3図 岩倉市内と周辺の遺跡分布図	10
第4図 グリッド配置図	14
第5図 基本層序	15
第6図 調査区全体図 (1面)	16
第7図 調査区全体図 (2面)	17
第8図 A区1面・B区1面 遺構位置図1	19
第9図 A区1面・B区1面 遺構位置図2	20
第10図 A区1面・B区1面 遺構位置図3	21
第11図 A区1面 SD002・SD003・SD039① 遺構図	22
第12図 A区1面 SD002・SD003・SD039② 遺構図	23
第13図 A区1面 SD100～SD103 遺構図	25
第14図 A区1面 SD104～SD108 遺構図	26
第15図 B区1面 SD0023 遺構図	28
第16図 B区1面 SD024～SD028 遺構図	29
第17図 A区2面・B区2面 遺構位置図1	31
第18図 A区2面・B区2面 遺構位置図2	32
第19図 A区2面・B区2面 遺構位置図3	33
第20図 A区2面 SX119・B区2面 SI045 遺構図	34

第21図	C区1面	遺構位置図		35
第22図	C区1面	SD006・SD007 遺構図		36
第23図	C区1面	SD006・SD007 遺物出土状況図		37
第24図	C区2面	遺構位置図		38
第25図	C区2面	SD020 遺構図		39
第26図	NR001（1面）	遺構図		41
第27図	NR001（2面）	遺構図		42
第28図	A区1面	遺物実測図（1）		54
第29図	A区1面	遺物実測図（2）		55
第30図	A区1面	遺物実測図（3）		56
第31図	A区1面	遺物実測図（4）		57
第32図	A区1面	遺物実測図（5）		58
第33図	B区1面	遺物実測図（1）		59
第34図	B区1面	遺物実測図（2）		60
第35図	A区2面	遺物実測図（1）		61
第36図	A区2面	遺物実測図（2）・B区2面 遺物実測図（1）		62
第37図	B区2面	遺物実測図（2）		63
第38図	C区1面	遺物実測図（1）		64
第39図	C区1面	遺物実測図（2）		65
第40図	C区1面	遺物実測図（3）		66
第41図	C区2面	遺物実測図		67
第42図	NR001	遺物実測図		68
第43図	歴年較正結果		80	
第44図	光学顕微鏡写真		83	
第45図	花粉分布図		88	
第46図	産出した花粉化石		89	
第47図	植物珪酸体分布図		92	
第48図	No.48から産出した植物珪酸体		93	
第49図	NR001の珪藻ダイアグラム		102	
第50図	SD023・SD050・SD051の珪藻ダイアグラム		103	
第51図	産出した珪藻殻		104	
第52図	出土した大型植物遺体		111	
第53図	昆虫化石の顕微鏡写真（1）		127	
第54図	昆虫化石の顕微鏡写真（2）		128	
第55図	昆虫化石の顕微鏡写真（3）		129	
第56図	昆虫化石の顕微鏡写真（4）		130	
第57図	区画溝（屋敷溝）・道路状遺構変遷図		132	
第58図	武士の館		132	
第59図	『治水地形分類図』と発掘調査地点		133	
第60図	江戸時代末頃の「井上村」		134	

第61図	江戸時代の岩倉市域：「井上村」	133
第62図	獅子頭文	137
第63図	外町遺跡(左2つ)・貞養院遺跡(右)出土瓶掛	137

表目次

第1表	岩倉市内の遺跡一覧	11
第2表	岩倉市周辺の遺跡一覧	12
第3表	主要遺構一覧表	43
第4表	遺物観察表	69
第5表	測定試料および処理	77
第6表	放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	78
第7表	出土木材の樹種同定結果	81
第8表	分析試料一覧	85
第9表	産出花粉孢子一覧表	87
第10表	分析試料一覧	90
第11表	試料1g当たりのプラント・オパール個数	91
第12表	試料リスト	94
第13表	本分析で登場した環境指標種群	95
第14表(1)	堆積物中の珪藻化石産出表	100
第14表(2)	堆積物中の珪藻化石産出表	101
第15表	出土した大型植物遺体(1)	106
第16表	出土した大型植物遺体(2)	107
第17表(1)	産出した昆虫化石(No.37)	118
第17表(2)	産出した昆虫化石(No.38・39・40)	118
第17表(3)	産出した昆虫化石(No.41・42)	119
第17表(4)	産出した昆虫化石(No.43・45・46)	120
第17表(5)	産出した昆虫化石(No.47)	121
第17表(6)	産出した昆虫化石(No.108・109)	122
第17表(7)	産出した昆虫化石(No.110・111)	123
第17表(8)	産出した昆虫化石(No.112)	123
第17表(9)	産出した昆虫化石(No.113)	124
第17表(10)	産出した昆虫化石(No.114)	124
第17表(11)	産出した昆虫化石(No.115)	124
第17表(12)	産出した昆虫化石(No.116)	124
第17表(13)	産出した昆虫化石(No.117)	125
第18表	産出した昆虫化石	125
第19表	堆積物試料一覧	126
第20表	区画溝(屋敷溝)・道路状遺構一覧表	131

写真図版目次

巻頭写真	調査区空中写真（北西に「井上城」）上が北
	A区1面 遺構外出土の獅子頭文
写真図版1	A区1面 完掘状況（上が北）
	A区1面 東側完掘状況（北東から）
写真図版2	A区1面 SP061 柱根出土状況（東から）
	A区1面 SP061 完掘全景（南から）
	A区1面 SD002a-a' 土層断面（西から）
	A区1面 SD002b-b' 土層断面（南西から）
	A区1面 SD003 土層断面（西から）
	A区1面 SD002・SD003 完掘状況（西から）
	A区1面 SD004 石出土状況（南西から）
	A区1面 SD028 遺物出土状況（北西から）
写真図版3	A区1面 SD039・SD040 土層断面（西から）
	A区1面 SD039 完掘全景（北から）
	A区1面 SD100 土層断面（南から）
	A区1面 SD100 完掘全景（南から）
	A区1面 SD101 土層断面（南から）
	A区1面 SD102 土層断面（南から）
	A区1面 SD102 完掘全景（南から）
	A区1面 SD103a-a' 土層断面（南から）
写真図版4	A区1面 SD103 完掘全景（南から）
	A区1面 SD104 土層断面（西から）
	A区1面 SD105 土層断面（西から）
	A区1面 SD106 土層断面（西から）
	A区1面 SD107 土層断面（西から）
	A区1面 SD079・SD080・SD108 土層断面（西から）
	A区1面 NR001西側トレンチ 土層断面（南西から）
	A区1面 NR001東側トレンチ 土層断面（北西から）
写真図版5	A区2面 完掘全景（上が北）
	A区2面 SX119 遺物出土状況（南西から）
写真図版6	A区2面 SX119 土層断面（東から）
	A区2面 SX119 完掘全景（東から）
写真図版7	A区2面 NR001 検出状況（南東から）
	A区2面 北壁（NR001）（南から）
写真図版8	B区1面 東側検出状況（上が北）
	B区1面 SD023a-a'土層断面（南東から）
	B区1面 SD023b-b'土層断面（西から）
	B区1面 SD023c-c'土層断面（南から）
	B区1面 SD023 完掘全景（西から）

	B区1面	東側完掘状況（上が北）
写真図版9	B区1面	SD023 完掘全景（南西から）
	B区1面	SD023 完掘全景（北東から）
	B区1面	SD024・SD025 土層断面（西から）
	B区1面	SD024 杭出土状況（南東から）
写真図版10	B区1面	SD024～SD028 完掘全景（西から）
	B区1面	SD026・SD027 土層断面（西から）
	B区1面	SD027a-a' 土層断面（南から）
	B区1面	SD028b-b' 土層断面（南から）
	B区1面	SD024～SD028 完掘全景（北東から）
写真図版11	B区2面	SI045 土層断面（北西から）
	B区2面	SI045 完掘全景（南西から）
	B区2面	NR001 杭出土状況（南から）
	B区2面	NR001南北トレンチ 土層断面（南西から）
	B区2面	基本層序（南壁）（北から）
写真図版12	C区1面	西側・南側完掘状況（上が北）
	C区1面	SD006 遺物出土状況（南西から）
	C区1面	SD006・SD007 遺物出土状況（南西から）
	C区1面	SD006・SD007 遺物出土状況（北東から）
	C区1面	SD006 土層断面（北西から）
写真図版13	C区1面	南側完掘状況（北東から）
	C区1面	SD006 完掘全景（北から）
	C区1面	SD007b-b' 土層断面（西から）
	C区1面	SD007 完掘全景（南西から）
	C区1面	SD017 古銭出土状況（西から）
写真図版14	C区2面	東側完掘状況（北から）
	C区2面	基本層序（南壁）（北から）
写真図版15	C区2面	SD020 土層断面（西から）
	C区2面	SD020 完掘全景（北から）
写真図版16	A区1面	出土遺物（1）
写真図版17	A区1面	出土遺物（2）
写真図版18	A区1面	出土遺物（3）
写真図版19	B区1面	出土遺物（1）
写真図版20	B区1面	出土遺物（2）
写真図版21	A区2面	出土遺物
写真図版22	B区2面	出土遺物
写真図版23	C区1面	出土遺物（1）
写真図版24	C区1面	出土遺物（2）
写真図版25	C区1面	出土遺物（3）・C区2面 出土遺物
写真図版26	NR001	出土遺物

第1章 調査の経過

第1節 調査にいたる経緯

畑田遺跡は、愛知県岩倉市の最北部井上町に所在する。令和4年以降、岩倉市井上町地内では、岩倉市による五条川小学校区統合保育園建設事業が計画・推進された。

事業地周辺には、周知の埋蔵文化財包蔵地である井上城、八劔砦、八劔遺跡、七面山古墳、種畑古墳が所在している。特に、事業地北側に所在する井上城に関連する遺跡の存在が想定されたため、事業担当の岩倉市教育委員会教育こども未来部子育て支援課(現岩倉市健康こども未来部こども家庭課)より、令和5年9月8日付けで埋蔵文化財の有無照会を受け、岩倉市教育委員会教育こども未来部生涯学習課(現教育部生涯学習課)が、令和5年10月23日から25日にかけて試掘調査を実施した。

調査の結果、古墳時代と中世の遺構面と土師器・須恵器・山茶碗・施釉陶器等の遺物が確認され、事業地が田畑という状況からみて集落跡が所在するとして、新たに畑田遺跡として愛知県埋蔵文化財包蔵地台帳への新規記載が行われた。

その後、事業計画地全域が、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、埋蔵文化財の取扱いについて、子育て支援課と生涯学習課による協議を実施し、記録保存を目的とした発掘調査を行うことで合意した。

遺跡の発掘調査・整理作業は、令和6年5月13日付けで岩倉市と株式会社アーキジオ中日本支店との間で業務委託契約が締結され、岩倉市教育委員会の管理のもと令和6年5月13日から令和8年3月17日の期間で実施することになった。

文化財保護法第92条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘調査の届出」は、業務委託契約締結後に株式会社アーキジオ中日本支店から令和6年5月13日付けで岩倉市教育委員会を経由して、愛知県教育委員会に提出され、令和6年6月10日付け6文芸第445-2号通知によって受理された。

以上により、令和6年6月13日から現地での発掘調査を開始した。また、令和6年12月1日に、市民を対象とした現地説明会を行った。

(平松)

第2節 発掘と整理作業の経過

令和6年5月13日から発掘調査の準備を開始し、先ず発掘調査を円滑に行うための実施計画書(工程表)を策定した。調査区域をA～C区の3地区に分割し、A区・B区に関しては反転調査を行うことにした。併せて、現地での状況確認や調査区の設定、作業員募集、建設作業用機械(バックホーなど)の搬入や現場事務所の設営に関わる準備を行った。

発掘調査は、「埋蔵文化財発掘調査の届出」の受理後、同年6月13日から現地での調査作業を開始した。さらに6月20日に作業員募集に伴う説明会を畑田遺跡現場事務所で実施した。

着手開始の地区順に発掘作業の経過を記載する。

A区1面：調査担当は三島、基峰で発掘作業を行った。6月13日からバックホーを使用して表土層の上層に敷きつめられた盛土部分のコンクリートブロック塀の撤去作業を開始した。6月19日からバックホーを使用して盛土除去作業を実施し、盛土除去後の6月26日からバックホーを使用して表土

層の掘削作業を開始し、7月8日から作業員による包含層掘削・遺構検出作業を始めた。表土掘削作業と並行して実施した遺構検出後に10mグリッド杭を設置し、調査区の中央を7月19日、東側を7月22日、西側を7月23日にUAVを使用して遺構検出面の空中写真撮影を行い、7月23日から遺構の掘り下げ、図面作成・土色観察・写真撮影・測量などの記録、遺物取り上げなどの作業を実施した。東側を中心に中世の区画溝(屋敷溝)などが見つかり、山茶碗・天目茶碗などの遺物が出土した。また、西から南東に延びる旧河道(NR001)が確認できた。遺構完掘と測量などの記録作業の終了後、調査区の全体を対象に9月6日にUAVによる空中写真撮影を行った。監理担当者による発掘作業完了の確認は、調査区の東側が9月5日、西側が9月6日に行われた。9月6日に調査終了した。

C区1面：調査担当は三島、阿部で発掘作業を行った。C区の西側を対象に7月31日からバックホーを使用して表土層の掘削作業を開始し、9月9日から作業員による包含層掘削・遺構検出作業を始めた。表土掘削作業と並行して実施した遺構検出後に10mグリッド杭を設置し、9月11日から遺構の掘り下げ、図面作成・土色観察・写真撮影・測量などの記録、遺物取り上げなどの作業を実施した。中世以降の溝などが見つかり、山茶碗・陶器・磁器・土錘などの遺物が出土した。遺構完掘と測量などの記録作業の終了後、調査区の西側・南側を9月20日、東側を10月17日にUAVによる空中写真撮影を行った。監理担当者による発掘作業完了の確認は、調査区の西側・南側が9月24日、東側が10月18日に行われた。10月18日に調査終了し、調査面積は275.1㎡となった。

A区2面：調査担当は三島、阿部で発掘作業を行った。1面調査終了後、9月9日からバックホーを使用して2面の遺構検出のための包含層の掘削作業を開始し、9月24日から作業員による包含層掘削・遺構検出作業を始めた。10月1日から遺構の掘り下げ、図面作成・土色観察・写真撮影・測量などの記録、遺物取り上げなどの作業を実施した。東側を中心に中世以前の溝などが見つかり、弥生土器・須恵器・土師器などの遺物が出土した。また、1面から続く旧河道(NR001)が確認できた。遺構完掘と測量などの記録作業の終了後、調査区全体を対象に10月15日にUAVによる空中写真撮影を行った。監理担当者による発掘作業完了の確認は、調査区全体を対象に10月16日に行われた。補足作業を行い10月17日に調査終了した。

C区2面：調査担当は三島、阿部で発掘作業を行った。1面調査終了後、西側を9月24日、東側・南側を10月18日からバックホーを使用して2面の遺構検出のための包含層の掘削作業を開始し、調査区西側を9月26日から作業員による包含層掘削・遺構検出作業を始めた。同日中に図面作成・土色観察・写真撮影・測量などの記録作業を実施し、測量などの記録作業の終了後、西側を9月26日にUAVによる空中写真撮影を行った。調査区の東側・南側を10月22日から作業員による包含層掘削・遺構検出作業を始めた。10月24日から遺構の掘り下げ、図面作成・土色観察・写真撮影・測量などの記録、遺物取り上げと土壌試料採取などの作業を実施した。溝などが見つかり、弥生土器・須恵器・土師器などの遺物が出土した。遺構完掘と測量などの記録作業の終了後、調査区の東側・南側を10月25日にUAVによる空中写真撮影を行った。監理担当者による発掘作業完了の確認は、西側を9月26日、東側・南側を10月29日に行われた。10月29日に調査終了し、調査面積は340㎡となった。

B区1面：調査担当は三島、基峰で発掘作業を行った。11月6日からバックホーを使用してコンクリート堀、コンクリート杭の撤去作業を開始し、11月7日から表土層の掘削作業と並行して作業員による包含層掘削・遺構検出作業を始めた。調査区西側を11月8日にUAVによる遺構検出面の空中写真撮影を行い、11月11日から遺構の掘り下げ、図面作成・土色観察・写真撮影・測量などの記録、遺物取り上げなどの作業を実施した。東側を中心に中世以降の区画溝(屋敷溝)などが見つかり、山茶碗・陶器などの遺物が出土した。遺構完掘と測量などの記録作業の終了後、調査区の西側を11月20日、

東側を11月26日にUAVによる空中写真撮影を行った。監理担当者による発掘作業完了の確認は、調査区の西側が11月20日、東側が11月29日に行われた。補足作業を行い12月2日に調査終了し、A区・B区の調査面積は3025.9㎡となった。

B区2面：調査担当は三島、基峰で発掘作業を行った。1面調査終了後、B区の西側を対象に11月20日からバックホーを使用して2面の遺構検出のための包含層の掘削作業を開始し、11月21日から作業員による包含層掘削・遺構検出作業を始めた。11月25日から遺構の掘り下げ、図面作成・土色観察・写真撮影・測量などの記録、遺物取り上げと土壌試料採取などの作業を実施した。平安時代の竪穴建物(SI045)などが見つかり、弥生土器・須恵器・土師器などの遺物が出土した。遺構完掘と測量などの記録作業の終了後、調査区の西側を11月26日、東側を12月6日にUAVによる空中写真撮影を行った。監理担当者による発掘作業完了の確認は、調査区の西側を11月29日、東側を12月6日に行われた。12月6日に調査終了し、A区・B区の調査面積は3025.9㎡となった。

A～C区全ての調査を12月6日までに終了し、全ての調査区での調査面積は1・2面あわせて6,602㎡となった。調査終了後、埋め戻し作業を実施し、12月26日に完了した。

現地説明会：一般を対象にした調査成果の報告として、12月1日の13時30分～15時にかけて現地説明会を開催した。B区1面の区画溝(屋敷溝)などの中世以降を中心とした遺構の調査成果と出土遺物を公開し、見学者は164人であった。

整理作業：整理担当は三島、基峰で整理作業を行った。発掘調査の終了後、発掘作業による図面・写真などの記録類、コンテナ35箱相当の出土遺物の整理作業を開始した。図面の整理は平面・断面図の整合・図化などを行い、遺物の整理作業は洗浄・注記後に遺構出土のもので特徴的なものと全体の器形などがわかるものを優先して抽出し、接合・実測・観察・図化した。遺物写真はデジタルカメラを使用して、図化したものを優先して撮影した。

土壌試料採取したものについて、株式会社パレオ・ラボ東海支店に依頼して、自然科学分析作業を実施した。

報告書の遺構・遺物の実測図版と写真図版、遺物観察表などの作成と並行して原稿執筆・編集作業を行い、令和8年3月17日に本書を刊行した。整理作業と並行して発掘・整理など作業の成果品を作成し、業務を完了した。

(三島)

発掘作業日誌抄

令和6年

〔5月〕

13日：発掘調査の準備開始。

〔6月〕

13日：発掘作業の開始。

A区1面、バックホーでの表土層上層盛土部分のコンクリート土留め板撤去作業の開始。

19日：A区1面、バックホーでの表土層上面盛土掘削作業の開始。

26日：A区1面、バックホーでの表土層掘削作業の開始。

〔7月〕

8日：A区1面、作業員による包含層掘削・遺構検出作業の開始。

19日：A区1面、中央の遺構検出作業終了、遺構検出面空中写真撮影。

22日：A区1面、東側の遺構検出作業終了、遺構検出面空中写真撮影。

23日：A区1面、西側の遺構検出作業終了、遺構検出面空中写真撮影。遺構掘り下げ・写真・測量など作業の開始。

31日：C区1面、バックホーでの西側の表土層掘削作業の開始。

〔8月〕

13～16日：お盆での作業休止。

19日：作業の再開。

21日：A区1面、遺構完掘・写真・測量など記録作業の終了。

〔9月〕

5日：A区1面、東側の発掘作業完了確認（市教委）。

6日：A区1面、西側の発掘作業完了確認（市教委）。

A区1面、遺構完掘空中写真撮影。

A区1面、調査終了。

9日：A区2面、バックホーでの包含層掘削作業の開始。

C区1面、作業員による包含層掘削・遺構検出作業の開始。

10日：C区1面、西側・南側の遺構検出作業の終了。

11日：C区1面、遺構掘り下げ・写真・測量など作業の開始。

20日：C区1面、西側・南側の遺構完掘・写真・測量など作業の終了、遺構完掘空中写真撮影。

24日：C区1面、西側・南側の発掘作業完了確認（市教委）。

C区2面、バックホーでの西側の包含層掘削作業の開始。

A区2面、作業員による遺構検出作業の開始。

25日：C区2面、作業員による西側の遺構検出作業の開始。遺構検出作業終了、写真・測量など記録作業の終了。

26日：C区2面、西側の遺構完掘空中写真撮影。

C区2面、西側の発掘作業完了確認（市教委）。

30日：C区1面、バックホーでの東側の表土層掘削作業の開始。

〔10月〕

1日：A区2面、遺構検出作業終了、遺構掘り下げ・写真・測量など作業の開始。

2日：C区1面、作業員による東側の包含層掘削・遺構検出作業の開始。

11日：C区1面、東側の遺構検出作業終了。

15日：A区2面、遺構完掘・写真・測量など記録作業の終了、遺構完掘空中写真撮影。

16日：A区2面、発掘作業完了確認（市教委）。

C区1面、東側の遺構掘り下げ・写真・測量など作業の開始。

17日：A区2面、調査終了。

C区1面、東側の遺構完掘・写真・測量など記録作業の終了、遺構完掘空中写真撮影。

18日：C区1面、東側の発掘作業完了確認（市教委）。

C区1面、調査終了。

C区2面、バックホーでの南側・東側の包含層掘削作業の開始。

22日：C区2面、作業員による遺構検出作業の開始。

24日：C区2面、遺構掘り下げ・写真・測量など作業の開始。

25日：C区2面、東側・南側の遺構完掘・写真・測量など作業終了、遺構完掘空中写真撮影。

29日：C区2面、東側・南側の発掘作業完了確認（市教委）。

C区2面、調査終了。

〔11月〕

6日：B区1面、コンクリート堀、コンクリート杭の撤去作業の開始。

7日：B区1面、バックホーでの表土掘削作業の開始、作業員による包含層掘削・遺構検出作業の開始。

7日：B区1面、東側の遺構検出作業終了、遺構検出面空中写真撮影。

11日：B区1面、東側の遺構検出終了、遺構掘り下げ・写真・測量など作業の開始。

20日：B区1面、西側の遺構完掘・写真・測量など作業終了、遺構完掘空中写真撮影。

B区1面、西側の発掘作業完了確認（市教委）

B区2面、バックホーでの西側の包含層掘削作業の開始。

21日：B区2面、作業員による西側の遺構検出作業の開始。

22日：B区1面、東側の遺構完掘・写真・測量など作業終了。

B区2面、西側の遺構検出作業終了、遺構掘り下げ・写真・測量など作業の開始。

25日：B区2面、東側の遺構完掘・写真・測量など作業終了。

26日：B区1面、東側の遺構完掘空中写真撮影。

B区2面、西側の遺構完掘空中写真撮影。

29日：B区1面、東側の発掘作業完了確認（市教委）。

B区2面、西側の発掘作業完了確認（市教委）。

〔12月〕

1日：現地説明会の開催（見学者164人）。

2日：B区2面、バックホーでの東側の掘削作業の開始。

3日：B区2面、作業員による東側の遺構検出作業の開始。

4日：B区2面、東側の遺構検出終了、遺構掘り下げ・写真・測量など作業の開始。

6日：B区2面、東側の遺構完掘・写真・測量など作業終了、遺構完掘空中写真撮影。

B区2面、東側の発掘作業完了確認（市教委）。

B区2面、調査終了。

A～C区全ての発掘作業完了（面積6,602㎡）。

26日：埋め戻し作業の終了。

令和7年

〔1月〕

15日：仮設物等の撤去・搬出、残務作業の終了。

（三島）

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地形(第1図)

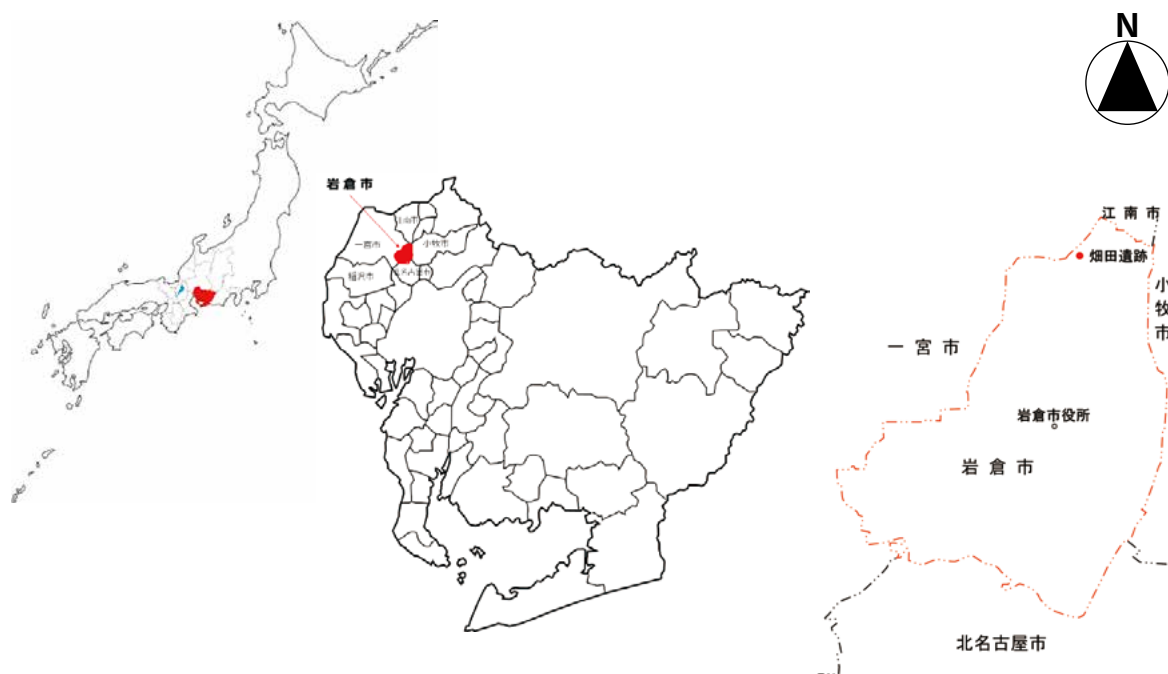
畑田遺跡が所在する岩倉市は、愛知県北西部の木曾川・長良川・揖斐川によって形成された濃尾平野の中央に位置する。この濃尾平野は、総面積約1,800km²を有する国内有数の沖積平野である（第1図）。

濃尾平野の中でも木曾川左岸の愛知県側に広がる平野は尾張平野と呼ばれ、その地形は上流から国宝犬山城付近を扇頂とする扇状地、自然堤防と後背湿地から成る氾濫平野、河口付近の三角州低地と区分されている。

岩倉市の地形は、犬山扇状地南限の末端部とそこから広がる氾濫平野上に位置し、北部の井上町付近は標高約13m、市役所がある中央部の栄町・本町付近は標高約8m、南西部の野寄町付近は標高約7mとほぼ平坦であり、市域全体は北東から南西方向に向かって緩やかに傾斜している。

畑田遺跡は井上町に位置し、旧河道によって形成された平地の中に所在する。そして、遺跡の西方には一級河川の五条川が北から南へ流れている。

(平松)



第1図 畑田遺跡位置図

第2節 歴史的環境（第2図・第3図、第1表・第2表）

畑田遺跡周辺と岩倉市の遺跡について概観する。尾張平野の肥沃な土地に恵まれた岩倉市には、縄文時代から近世にいたる64遺跡が存在する。

また、岩倉市周辺の遺跡として、大口町4遺跡、江南市5遺跡、小牧市20遺跡、一宮市22遺跡、北名古屋市12遺跡も併せて遺跡分布図に記載した（第2図、第3図、第1表、第2表）。

（1）縄文時代の遺跡

縄文時代の遺跡は、岩倉市内に10遺跡が存在する。市内において最も古い遺跡は縄文時代中期の遺跡で、川井町に所在するノンベ遺跡(22)と大地町に所在する野辺遺跡(21)がある。ノンベ遺跡からは、県内では主に犬山扇状地内の遺跡で確認される加曽利E式の土器片と石皿・磨り石が出土し、野辺遺跡からは石鏃・剥片が出土している。

縄文時代後期の遺跡は、大地新町に所在する西北出(A)遺跡(19)で、この遺跡からは大量の土器片の他に、石斧・石鏃・石皿・磨り石と堅果類の貯蔵穴が確認されている。

また、市南部の野寄町から北島町にかけて所在する権現山遺跡(61)では、古くからこの地に人々が定住し集落を営んでいた痕跡として、十数棟の堅穴建物が確認されている。

畑田遺跡周辺では、当遺跡から南東約160mに八剣遺跡(37)が所在する。この遺跡からは、縄文時代晩期から弥生時代初期に、中部地方に広く分布する条痕文を有する土器片が出土している。

（2）弥生時代の遺跡

弥生時代の遺跡は、岩倉市内に32遺跡が存在する。弥生時代前期の遺跡は、ノンベ遺跡と野辺遺跡で、ノンベ遺跡では遠賀川式土器が出土し、野辺遺跡では用水路と排水路の遺構が確認されている。

弥生時代中期の遺跡は、大地町に所在する大地遺跡(59)で、県の文化財に指定されている大地式土器が出土し、全国的にも珍しい6本の主柱を有する堅穴住居が確認され、県の史跡に指定されている。

弥生時代後期の遺跡は、曾野町に所在する曾野遺跡(45)で、完形品の丹彩台付壺型土器は、市指定文化財に指定されている。

畑田遺跡周辺では、縄文時代と同様に八剣遺跡が存在する。また、当遺跡から南南西約450mに長福寺遺跡(3)が所在する。

（3）古墳時代の遺跡

古墳時代の遺跡は、当遺跡も含め岩倉市内に34遺跡が存在し、この内8遺跡が古墳である。

古墳時代前期の遺跡は、大地新町に所在する西北出(B)遺跡(18)で、幅約1mの溝状遺構が確認されている。

古墳時代中期の遺跡は、市南部の大山寺町に西出古墳(26)が所在する。この古墳は5世紀後半に築造された方墳で、外堤が約20mで区画される。発掘調査で出土した、土師質円筒埴輪60個体・朝顔型

埴輪4個体・須恵器の高杯・蓋杯は一括して市指定文化財に指定されている。

古墳時代後期の遺跡は、井上町に所在する種畑古墳(35)、八劔町に所在する七面山古墳(36)、本町に所在する新溝古墳(64)、曾野町に所在する居屋敷古墳(46)と神清院古墳(47)、大山寺町に所在する高畑古墳(31)の6つが存在し、墳丘が残っているのは、七面山古墳、新溝古墳、神清院古墳である。

畑田遺跡周辺では、八劔遺跡、当遺跡から北東約300mに種畑古墳、南南東約250mに七面山古墳が所在する。また、当遺跡から1km圏内には、国指定史跡の二子山古墳(70)、曾本二子遺跡(71)、岩塚浦遺跡(72)、榛原遺跡(73)が所在する。これらの遺跡は、全て当遺跡の西側を南流する五条川の上流区域に所在する。

(4) 古代の遺跡

古代の遺跡は、当遺跡も含め岩倉市内に16遺跡が存在する。代表的な遺跡としては、当遺跡から南西約4kmの川井町に下田南遺跡(55)が所在する。近年の発掘調査では、確認された数多くの竪穴建物から、古墳時代から中世にかけての集落遺跡である事。また、整然と配置された掘立柱建物群・官人に関連する遺物から、官衙施設を伴う複合遺跡である事が判明した。

その他の古代の遺跡としては、下田南遺跡の東に隣接して所在する薬師堂廃寺跡(23)で、藤原宮と同范型の単弁八葉蓮華文の軒丸瓦が出土している。この軒丸瓦は、下田南遺跡からも出土しており、両遺跡の関連性が強いことを証明している。また、稲荷町に所在する御土井廃寺跡(48)は、白鳳時代の寺院跡で、鴟尾(しび)片と塼仏(せんぶつ)が確認されている。

畑田遺跡周辺では、当遺跡から南南西約350mに長福寺廃寺(94)が所在する。この遺跡からは、4種類の軒丸瓦、3種類の軒平瓦が出土している。

(5) 中世の遺跡

中世の遺跡は、岩倉市内に15遺跡が存在する。この内、下本町城址に所在する岩倉城(63)、井上町井出北に所在する井上城(60)、八劔町城屋敷に所在する八劔砦(62)の3遺跡は城館跡である。

岩倉城は、文明11年(1479年)頃に尾張守護代織田敏弘の居城として築城されたといわれ、織田伊勢守(岩倉織田氏)の本拠地になる。その後、永禄2年(1559年)に尾張南部の領袖であった織田信長によって落城したといわれている。

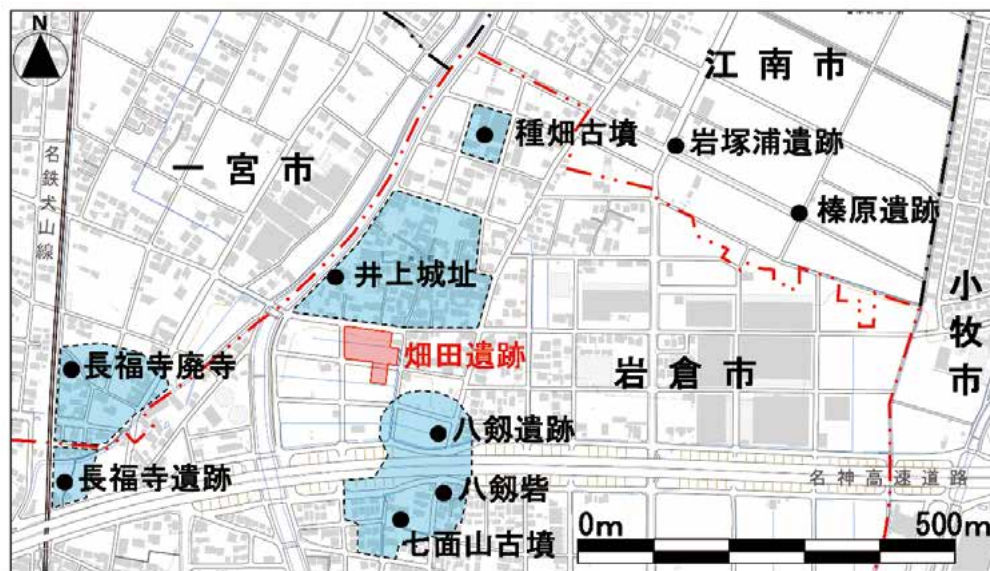
畑田遺跡周辺では、北北西約90mに井上城(60)、南東約230mに八劔砦(62)が所在する。井上城は、神明神社北側の五条川沿いに石碑と案内板が設置されている。今回の発掘調査では、当遺跡との位置関係から城館に関わる遺構・出土品を期待したが、井上城に関連する成果は得られなかった。八劔砦は、長遠寺北側に天正12年(1584年)の小牧・長久手の戦いの際に、徳川家康・織田信雄方の砦として築かれたといわれている。

井上城と八劔砦に関する史料は非常に乏しい状況で、詳細は明らかになっておらず、今後の研究が期待されている。

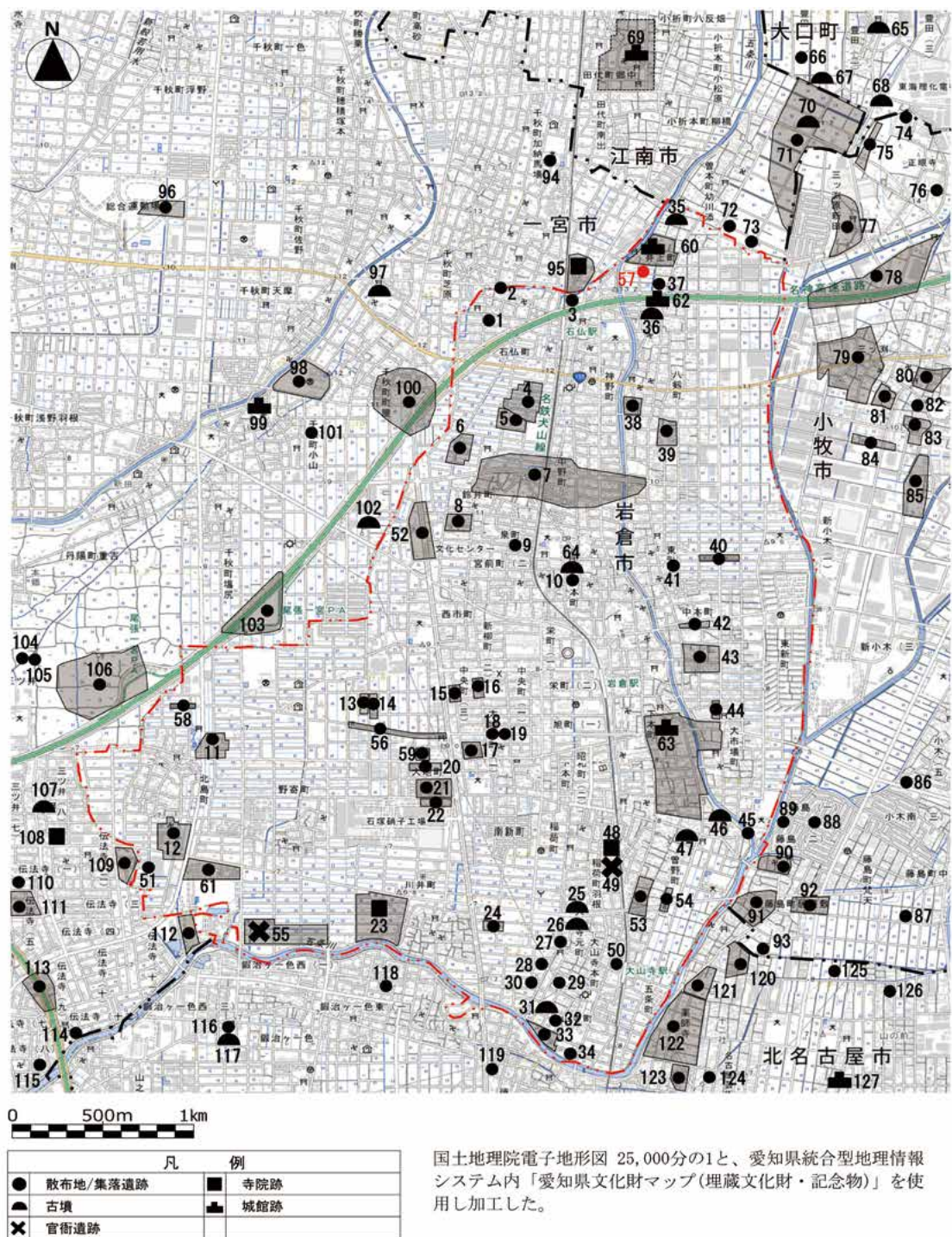
(6) 近世の遺跡

近世の遺跡になると遺跡数は激減する。市内には、石仏町・鈴井町・中野町・東町・本町と広範囲に渡って所在する御山寺遺跡(7)と北島町に所在する寺田遺跡(58)の2遺跡が存在する。

(平松)



第2図 畑田遺跡周辺の遺跡分布図



第3図 岩倉市内と周辺の遺跡分布図

番号	遺跡名（ふりがな）		所在地	種別	遺跡の時代					
					縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世
1	西広畑	にしひろはた	岩倉市	散布地		●				
2	西土門	にしどもん	岩倉市	散布地				●		
3	長福寺	ちょうふくじ	岩倉市	散布地		●				
4	梅ノ木	うめのき	岩倉市	散布地			●			
5	岩塚	いわづか	岩倉市	散布地		●				
6	立切	たちきり	岩倉市	散布地		●		●		
7	御山寺	ごさんじ	岩倉市	散布地	●	●	●	●	●	●
8	法成寺	ほうせいじ	岩倉市	散布地		●				
9	天神	てんじん	岩倉市	散布地			●			
10	宮東	みやひがし	岩倉市	散布地		●				
11	西道海戸	にしみちかいど	岩倉市	散布地		●				
12	前田	まえだ	岩倉市	散布地			●	●		
13	乾出	いぬいで	岩倉市	散布地		●		●		
14	穴田	あなだ	岩倉市	散布地	●	●				
15	西町畑	にしちょうばた	岩倉市	散布地	●	●				
16	東町畑	ひがしちょうばた	岩倉市	散布地		●				
17	伴定	ばんじょう	岩倉市	散布地	●					
18	西北出(B)	にしきたで(B)	岩倉市	散布地			●			
19	西北出(A)	にしきたで(A)	岩倉市	散布地		●	●	●		
20	葉広	はひろ	岩倉市	散布地		●	●	●		
21	野辺	のべ	岩倉市	散布地	●	●	●			
22	ノンベ	のんべ	岩倉市	散布地	●	●	●			
23	薬師堂廃寺跡	やくしどうはいじあと	岩倉市	社寺跡		●	●	●	●	
24	寺山	てらやま	岩倉市	散布地				●		
25	神宮寺古墳	じんぐうじこふん	岩倉市	古墳			●			
26	西出古墳	にしでこふん	岩倉市	古墳			●			
27	西出	にしで	岩倉市	散布地					●	
28	吸田	すいた	岩倉市	散布地			●			
29	前畑	まえはた	岩倉市	散布地			●		●	
30	石塚	いしづか	岩倉市	散布地		●				
31	高畑古墳	たかはた	岩倉市	古墳			●			
32	下流	しもながれ	岩倉市	散布地			●			
33	小森	こもり	岩倉市	散布地					●	
34	西生田	にしいくた	岩倉市	散布地		●				
35	種畑古墳	たねばたこふん	岩倉市	古墳			●			
36	七面山古墳	しちめんやまこふん	岩倉市	古墳			●			
37	八剣	やつるぎ	岩倉市	散布地	●	●	●			
38	大塚	おおつか	岩倉市	散布地		●	●			
39	東郷前	ひがしごうまえ	岩倉市	散布地		●				
40	中出口	なかでぐち	岩倉市	散布地		●				
41	白山	はくさん	岩倉市	散布地		●				
42	古市場	ふるいちば	岩倉市	散布地			●			
43	真光寺	しんこうじ	岩倉市	散布地		●				
44	天神塚	てんじんづか	岩倉市	散布地			●			
45	曾野	その	岩倉市	散布地		●	●	●		
46	居屋敷古墳	いやしきこふん	岩倉市	古墳			●			
47	神清院古墳	しんせいいるこふん	岩倉市	古墳			●			
48	御土井廃寺跡	みどいはいじあと	岩倉市	社寺跡		●	●	●	●	
49	国衙	こくが	岩倉市	官衙/散布地	●			●		
50	長畑	ながはた	岩倉市	散布地			●			
51	北島白山	きたじまはくさん	岩倉市	散布地		●				
52	下新田	しもしんでん	岩倉市	集落跡		●		●	●	
53	中街道	なかかいどう	岩倉市	散布地			●		●	
54	花ノ木	はなのき	岩倉市	散布地			●		●	
55	下田南	しもだみなみ	岩倉市	官衙/集落			●	●	●	
56	蕎麦田	そばた	岩倉市	散布地		●			●	
57	畑田	はただ	岩倉市	集落跡				●	●	●
58	寺田	てらだ	岩倉市	集落跡			●		●	●
59	大地	だいち	岩倉市	集落跡	●	●				
60	井上城	いのうえじょう	岩倉市	城館跡					●	
61	権現山	ごんげんやま	岩倉市	集落跡	●	●	●	●	●	
62	八剣砦	やつるぎとりで	岩倉市	城館跡					●	
63	岩倉城	いわくらじょう	岩倉市	城館跡					●	
64	新溝古墳	にいみぞこふん	岩倉市	古墳			●			

第1表 岩倉市内の遺跡一覧

番号	遺跡名（ふりがな）		所在地	種別	遺跡の時代					
					縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世
65	神福神社古墳	しんぶくじんじゃこふん	大口町	古墳			●			
66	平田	ひらた	大口町	散布地			●			
67	白亀塚古墳	しらかめづかこふん	大口町	古墳			●			
68	丸山古墳	まるやまこふん	大口町	古墳			●			
69	生駒屋敷（小折城）	いこまやしき(こおりじょう)	江南市	城館跡					●	●
70	二子山古墳	ふたごやまこふん	江南市	古墳			●			
71	曾本二子	そもとふたご	江南市	集落			●	●	●	●
72	岩塚浦	いわつかうら	江南市	散布地			●			
73	榛原	はいばら	江南市	散布地			●			
74	三ツ淵原雉子野	みつぶちはらきじの	小牧市	散布地					●	
75	北申塚	きたさるづか	小牧市	散布地					●	
76	三ツ淵雉子野	みつぶちきじの	小牧市	散布地			●		●	
77	日塚	ひづか	小牧市	散布地			●		●	
78	三ツ淵宮前	みつぶちみやまえ	小牧市	散布地					●	
79	手越西ノ門	てこしにしのかど	小牧市	散布地					●	
80	旦那新田	だんなしんでん	小牧市	散布地					●	
81	新租	しんそ	小牧市	散布地					●	
82	三ツ淵観音堂	みつぶちかんのんどう	小牧市	散布地					●	
83	東阿原	ひがしあはら	小牧市	散布地					●	
84	惣作	そうさく	小牧市	散布地					●	
85	上針田	かみはりだ	小牧市	散布地					●	
86	善能寺	ぜんのうじ	小牧市	散布地					●	
87	藤島町鏡池	ふじしまちょうかがみいけ	小牧市	散布地					●	
88	藤島	ふじしま	小牧市	散布地	●					
89	藤島町高畑	ふじしまちょうたかはた	小牧市	散布地					●	
90	藤島町居屋敷北	ふじしまちょういやしきた	小牧市	散布地		●	●	●	●	
91	藤島町居屋敷	ふじしまちょういやしき	小牧市	散布地		●	●	●	●	
92	藤島町五才田	ふじしまちょうごさいでん	小牧市	散布地		●	●	●	●	
93	藤島町出口	ふじしまちょうでぐち	小牧市	散布地		●	●	●	●	
94	加納馬場	かのうまんば	一宮市	散布地		●				
95	長福寺廃寺	ちょうふくじはいじ	一宮市	社寺跡				●		
96	佐野	さの	一宮市	散布地	●	●			●	
97	円長寺古墳	えんちょうじ	一宮市	古墳			●			
98	一宮南高校平松	いちのみやみなみこうこうひらまつ	一宮市	集落/散布地		●	●	●	●	
99	小山城	おやまじょう	一宮市	城館跡					●	
100	町屋	まちや	一宮市	散布地		●				
101	鹿取	かとり	一宮市	散布地		●		●		
102	蕪池	かぶらいけ	一宮市	古墳		●				
103	猫島	ねこじま	一宮市	集落跡		●	●	●	●	
104	東高龍	ひがしたかりゅう	一宮市	散布地				●		
105	飛所	とびしょ	一宮市	散布地				●		
106	三ツ井	みつい	一宮市	集落/散布地	●	●	●	●	●	
107	稲荷山古墳	いなりやまこふん	一宮市	古墳			●			
108	伝法寺廃寺	でんぼうじはいじ	一宮市	集落/社寺跡				●		
109	元屋敷	もとやしき	一宮市	集落跡		●	●		●	
110	飯守神	おしゃもじ	一宮市	集落/散布地		●		●	●	
111	西大門	にしだいもん	一宮市	集落跡				●	●	
112	伝法寺野田	でんぼうじのだ	一宮市	散布地/その他		●	●	●	●	●
113	伝法寺本郷	でんぼうじほんごう	一宮市	散布地/その他			●	●	●	●
114	五輪ヶ淵	ごりんがふち	一宮市	散布地				●	●	
115	寺跡	てらあと	一宮市	散布地						●
116	高塚南	たかつかみなみ	北名古屋市	集落跡			●		●	●
117	高塚古墳	たかつかこふん	北名古屋市	古墳			●			
118	鍛冶ヶ一色	かじがいっしき	北名古屋市	散布地		●	●	●	●	
119	徳重	とくしげ	北名古屋市	散布地			●			
120	十二社	じゅうにそ	北名古屋市	散布地			●	●	●	
121	村前	むらまえ	北名古屋市	散布地		●	●	●		
122	樋口	ひぐち	北名古屋市	散布地		●	●	●	●	
123	山浦	やまうら	北名古屋市	散布地		●	●	●	●	
124	古井	こい	北名古屋市	散布地		●		●		
125	堤下	つつみした	北名古屋市	散布地	●	●				
126	六の坪	ろくのつぼ	北名古屋市	散布地	●					
127	熊之庄城	くまのしょうじょう	北名古屋市	城館跡					●	

第2表 岩倉市周辺の遺跡一覧

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法と層序（第4図～第7図）

畑田遺跡の発掘調査(調査面積6,602㎡)では、調査区域をA～C区の3地区に分割し、A区・B区に関しては反転調査を行った。

各地区では、基本として次の方法にもとづき調査を実施した。

基本グリッドは、座標軸に合わせて10m×10mのグリッドを設定した。グリッドの呼称は、調査区全ての範囲を対象に、X軸には西から東にむかって0～7までの数字、Y軸には北から南に向かってA～Iまでのアルファベットを付し、グリッド名称として使用した。

表土層及び旧表土層(基本層序Ⅰ層・Ⅰ'層・Ⅰ''層)の掘削にはバックホーを使用して、担当調査員の指示立ち会いまたは担当調査員の指示をうけた調査補助員の立ち会いのもと掘削作業を行った。遺物包含層(基本層序Ⅱ層・Ⅲ層)の上層部分の掘削作業も同様の手順で行い、バックホーを使用した掘削作業後に、スコップやジョレンなどの発掘道具を使用して、作業員による遺物包含層の下層部分の掘り下げと精査作業を行い、遺構の検出を実施した。遺構検出の際に出土した遺物は、取り上げ番号を付けてグリッドごとに取り上げを行った。

遺構検出後に、UAVを使用して遺構検出面の写真撮影を行い、遺構検出概略図を作成した。検出遺構に遺構記号と番号を付けた後、移植ゴテなどの発掘道具を使用して、作業員による遺構の掘り下げを開始した。SK(土坑)やSP(ピット)などの遺構は半截掘り下げを行った後、SD(溝)などの遺構は掘り下げ区ごとに掘り下げを行った後、一眼レフデジタルカメラ(2,000万画素以上)を使用した写真撮影と手実測にて断面図を作成し、完掘掘り下げの作業を行った。さらに、C区1面SD006・C区1面SD007のように土器・木製品がまとまって出土した遺構については、遺物の出土状況の写真撮影と詳細平面図による記録の作成後、遺物取り上げを行い、完掘を行った。

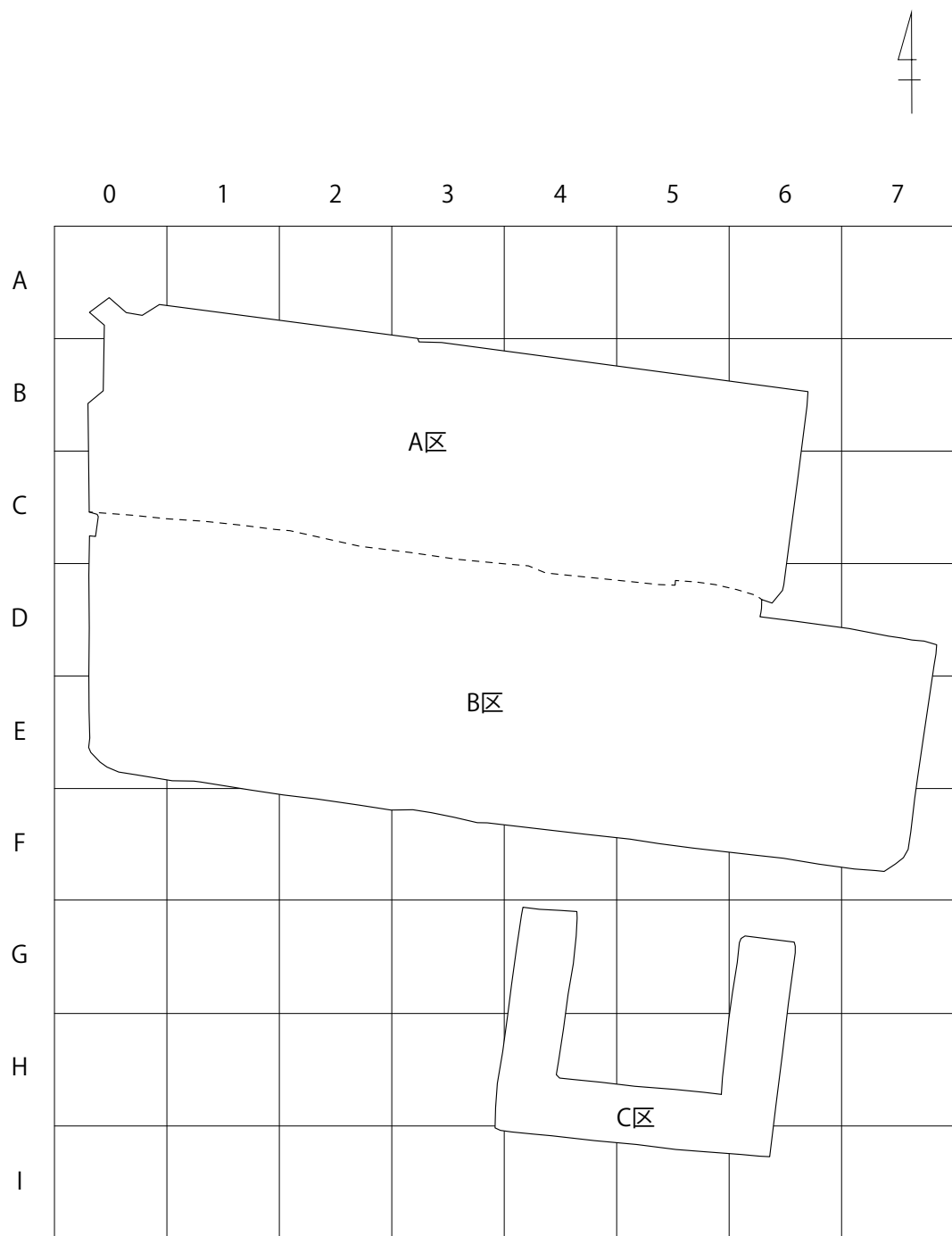
また、完掘作業と並行してトータルステーションによる測量を行い、各遺構と全体遺構平面図の作成を行った。完掘後に、UAVによる調査区全体と周辺景観を含めた写真撮影を行った。

基本層序は、B区・C区の南壁面で作成した。

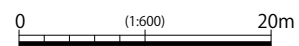
上層から順に、Ⅰ層：表土層(耕作土、7.5YR3/1：黒褐色土)、Ⅰ'層：旧表土層(旧耕作土、7.5YR2/1：黒色土)、Ⅰ''層：床土層(10YR6/6：明黄褐色土)、Ⅱ層：遺物包含層(中世～近代以降、10YR4/1：褐灰色土)、Ⅲ層：遺物包含層(弥生～中世、10YR4/3：にぶい黄褐色土)、Ⅳ層：地山層(砂質土、10YR4/2：灰黄褐色土)である。Ⅳ層下には、Ⅳ'層～Ⅵ層以上におよぶ砂質土層が厚く堆積する。

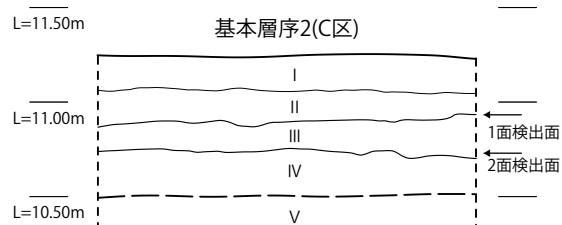
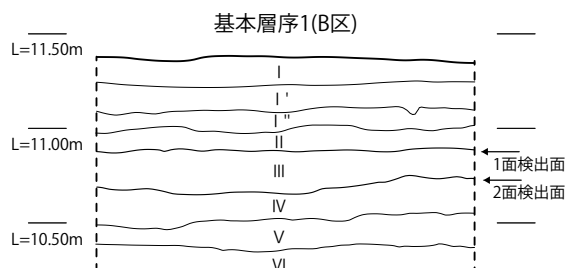
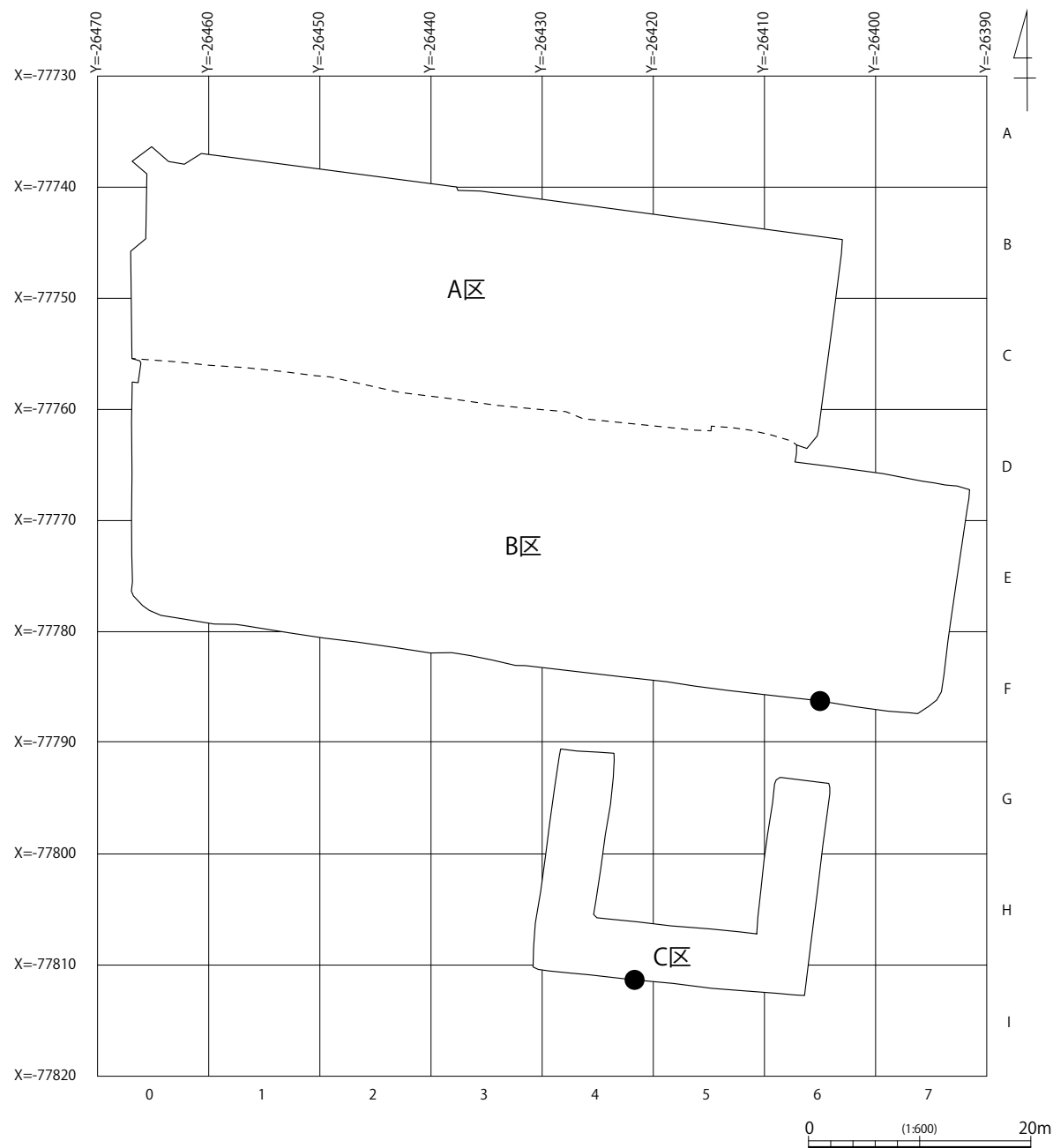
いずれの層も土質は粒子の細かい砂質土である。遺構の検出は、事前の試掘調査の結果に基づき1面調査面はⅢ層上面、2面調査面はⅣ層上面を基準として実施した。Ⅲ層に関しては、弥生時代～中世の遺物が含まれるが、遺構は中世の遺構が検出された。Ⅳ層下に堆積する地山層については、A～C区の各地区にて遺構の完掘後に掘り下げ作業を実施して確認した。

(三島)



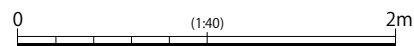
第4図 グリッド配置図



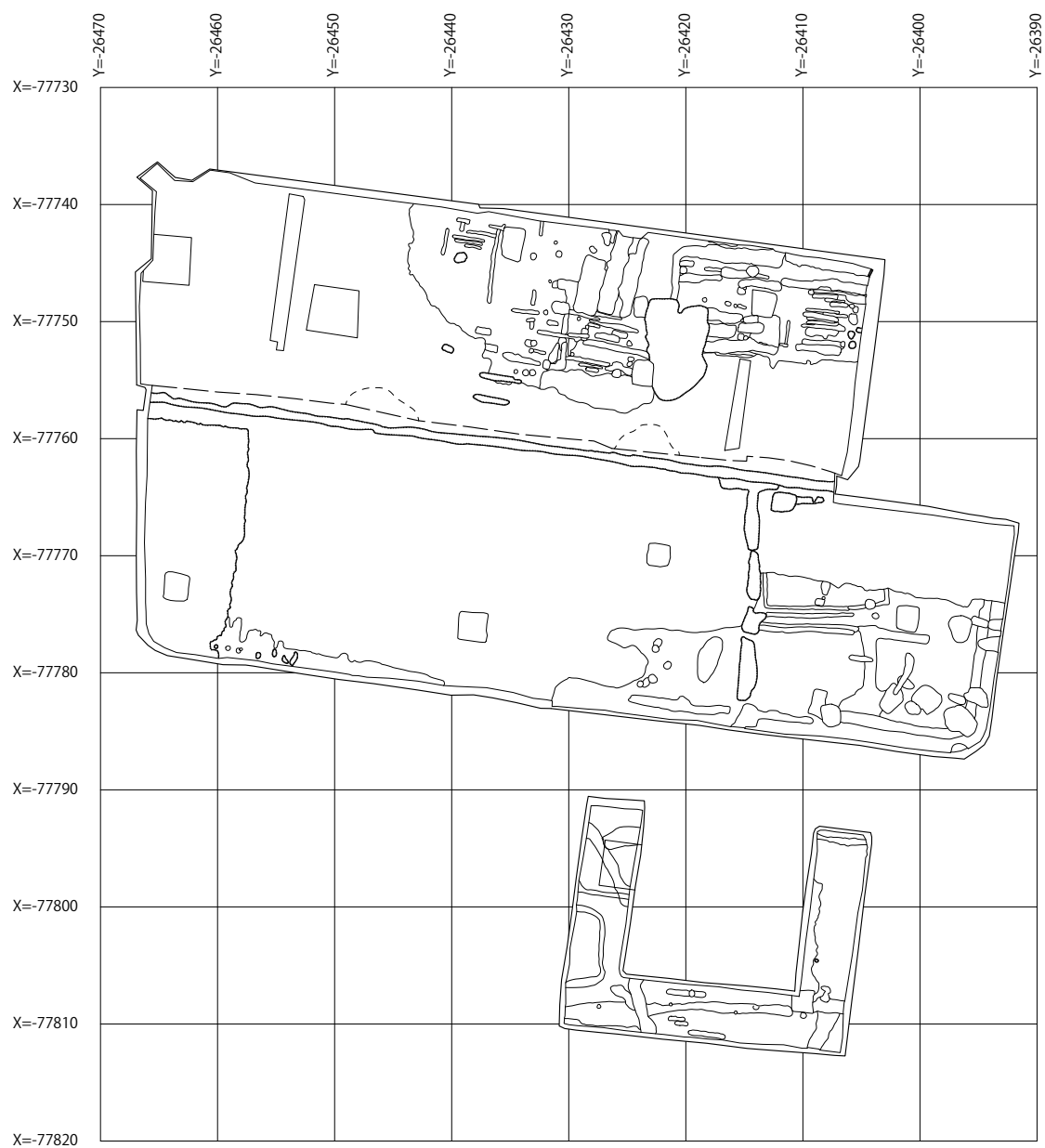


基本層序			
I	表土層(耕作土)	7.5YR3/1	黒褐色
I'	旧表土層(旧耕作土)	7.5YR2/1	黒色
I''	床土	10YR6/6	明黄褐色
II	遺物包含層	10YR4/1	褐灰色
III	遺物包含層	10YR4/3	にぶい黄褐色
IV	地山層(1a)	7.5YR4/1	褐灰色
IV'	地山層(1b)	10YR4/3	にぶい黄褐色
V	地山層(2)	10YR3/1	黒褐色
VI	地山層(3)	10YR6/3	にぶい黄褐色

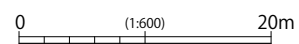
砂質土 極細粒砂を少量含む、粘性強い。
 砂質土 極細粒砂を含む、粘性あり。
 砂質土 極細粒砂を含む、粘性あり。
 砂質土 極細粒砂を含む、粘性あり。
 砂質土 極細粒砂を多量に含む、粘性あり。
 砂質土 極細粒砂を含む、粘性あり。
 砂質土 極細粒砂を含む、湧水あり、粘性あり。

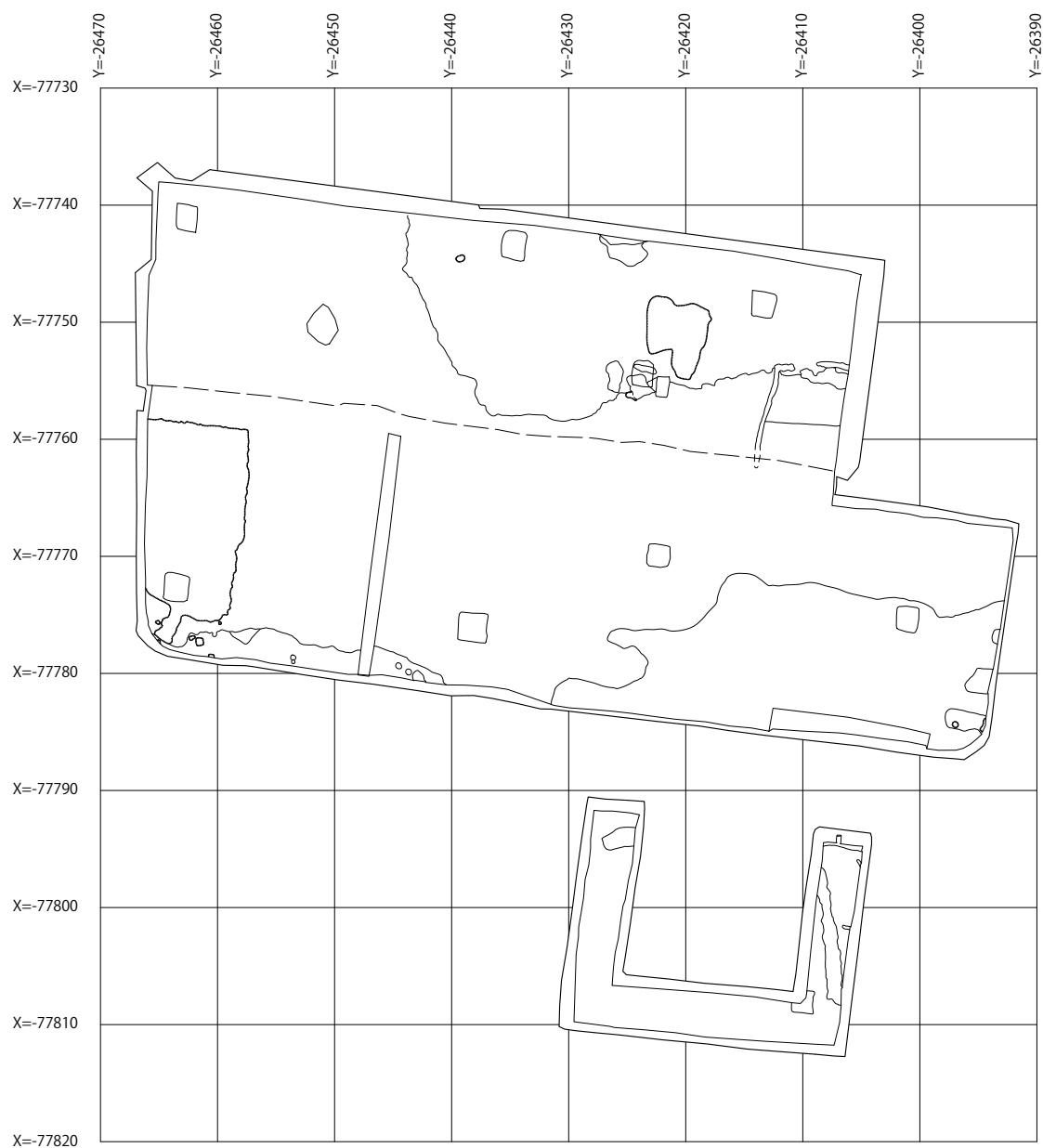


第5図 基本層序

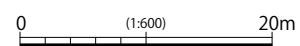


第6図 調査区全体図（1面）





第7図 調査区全体図（2面）



第2節 遺構

以下、調査区と調査面に分けて代表的な遺構の内容を記したい。

(1) A区・B区 (第8図～第20図、写真図版1～11)

① 1面(上層)

【遺構名】A区1面SD002(溝)

【位置】A区1面の東側、B4・B5グリッドに位置する。

【形状・規模】東西～南北に延びる溝で、西側は緩やかに南へ曲がり、後世の攪乱により壊されている。残存長12.57m、幅1.25m、深さ0.11mを測る。

【堆積土】炭化物を含む黒色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】灰釉陶器瓶の胴部～底部が出土した。(第28図2)

【時期】層位から14～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】形状と時期から判断して、屋敷を囲む方形の屋敷溝であった可能性が高い。SD003と一体の溝であったと思われる。

【遺構名】A区1面SD003(溝)

【位置】A区1面の東側北隅、B5・B6グリッドに位置し、調査区外(北と東)へ延びる。

【形状・規模】東西に延びる溝で、北側と東側は調査区外へ続く。残存長7.50m、残存幅0.90m、深さ0.10mを測る。

【堆積土】炭化物を含む黒色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】弥生土器・須恵器・土師器が出土した。(第28図3～5)

【時期】層位から14～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】形状と時期から判断して、屋敷を囲む方形の屋敷溝であった可能性が高い。SD002と一体の溝であったと思われる。

【遺構名】A区1面SD039(溝)

【位置】A区1面の南側、C5グリッドに位置する。

【形状・規模】東西に延びる溝で、西側は後世の攪乱により壊されている。残存長6.18m、幅1.00m、深さ0.14mを測る。

【堆積土】炭化物を含む黒色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】須恵器・山茶碗・陶器が出土した。(第28図11～13)

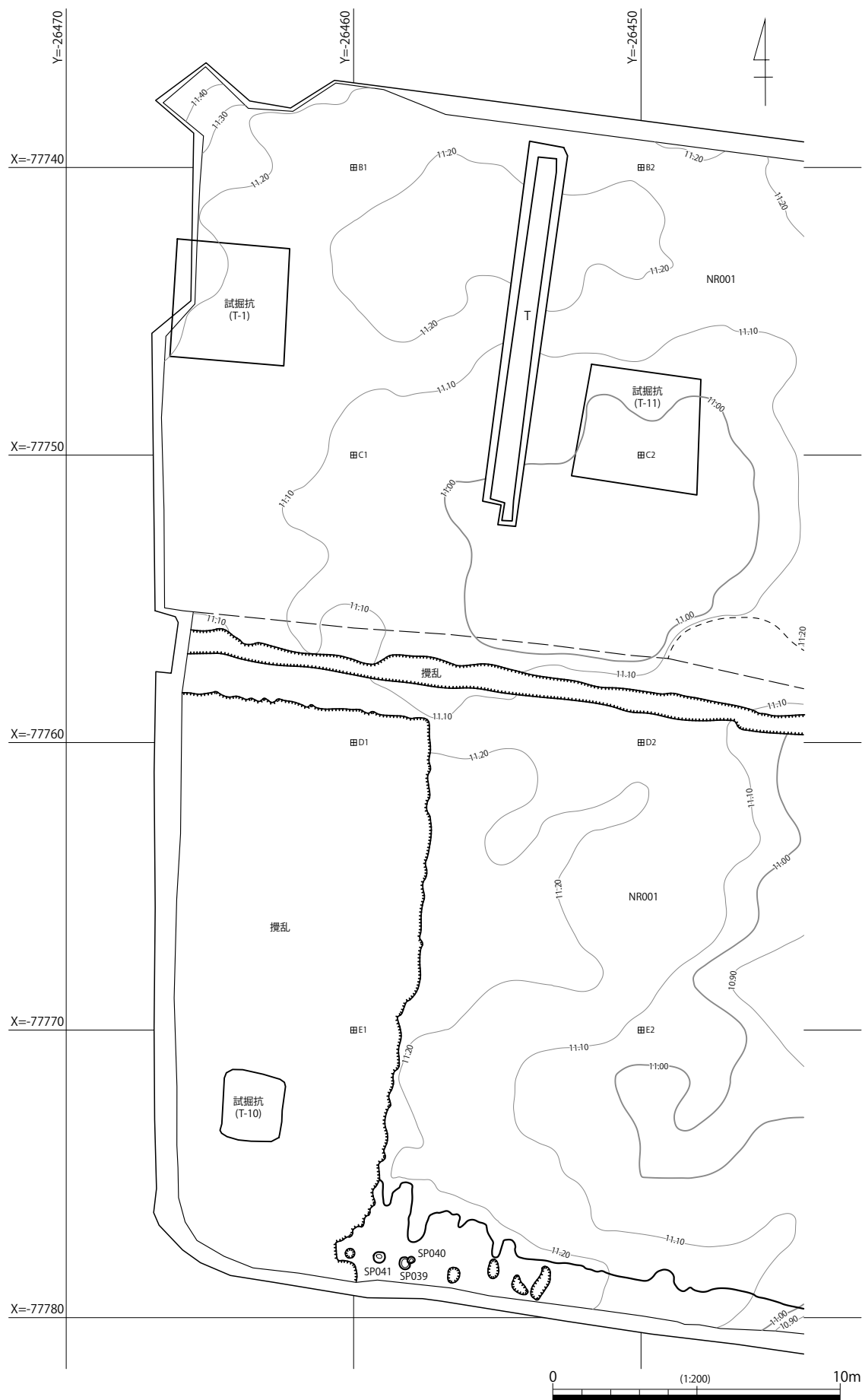
【時期】層位から14～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】形状と時期から判断して、屋敷を囲む方形の屋敷溝の一部であった可能性が高い。

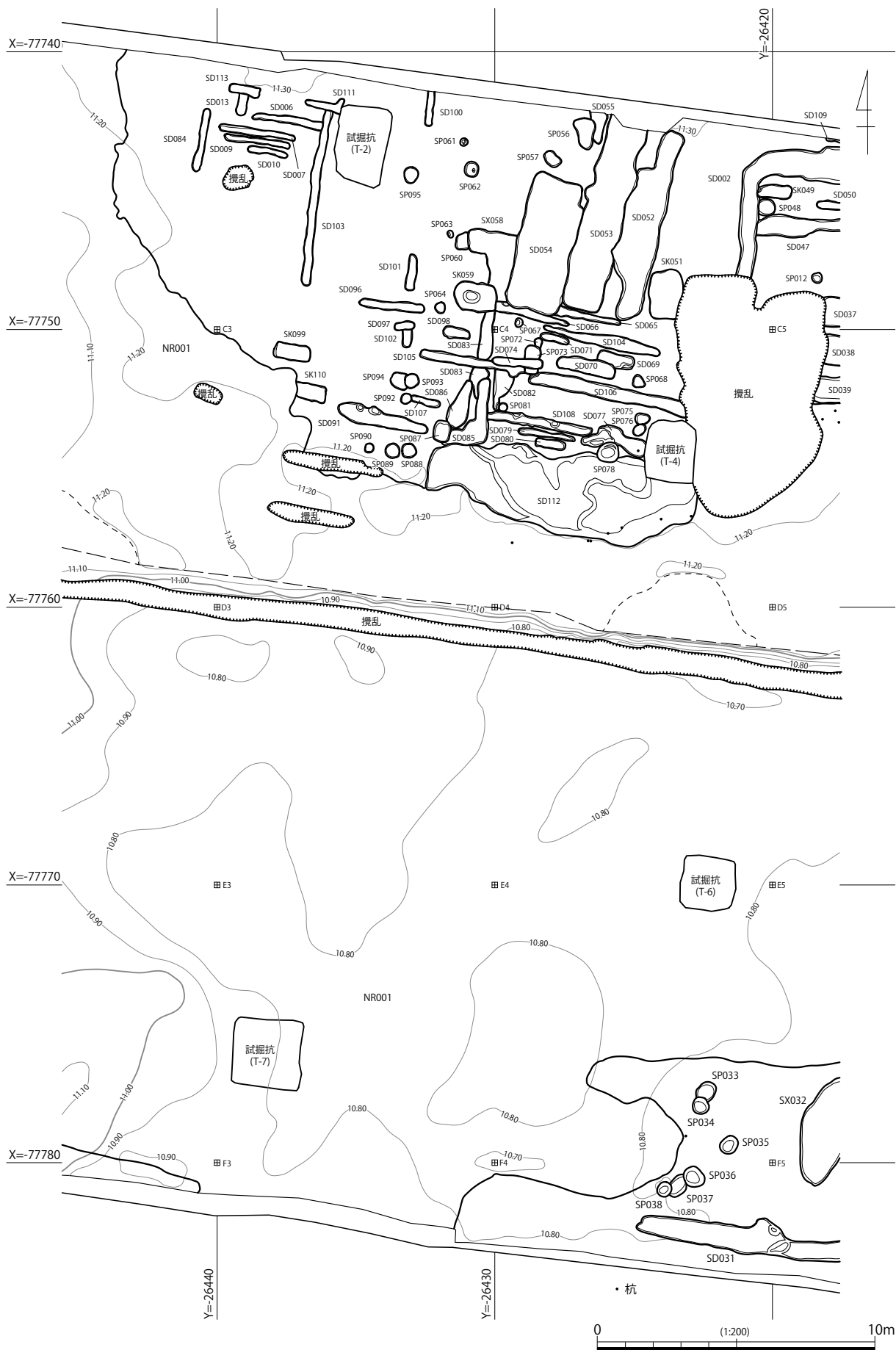
【遺構名】A区1面SD100・A区1面SD101・A区1面SD102(溝)

【位置】A区1面の中央付近北側、B3・C3グリッドに位置し、SD100は調査区外(北)へ延びる。

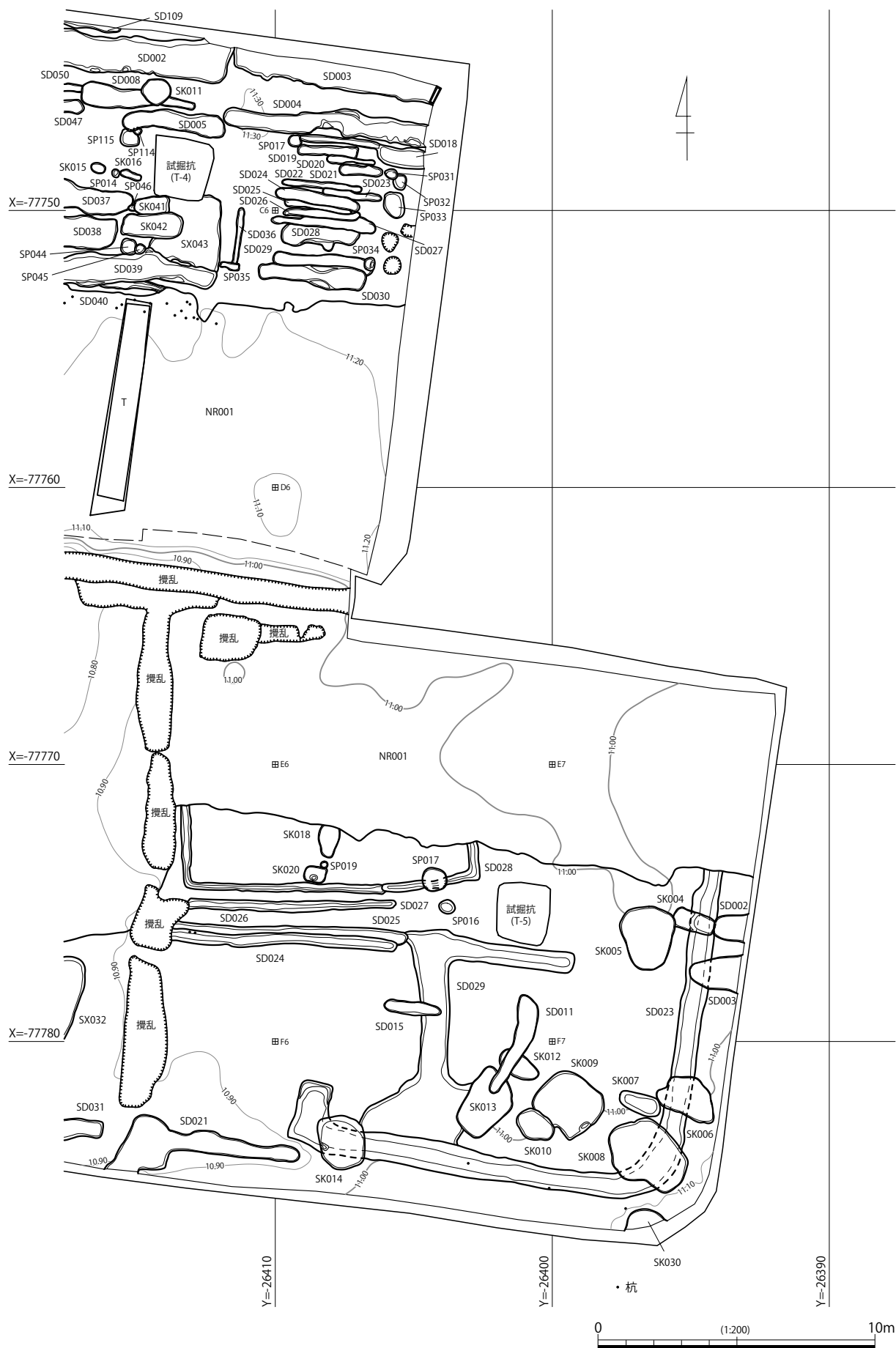
【形状・規模】南北方向に延びる溝で、SD100～SD102は一体の溝であったと思われる。SD100～



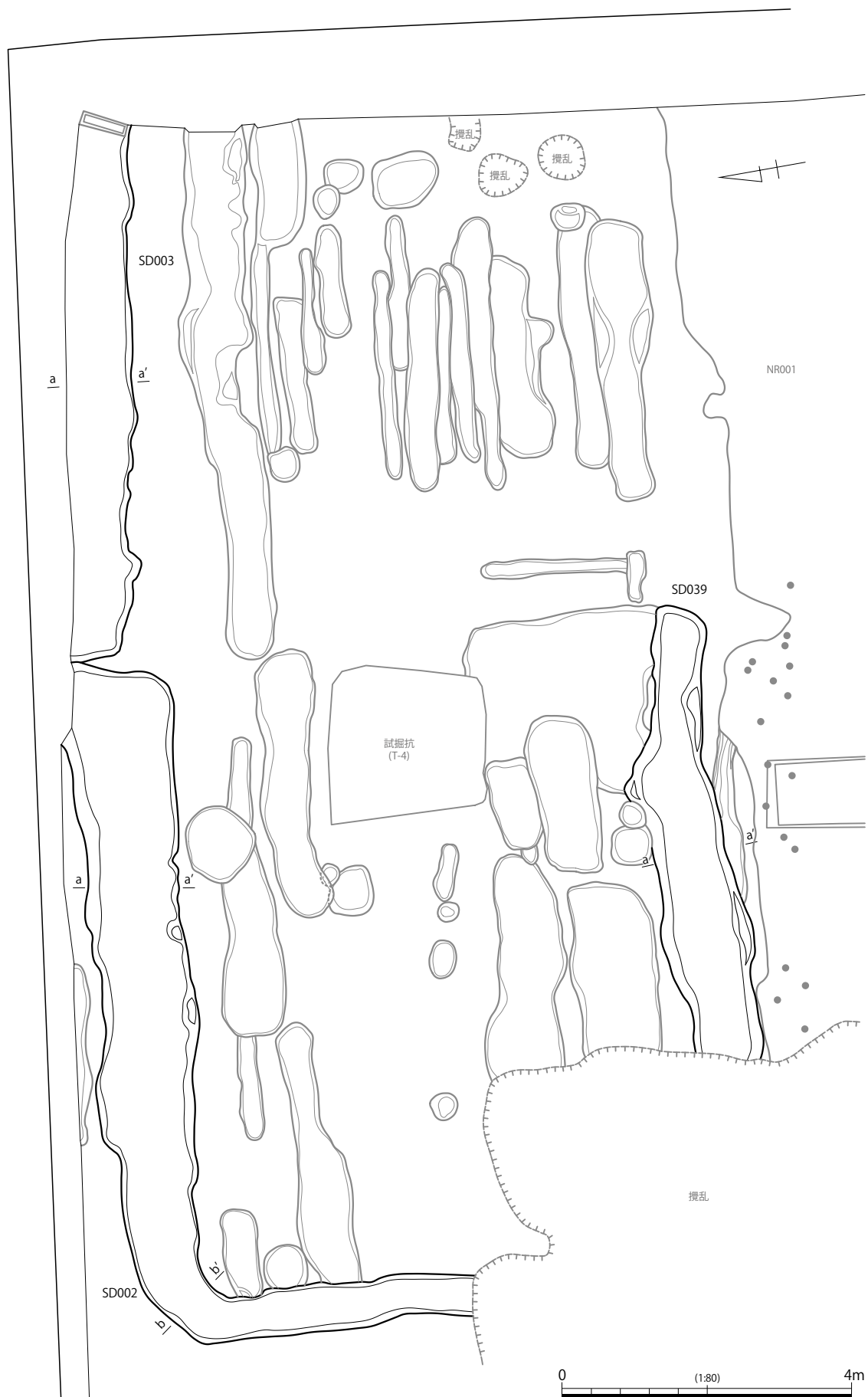
第8図 A区1面・B区1面 遺構位置図1



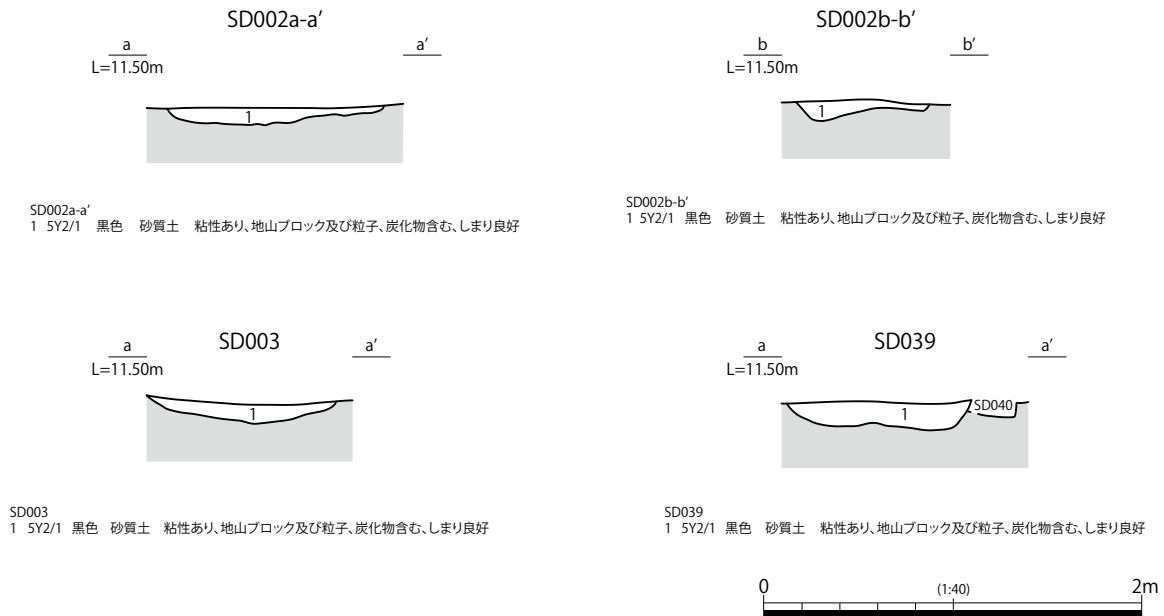
第9図 A区1面・B区1面 遺構位置図2



第10図 A区1面・B区1面 遺構位置図3



第11図 A区1面 SD002・SD003・SD039① 遺構図



第12図 A区1面 SD002・SD003・SD039② 遺構図

SD102が1条の溝と想定すると、残存長9.26m、幅0.28～0.38m、深さ0.02～0.04mを測る。いずれも深さが浅く溝の底部のみが残存する。

【堆積土】炭化物を含む黒色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】出土遺物なし。

【時期】層位や周辺遺構などから14～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】西に隣接するSD103と一緒に並行して延びる形状から、用水路と道路状側溝の役割を兼ねていた溝の一部と考えられるが、1面調査の段階では既に上層面が無くなっていたことからSD101とSD103の間に波板状凹凸面(圧痕)を確認することはできなかった。また、東側に同様に並行して延びる2条の溝があることから一連の道路状遺構であった可能性が高い。

【遺構名】A区1面SD103(溝)

【位置】A区1面の中央付近北側、B3グリッドに位置する。

【形状・規模】南北方向に延びる溝で、残存長6.42m、幅0.29m、深さ0.03mを測る。東に並行するSD101との溝間は平坦で、距離は中心軸で3.70m(約12尺)を測る。深さが浅く溝の底部のみが残存する。

【堆積土】炭化物を含む黒色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】土師器小片が出土した。

【時期】層位や周辺遺構などから14～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】前述同様に、1面調査の段階では既に上層面が無くなっていたことからSD101との間に波板状凹凸面(圧痕)を確認することはできなかったが、東に隣接するSD100～SD102と一緒に並行して延びる形状から、用水路と道路状側溝の役割を兼ねていた溝の一部と考えられる。また、東側に同様に並行して延びる2条の溝があることから一連の道路状遺構であった可能性が高い。

【遺構名】 A区1面SD104(溝)

【位置】 A区1面の中央付近、B4・C4グリッドに位置する。

【形状・規模】 東西方向に延びる溝で、長さ4.30m、幅0.52m、深さ0.03mを測る。南に並行して延びるSD106との距離は中心軸で1.70m(約5.6尺)、さらに南に並行して延びるSD108との距離は中心軸で3.30m(約10尺)を測る。

【堆積土】 炭化物を含む黒色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 出土遺物なし。

【時期】 層位と周辺遺構などから14～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】 南に隣接するSD106と一緒に並行して延びる形状から、SD105～SD108によって構成される道路の拡幅に伴う溝の一部と考えられる。

【遺構名】 A区1面SD0105・A区1面SD0106(溝)

【位置】 A区1面の中央付近、C3・C4グリッドに位置する。

【形状・規模】 東西方向に延びる溝で、SD105とSD106は一体の溝であったと思われる。1条の溝と想定すると、残存長9.76m、幅0.39～0.55m、深さ0.04mを測る。南に並行して延びるSD107・SD108との溝間は平坦で、SD105・SD107とSD106・SD108の双溝の距離は中心軸で1.60m(約5.2尺)を測る。

【堆積土】 炭化物を含む黒色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 須恵器・土師器・陶器の小片が出土した。

【時期】 層位と周辺遺構などから14～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】 南に隣接するSD107・SD108と一緒に並行して延びる形状から、用水路と道路状側溝の役割を兼ねていた溝の一部と考えられる。東側に屋敷溝があることから、屋敷へ続く道路であった可能性も考えられる。

【遺構名】 A区1面SD0107・A区1面SD0108(溝)

【位置】 A区1面の中央付近、C3・C4グリッドに位置する。

【形状・規模】 東西方向に延びる溝で、SD107とSD108は一体の溝であったと思われる。1条の溝と想定すると、残存長6.60m、幅0.29～0.34m、深さ0.02～0.19mを測る。南に並行して延びるSD107・SD108との溝間は平坦で、SD105・SD107とSD106・SD108の双溝の距離は中心軸で1.60m(約5.2尺)を測る。

【堆積土】 炭化物を含む黒色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 須恵器・土師器・陶器の小片が出土した。

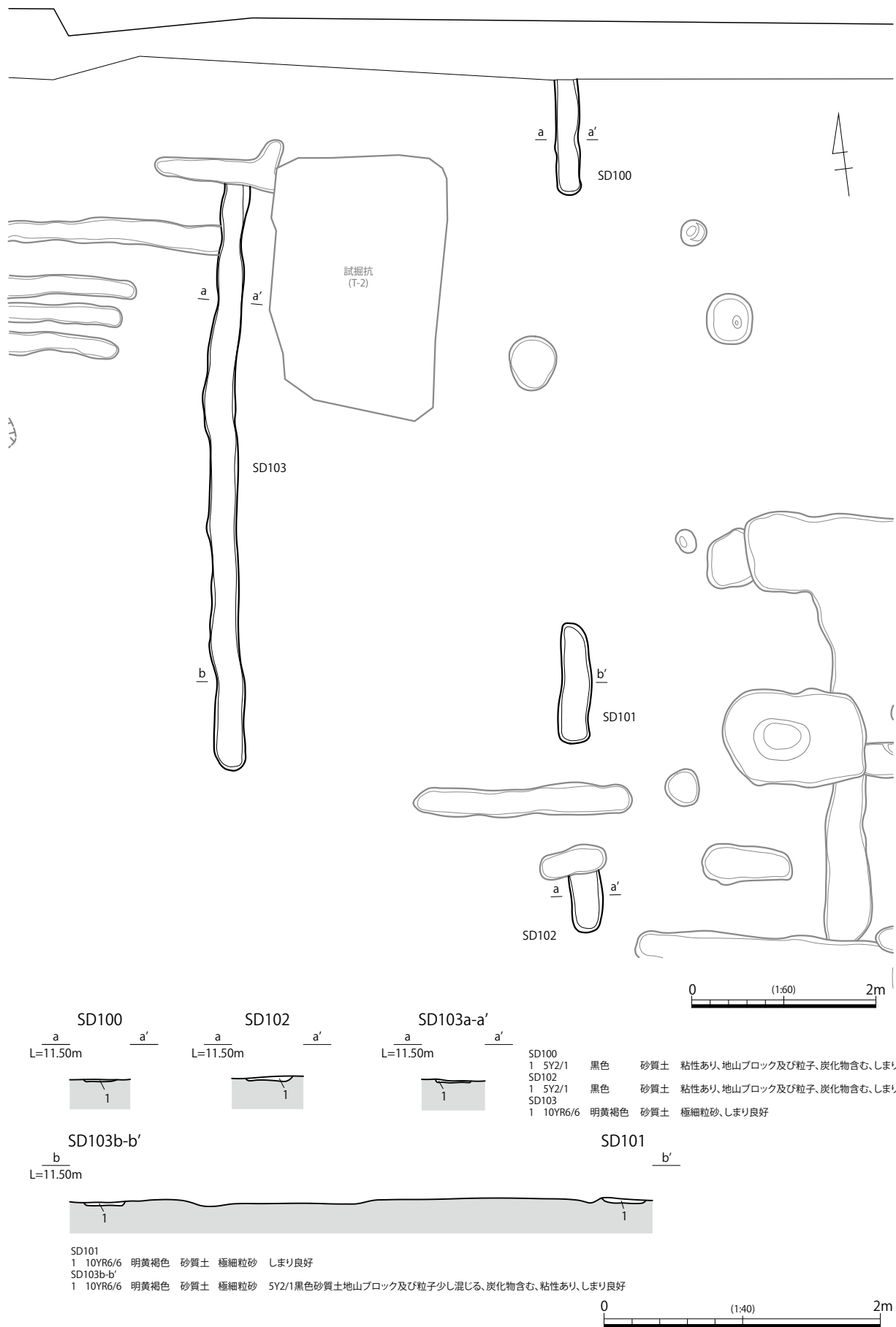
【時期】 層位と周辺遺構などから14～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】 北に隣接するSD105・SD106と一緒に並行して延びる形状から、用水路と道路状側溝の役割を兼ねていた溝の一部と考えられる。東側に屋敷溝があることから、屋敷へ続く道路であった可能性も考えられる。

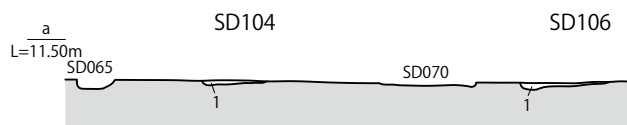
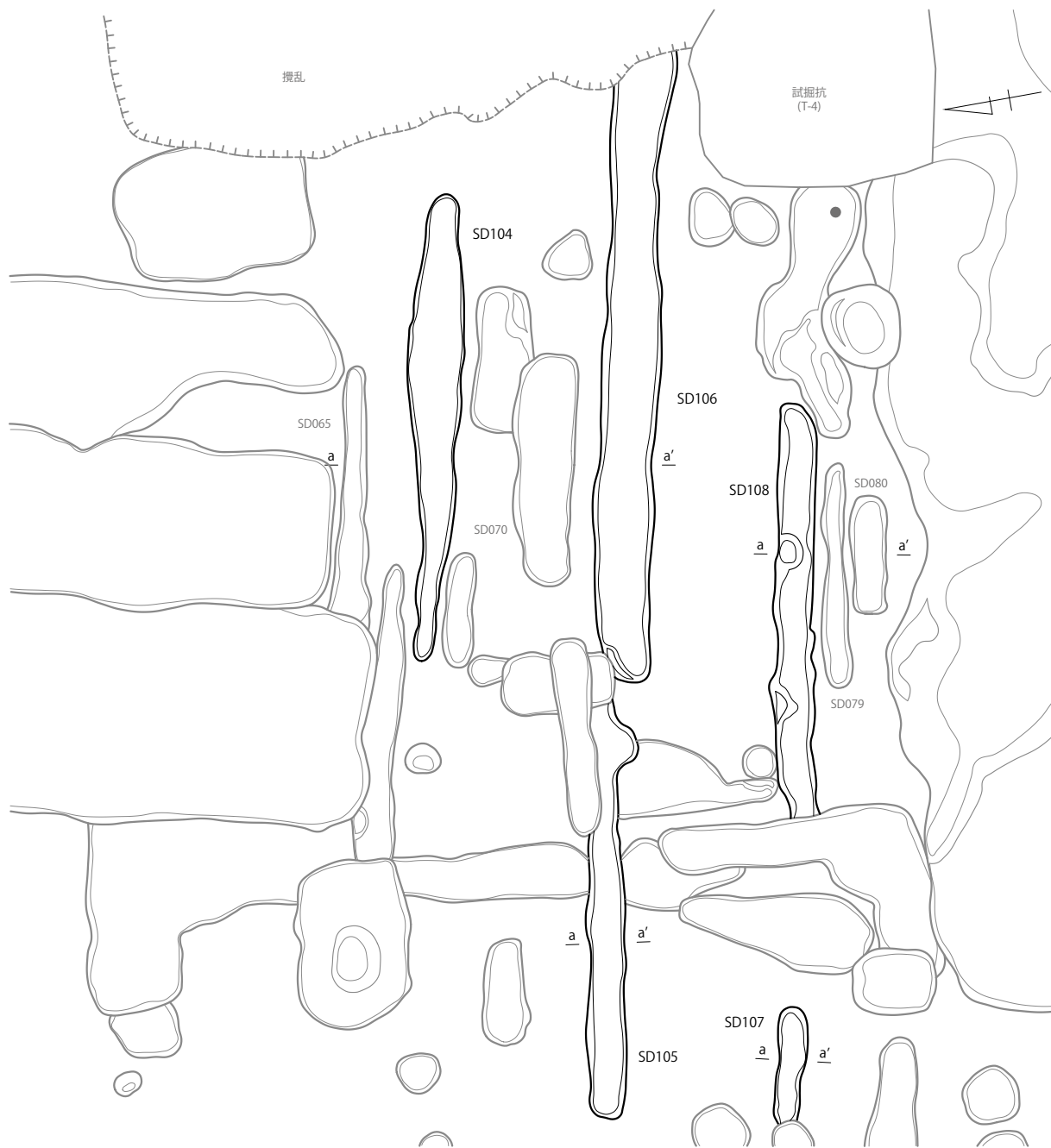
【遺構名】 B区1面SD023(溝)

【位置】 B区1面の東側、E7・F6・F7グリッドに位置する。

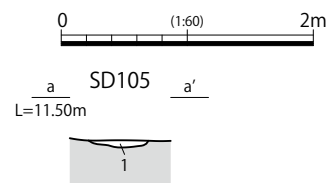
【形状・規模】 東西～南北に向かって延びる溝で、西側は緩やかに北へ曲がる。東側はNR001に



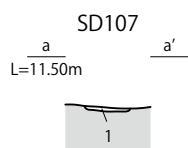
第13図 A区 1面 SD100～SD103 遺構図



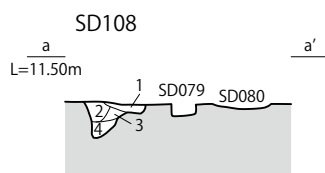
SD104
1 5Y2/1 黒色 砂質土 粘性あり、地山ブロック及び粒子、炭化物含む、しまり良好
SD106
1 5Y2/1 黒色 砂質土 粘性あり、地山ブロック及び粒子、炭化物含む、しまり良好、10YR6/6明黄褐色砂質土極細粒砂が混じる



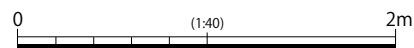
SD105
1 5Y2/1 黒色 砂質土 粘性あり、地山ブロック及び粒子、炭化物含む、しまり良好



SD107
1 10YR6/6 明黄褐色 砂質土 極細粒砂、しまり良好



SD108
1 5Y2/1 黒色 砂質土 粘性あり、地山ブロック及び粒子、炭化物含む、しまり良好
2 5Y3/1 オリーブ黒色 砂質土 しまり良好
3 10YR6/6 明黄褐色 砂質土 極細粒砂、しまり良好
4 5YR3/2 オリーブ黒色 砂質土 しまり良好



第14図 A区1面 SD104～SD108 遺構図

切られる。残存長13.61m、幅1.14m、深さ0.23mを測る。

【堆積土】 全体的に極細粒砂、鉄分を含む砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 弥生土器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗が出土した。(第33図89～95)

【時期】 出土遺物と層位から15～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】 形状と時期から判断して、屋敷を囲む方形の屋敷溝であった可能性が高い。

【遺構名】 B区1面SD024・B区1面SD025(溝)

【位置】 B区1面の東側、E5・E6グリッドに位置する。

【形状・規模】 東西方向に延びる溝で、双溝の西側は攪乱により壊される。SD025はSD024に切られる。SD024は残存長8.14m、幅0.39m、深さ0.08m、SD025は残存長8.43m、残存幅0.25m、深さ0.11mを測る。北に隣接するSD026との溝間は平坦で、SD024とSD026の距離は中心軸で1.14m(約3.7尺)を測る。

【堆積土】 極細粒砂、鉄分を含む砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 SD024から加工円盤が出土した。(第33図96)

【時期】 層位と周辺遺構などから15～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】 北に隣接するSD026と一緒に並行して延びる形状から、用水路と道路状側溝の役割を兼ねていた溝の一部と考えられる。SD025(古)→SD024(新)の関係から、SD025とSD026で構成される道路が拡幅されたことにより、SD024とSD026になったと考えられる。

【遺構名】 B区1面SD026(溝)

【位置】 B区1面の東側、E5・E6グリッドに位置する。

【形状・規模】 東西方向に延びる溝で、残存長7.47m、幅0.35m、深さ0.13mを測る。西側はわずかに攪乱により壊される。SD024との溝間は平坦で、距離は中心軸で1.14m(約3.7尺)を測る。

【堆積土】 極細粒砂、鉄分を含む砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 陶器小皿が出土した。(第33図97)

【時期】 出土遺物と層位から15～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】 南に隣接するSD024・SD025と一緒に並行して延びる形状から、用水路と道路状側溝の役割を兼ねていた溝の一部と考えられる。

【遺構名】 B区1面SD027(溝)

【位置】 B区1面の東側、E5・E6グリッドに位置する。

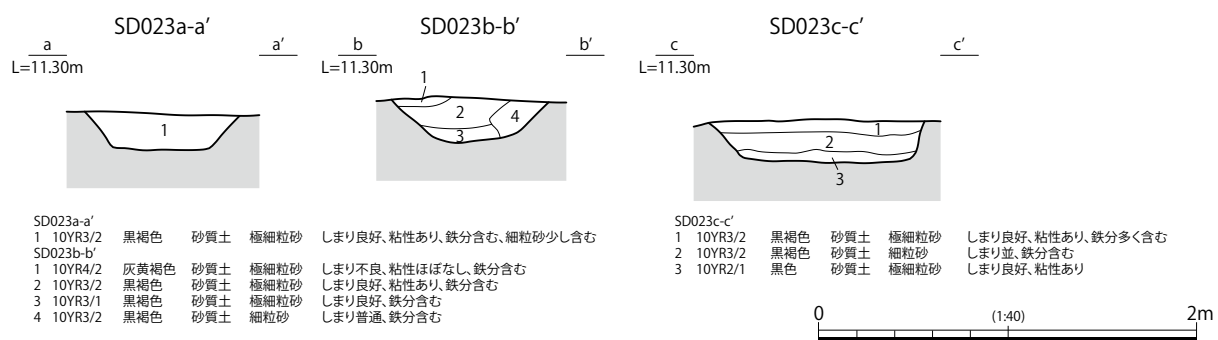
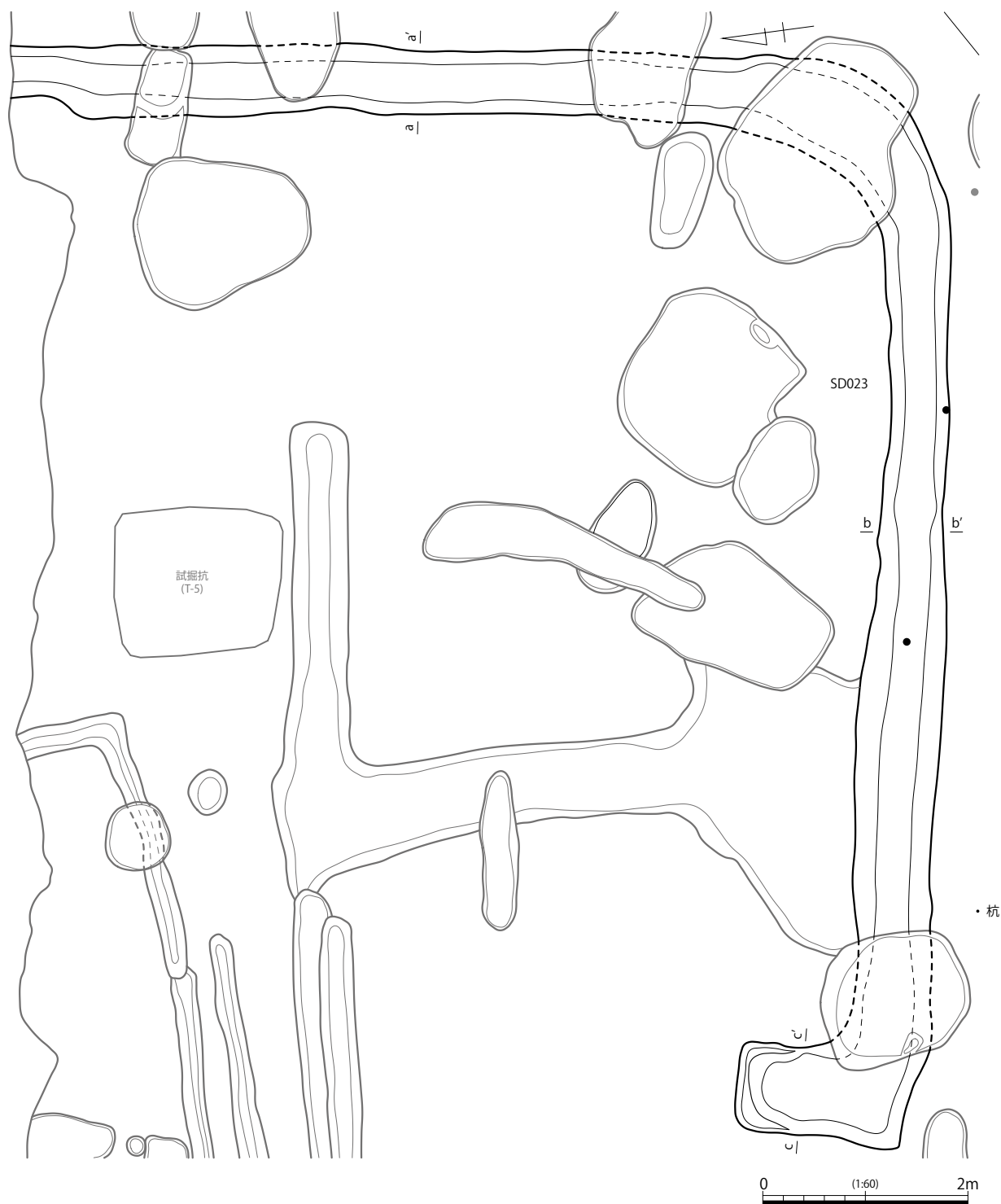
【形状・規模】 東西～南北に延びる溝で、西側は北へ90度曲がりNR001に切られ、東側はSD028に切られる。残存長7.26m、幅0.27m、深さ0.09mを測る。

【堆積土】 極細粒砂、鉄分を含む砂質土(1)が堆積する。

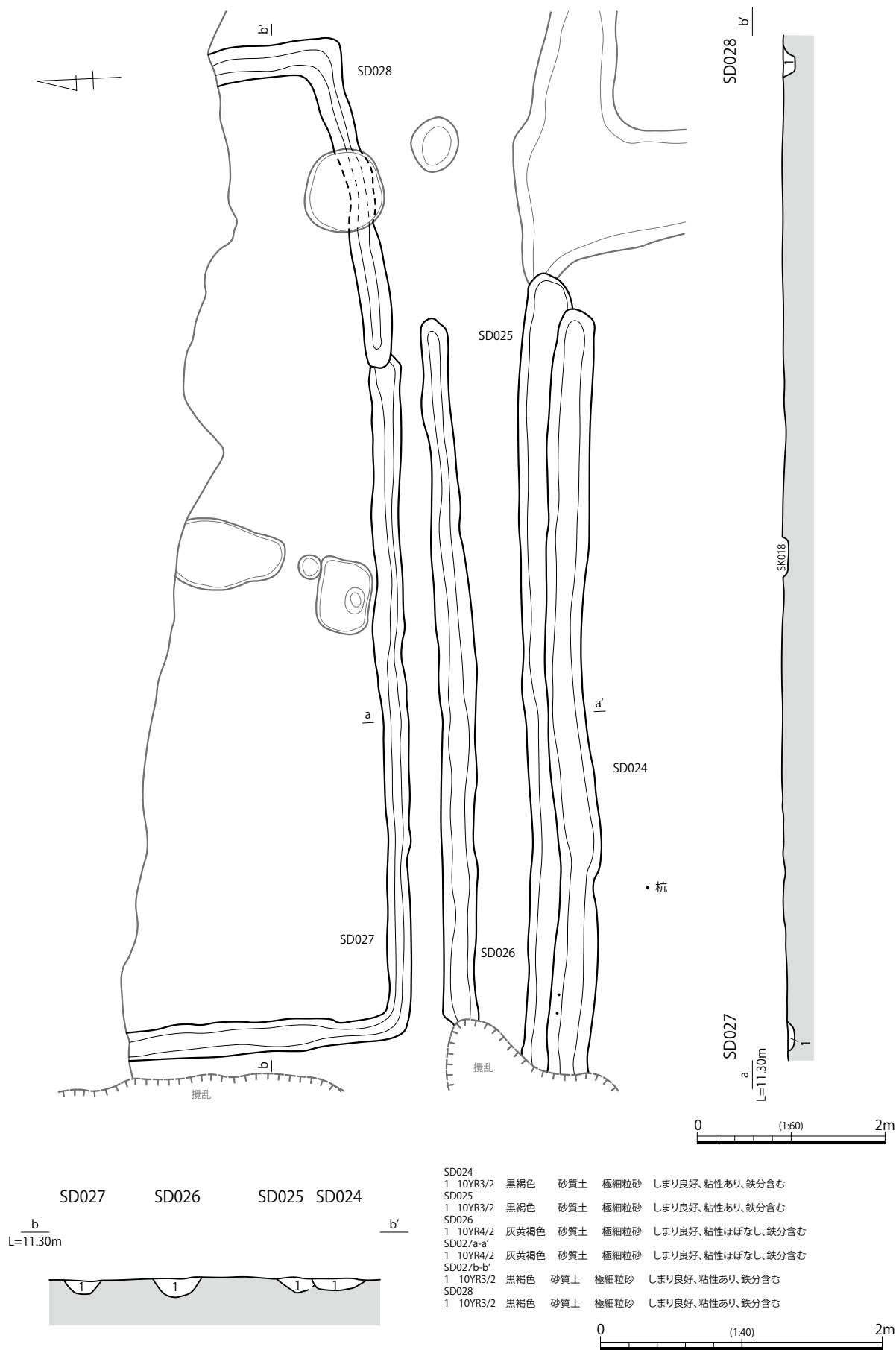
【出土遺物】 土師器・山茶碗の小片が出土した。

【時期】 出土遺物と層位から15～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】 形状と時期から判断して、屋敷を囲む方形の屋敷溝であった可能性が高い。SD028と一体の溝であったと思われる。SD023と隣接することから時期差があると考えられるが、時期を判断する遺物も少なく、新旧関係は不明である。



第15図 B区1面 SD023 遺構図



第16図 B区 1面 SD024～SD028 遺構図

【遺構名】 B区1面SD028(溝)

【位置】 B区1面の東側、E6グリッドに位置する。

【形状・規模】 東西～南北に延びる溝で、東側は北へ90度曲がりNR001に切られる。

【堆積土】 極細粒砂、鉄分を含む砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 土師器・山茶碗・陶器の小片が出土した。

【時期】 出土遺物と層位から15～16世紀と考えられる。

【特徴・性格】 形状と時期から判断して、屋敷を囲む方形の屋敷溝であった可能性が高い。SD027と一体の溝であったと思われる。SD023と隣接することから時期差があると考えられるが、時期を判断する遺物も少なく、新旧関係は不明である。

② 2面(下層)

【遺構名】 A区2面SX119(不明遺構)

【位置】 A区2面の中央東寄り、C4グリッドに位置する。

【形状・規模】 平面は不整形で東側は攪乱により削平される。残存長軸1.14m、残存短軸0.79m、深さ0.21mを測る。底面は平坦に近い。

【堆積土】 鉄分を多く含む灰黄褐色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 土師器甕の口縁部～胴部が出土した。(第35図127)

【時期】 出土遺物と層位から12世紀以前と考えられる。

【特徴・性格】 性格不明である。

【遺構名】 B区2面SI045(竪穴建物)

【位置】 B区2面の西側、E1グリッドに位置する。

【形状・規模】 平面不整形で、建物の北側はNR001により削平されている。

【堆積土】 鉄分を含むにぶい黄褐色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 土師器甕の底部が出土した。(第36図146)

【時期】 出土遺物から9～11世紀と考えられる。

【特徴・性格】 建物の南側から土師器甕が出土しているが、建物本体の大部分がNR001に削平されているため、火処は不明である。深さも浅く、建物の床面がわずかに残存する程度である。

(2) C区 (第21図～第25図、写真図版12～15)

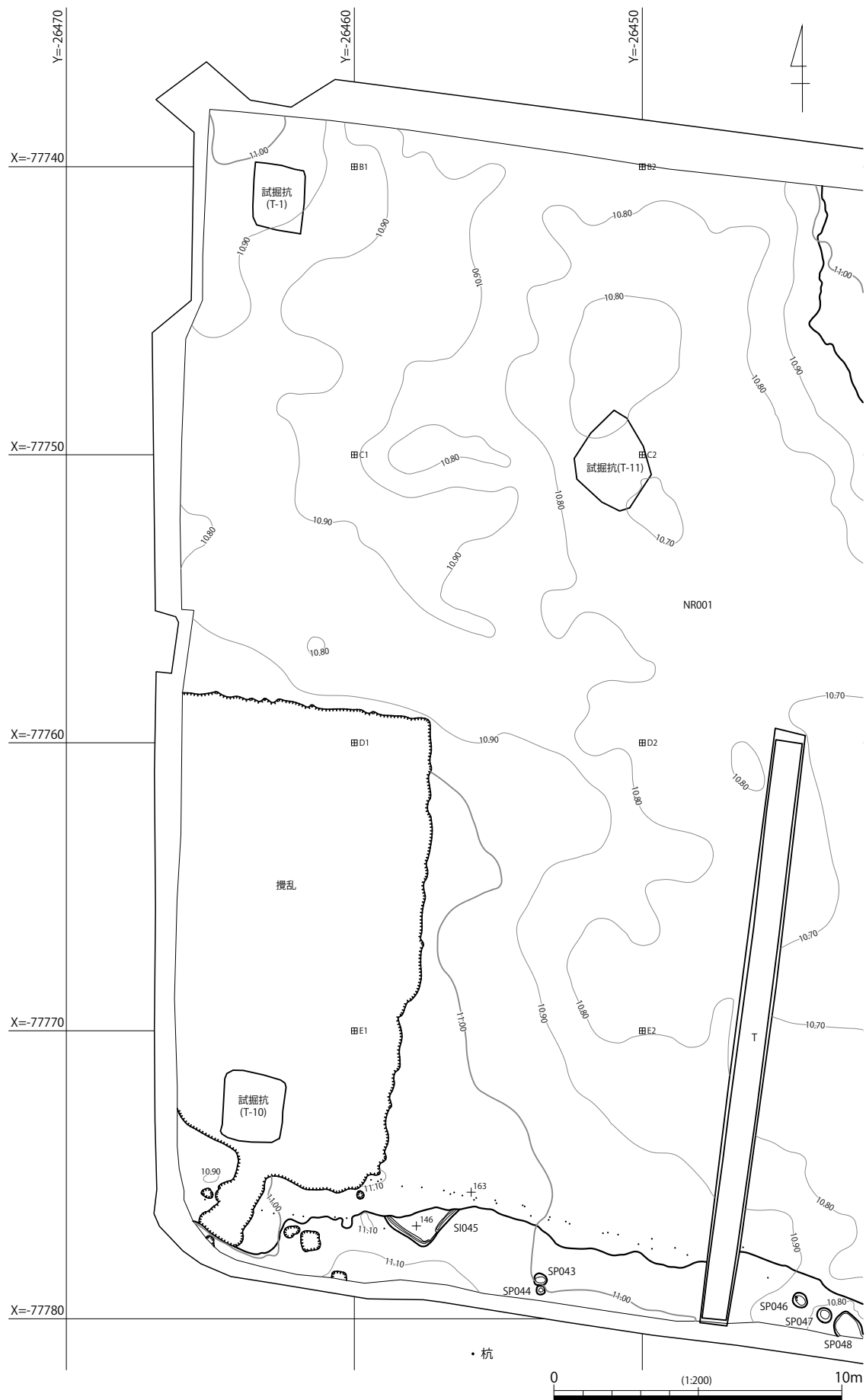
① 1面(上層)

【遺構名】 C区1面SD006(溝)

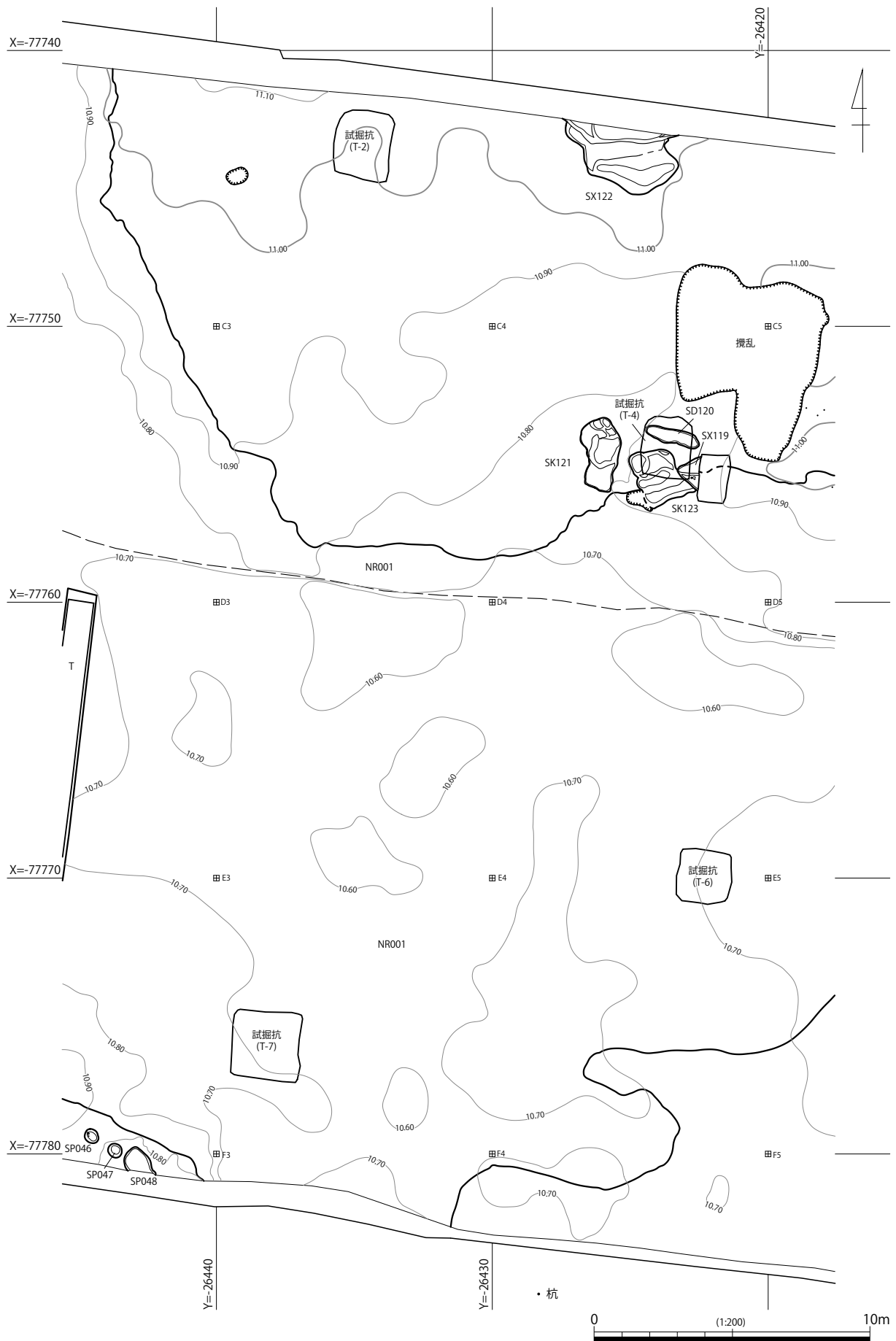
【位置】 C区1面の中央西寄り、H4・I4グリッドに位置し、調査区外(南北)に延びる。

【形状・規模】 南北に延びる溝で、底面は平坦である。残存長4.75m、幅1.10m、深さ0.18mを測る。

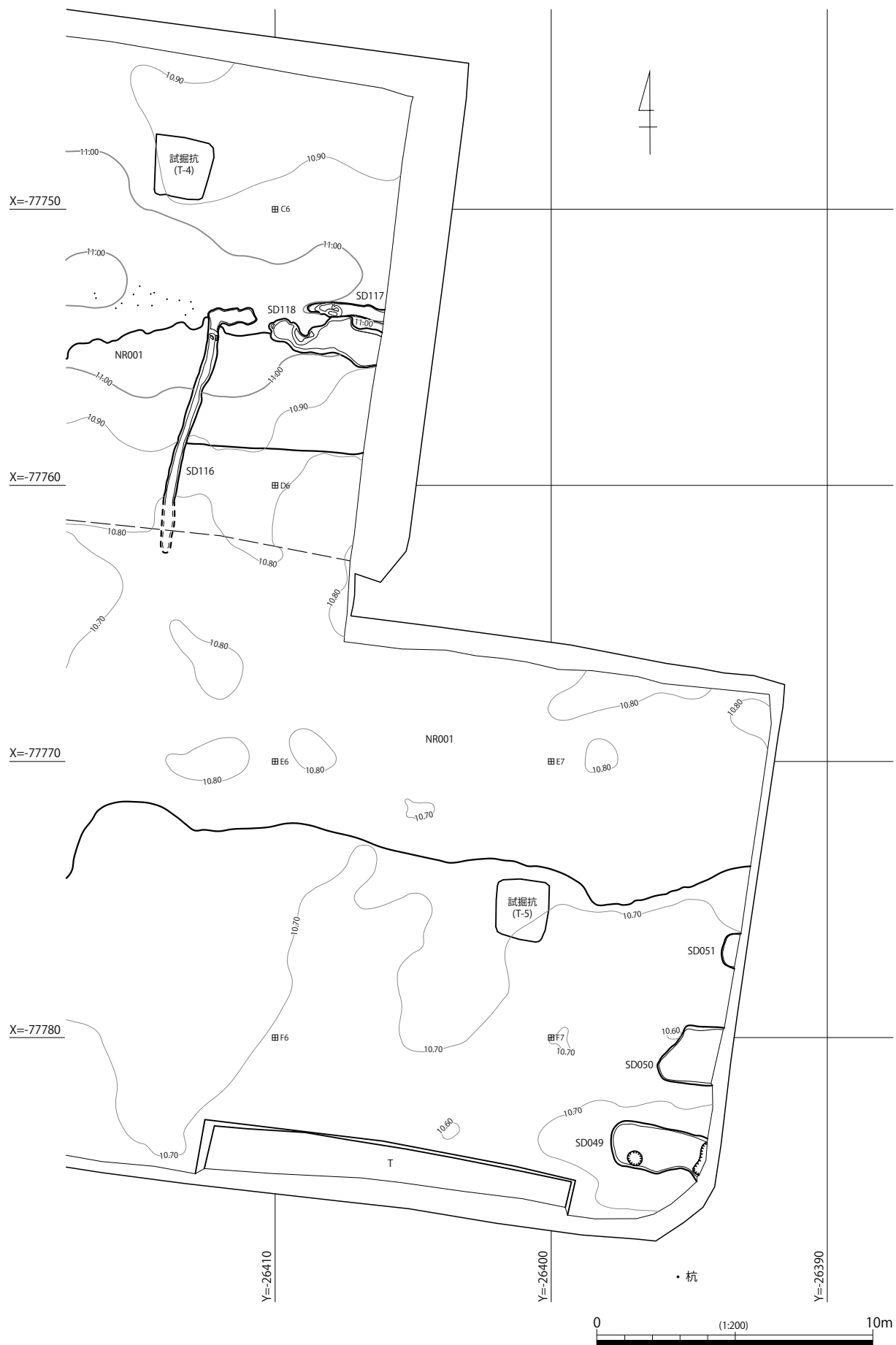
【堆積土】 上層に0.5～2.0cmの小石を多量に含む黒褐色の砂質土(1)、下層に黒褐色の砂質土(2)



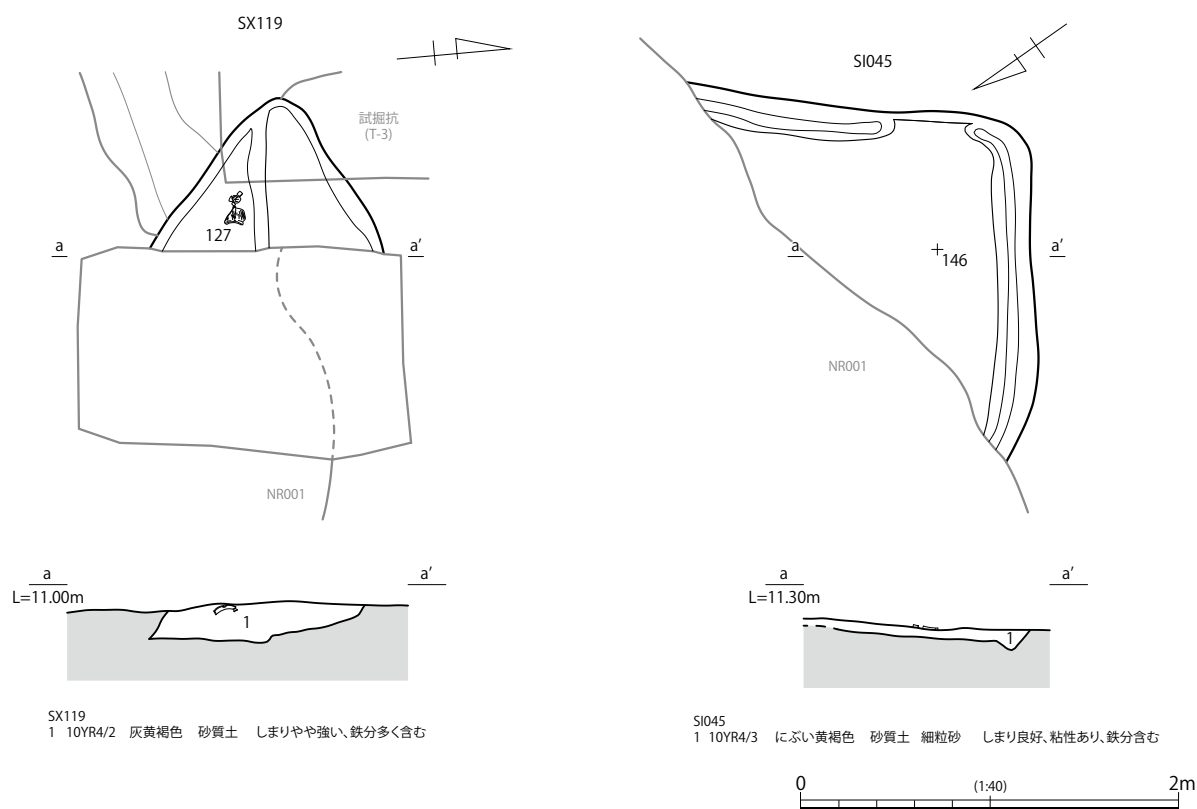
第17図 A区2面・B区2面 遺構位置図1



第18図 A区2面・B区2面 遺構位置図2



第19図 A区2面・B区2面 遺構位置図3



第20図 A区2面 SX119・B区2面 SI045 遺構図

が堆積する。

【出土遺物】須恵器・土師器・山茶碗・陶器・磁器・木製品が出土した。(第38図170～178)

【時期】出土遺物と層位から17～18世紀と考えられる。

【特徴・性格】溝の中央付近から石・木材・土器が集中して出土した。人頭大の石が半円状に並び、その内側から陶器甕や杭などが出土している。杭や板材などが集中していることから堰の役割を兼ねていた溝の可能性もあるが、詳細は不明である。

【遺構名】C区1面SD007(溝)

【位置】C区1面の中央、H4・H5グリッドに位置する。

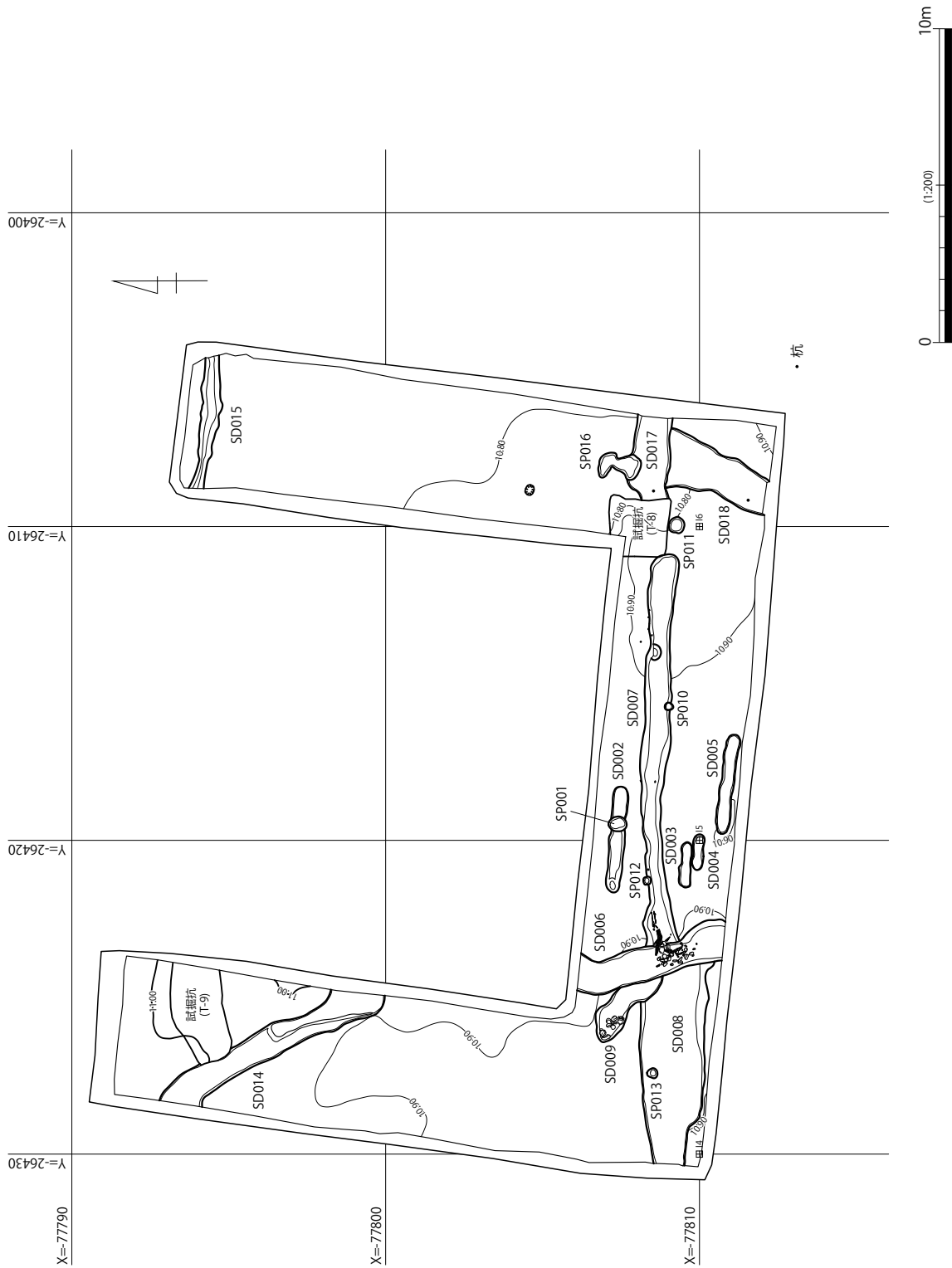
【形状・規模】東西に延びる溝で、西側はSD006に切られ、底面は平坦である。残存長12.41m、幅0.91m、深さ0.09mを測る。

【堆積土】暗褐色の砂質土(1)が堆積する。

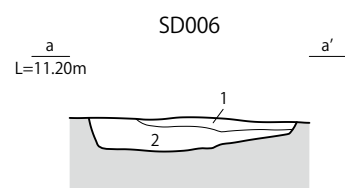
【出土遺物】灰釉陶器・山茶碗・陶器・磁器・木製品が出土した。(第38図179～187、第39図188～201)

【時期】出土遺物と層位から17～18世紀と考えられる。

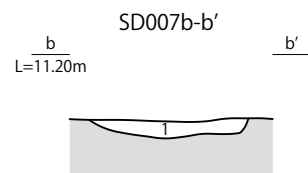
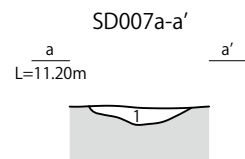
【特徴・性格】SD006の近くから石・木材・土器が集中して出土した。また北東を中心に西にかけて杭が並列して出土している。SD006同様に杭や板材が出土していることから堰の役割を兼ねていた溝の可能性もあるが、詳細は不明である。



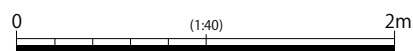
第21図 C区1面 遺構位置図



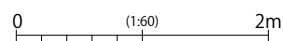
- SD006
- | | | | | | |
|---|---------|-----|-----|-----|-------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂質土 | 細粒砂 | しまり良好、粘性あり、0.5~2.0cmの小石を多量に含む |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 砂質土 | 細粒砂 | しまり良好、粘性あり |



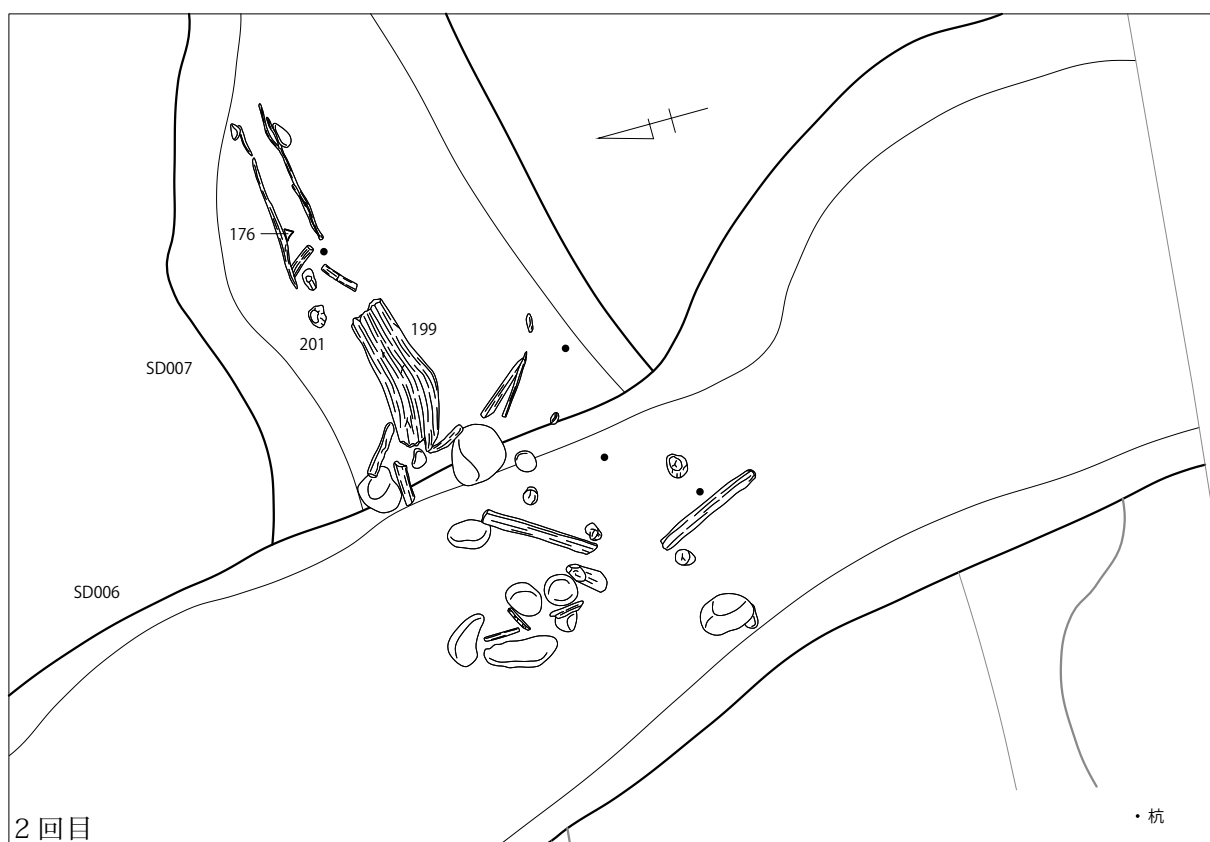
- SD007
- | | | | | | |
|---|---------|-----|-----|-----|------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 砂質土 | 細粒砂 | しまり良好、粘性あり |
|---|---------|-----|-----|-----|------------|



・杭

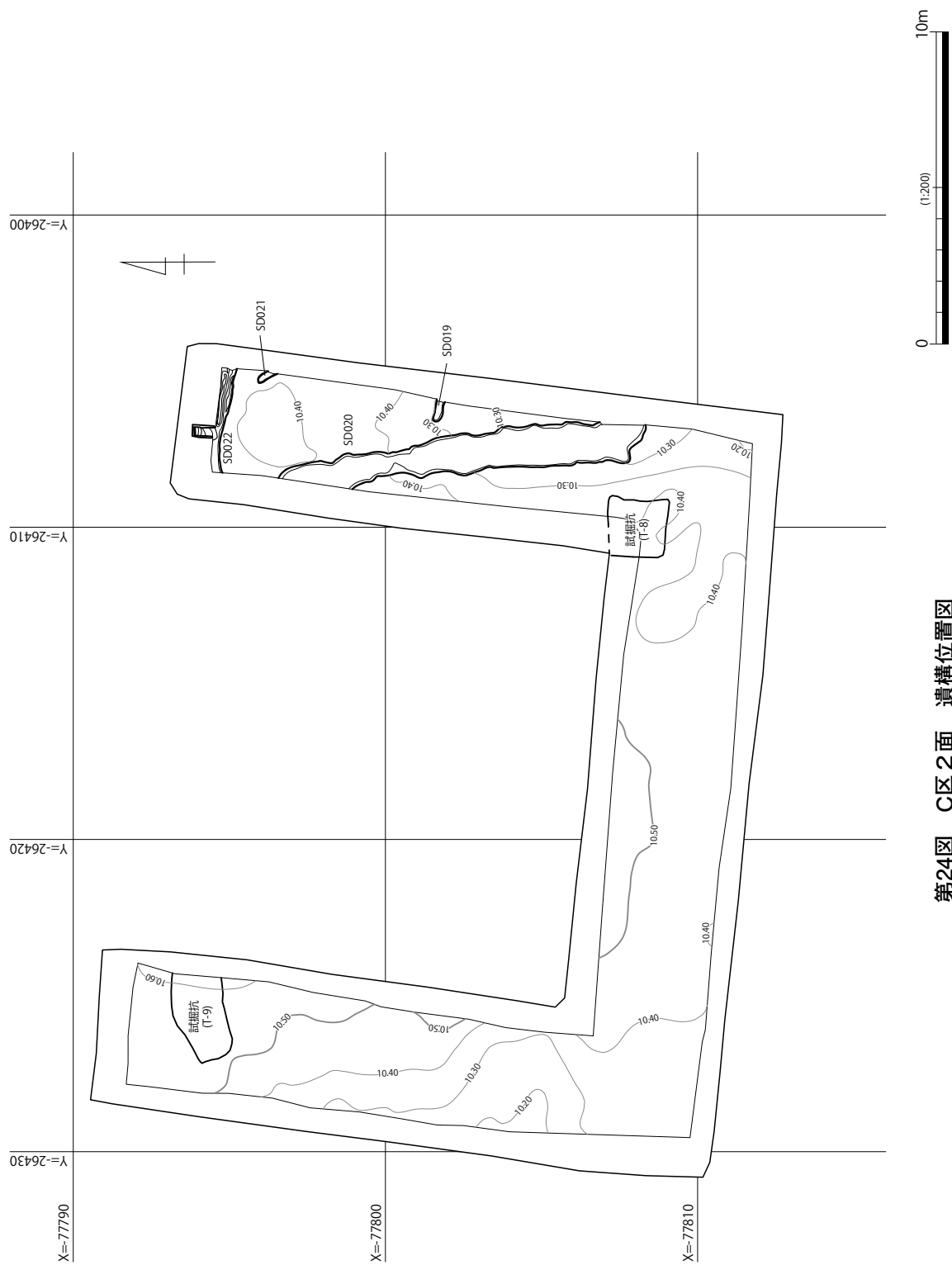


第22図 C区 1面 SD006・SD007 遺構図

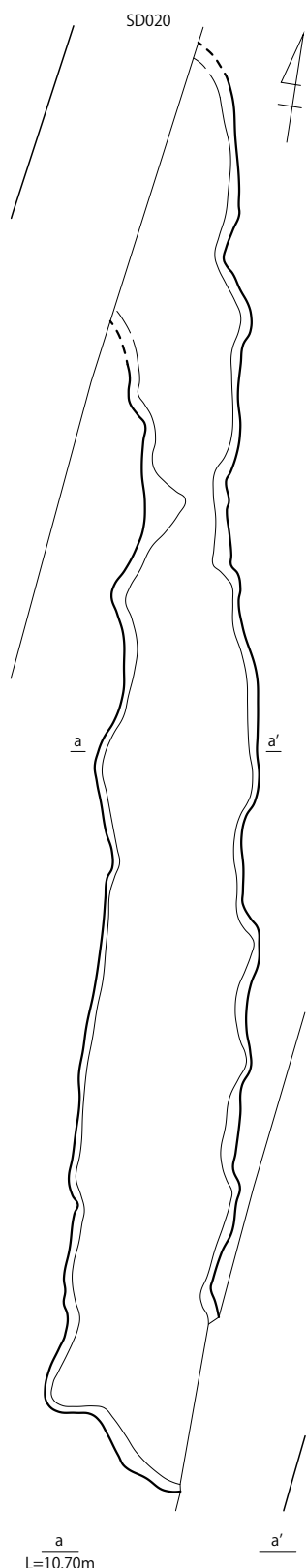


0 (1:20) 1m

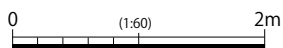
第23図 C区 1面 SD006・SD007 遺物出土状況図



第24图 C区2面 遺構位置図



SD020
1 7.5YR5/6 明褐色 砂質土 しまりやや強い、鉄分多く含む



② 2面(下層)

【遺構名】 C区2面SD020(溝)

【位置】 C区2面の東側、G6・H6グリッドに位置し、調査区外(南北)へ延びる。

【形状・規模】 北西～南東に向かって延びる溝で、残存長11.88m、幅1.30m、深さ0.13mを測る。底面は平坦である。

【堆積土】 鉄分を多く含む明褐色の砂質土(1)が堆積する。

【出土遺物】 山茶碗・陶器が出土した。(第41図220・221)

【時期】 出土遺物は後世の混入と思われ、層位などから12世紀以前と考えられる。

【特徴・性格】 中世以前に掘削された溝である。

(三島)

第25図 C区2面 SD020 遺構図

(3) NR001(旧河道) (第26図・第27図、写真図版4・7・11)

【遺構名】NR001(旧河道)

【位置】A区・B区の大半を占める旧河道で、A0～A2、B0～B2、C0～C6、D1～D7、E1～E7、F2・F3グリッドにかけて位置する。調査区外(北西及び西・東)に大きく延びることが予測できる。

【形状・規模】A区北西からB区へと湾曲して延び、A区・B区の東へと延びることが予測でき、1面で確認できた河幅は、湾曲する西で32.00m、直線的で狭まる東で18.80m、深さは0.80mを測る。南側の護岸の一部では杭列の設置が確認できた。

【堆積土】A区1面で東西2か所、B区2面で1か所のトレンチを設定し、深掘りを行って堆積状況を確認した。上層となるA区1面では極粗粒砂の灰黄色砂質土が堆積し、その下層に黒褐色砂質土を挟んで、大きさ約5～15cmほどの河原石を多量に含む極粗粒砂の黒褐色砂質土がほぼ全面に堆積する状態が確認できた(第26図)。下層となるB区2面では極粗粒砂の黒褐色砂質土の下に、黄褐色砂質土や灰黄褐色砂質土を挟んで極粗粒砂の褐灰色砂質土・粗粒砂の褐灰色砂質土が堆積し、その下に堆積する粗粒砂のにぶい黄褐色砂質土中から水が湧き出ることが確認できた(第27図)。

【出土遺物】出土した遺物はいずれも土器の破片である。上層にあたるA区1面の西側に設定したトレンチ内から弥生時代後期の弥生土器の壺または高坏、飛鳥～奈良時代にかけての土師器甕、A区1面の東側に設定したトレンチ内から飛鳥～奈良時代にかけての土師器甕、戦国時代の陶器内耳鍋、下層にあたるB区2面からは古墳時代中期の須恵器甕、飛鳥時代の須恵器高坏の出土が確認できた。いずれも水流に巻き込まれて混入した遺物と考えられる(第42図237～242)。

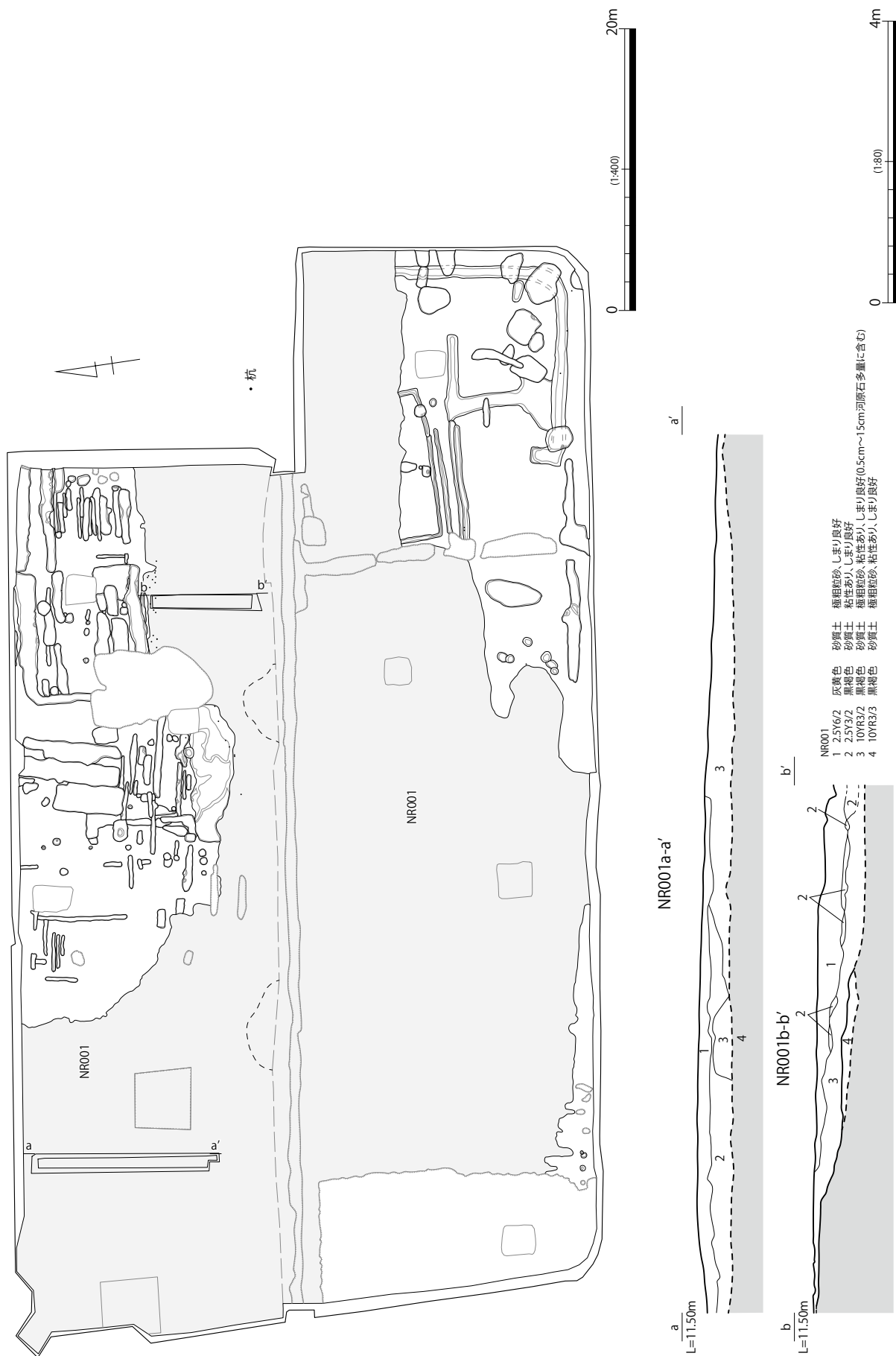
【時期】昭和51(1976)年度から昭和53(1978)年度にかけて調査実施された国土地理院の『治水地形分類図』(註①：第5章掲載)によれば、本河道の地点に「旧流路」の存在が確認でき、その時期は「M.末期～T.末期」と記載されている。『治水地形分類図』記載の「旧流路」がまさに本河道と考えられ、本河道の時期は、明治から大正年間にかけてと推定される。

【特徴・性格】大規模な旧河道で、国土地理院の『治水地形分類図』によれば本流となる二つの河川の間を繋ぐように中州を有して東西に湾曲して延びる流路であったことがわかり、河川の増水などに伴って発生した可能性が考えられる。出土遺物として、弥生時代後期、古墳時代中期、飛鳥～奈良時代、戦国時代といった多くの時期にかけての土器の破片が確認できたことから、東西方向に流れる本河道によって、これらの時期に形成された集落遺跡などが押し流されて飲み込まれてしまったことが想定される。

註①：『治水地形分類図』は、治水対策を進めることを目的に、国・都道府県が管理する河川の流域のうち主に平野部を対象として、扇状地、自然堤防、旧河道、後背湿地などの詳細な地形分類及び堤防などの河川管理施設などを表示する主題図。昭和51(1976)年の台風17号による長良川の破堤で濃尾平野が大きな被害を受けたのを契機として、河川堤防の立地する地盤条件を包括的に把握し、さらに詳細な地点調査を行うための基礎資料を得ること、氾濫域の土地の性状とその変化の過程や地盤高などを明らかにすることを目的として、昭和51(1976)年度から昭和53(1978)年度にかけて調査が実施された。

(国土交通省国土地理院 https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/fc_index.htmlより引用)

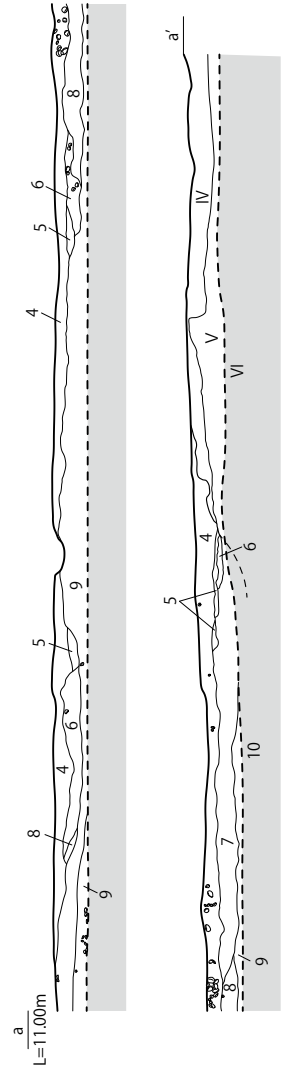
(基峰)



第26図 NR001 (1面) 遺構図



NR001



- | | | | |
|-------|----------|--------|----------------------|
| NR001 | 砂質土 | 黒褐色 | 極粗粒砂、粘性あり、しまり良好 |
| 4 | 10/R3/3 | 黒褐色 | 極粗粒砂、粘性あり、しまり良好 |
| 5 | 10/R5/6 | 黄褐色 | 極粗粒砂、しまり良好 |
| 6 | 10/R5/2 | 灰黄褐色 | 極粗粒砂、粘性あり、しまり良好 |
| 7 | 5/R4/1 | 褐灰色 | 粗粒砂、粘性あり、しまり良好 |
| 8 | 5/R5/1 | 褐灰色 | 粗粒砂、粘性あり、しまり良好 |
| 9 | 7.5/R4/1 | にふい黄褐色 | 粗粒砂、粘性あり、しまり良好 |
| 10 | 10/R5/4 | にふい黄褐色 | 粗粒砂、粘性あり、しまり良好(湧水あり) |
| IV | 10/R4/2 | 灰黄褐色 | 砂質土(極粗粒砂を含む) |
| V | 10/R3/1 | 黒褐色 | 砂質土(極粗粒砂を含む) |
| VI | 10/R6/3 | にふい黄褐色 | 砂質土(極粗粒砂を含む、湧水あり) |

第27図 NR001 (2面) 遺構図

A区1面

溝

図	調査地区	遺構種別	遺構番号	方位	規模				主な出土遺物	時期	特記
				北から (溝方向)	長軸 (桁行) (m)	短軸 (梁行) (m)	面積 (㎡)	深さ (m)			
11 12	A-1	SD	002	東西～南北	(12.57)	1.25	—	0.11	灰釉陶器：瓶	14～16世紀	(屋敷溝)
11 12	A-1	SD	003	東西	(7.50)	(0.90)	—	0.10	弥生土器：台付壺、須恵器：坏身、土師器：壺	14～16世紀	(屋敷溝)
11 12	A-1	SD	039	東西	(6.18)	1.00	—	0.14	須恵器：瓶又は壺、山茶碗：碗、陶器：小碗	14～16世紀	(屋敷溝)
13	A-1	SD	100	南北	(1.25)	0.28	—	0.02	—	14～16世紀	
13	A-1	SD	101	南北	1.30	0.32	—	0.04	—	14～16世紀	
13	A-1	SD	102	南北	(0.64)	0.38	—	0.04	—	14～16世紀	
13	A-1	SD	103	南北	(6.42)	0.29	—	0.03	土師器	14～16世紀	
14	A-1	SD	104	南北	4.30	0.52	—	0.03	—	14～16世紀	
14	A-1	SD	105	南北	(3.78)	0.39	—	0.04	土師器、須恵器、陶器	14～16世紀	
14	A-1	SD	106	南北	(5.73)	0.55	—	0.04	土師器	14～16世紀	
14	A-1	SD	107	南北	(1.05)	0.29	—	0.02	—	14～16世紀	
14	A-1	SD	108	南北	(3.81)	0.34	—	0.19	土師器、須恵器	14～16世紀	

B区1面

溝

図	調査地区	遺構種別	遺構番号	方位	規模				主な出土遺物	時期	特記
				北から (溝方向)	長軸 (桁行) (m)	短軸 (梁行) (m)	面積 (㎡)	深さ (m)			
15	B-1	SD	023	東西～南北	(13.61)	1.14	—	0.23	弥生土器：高坏・壺、須恵器：坏蓋・壺、灰釉陶器：碗、山茶碗：小皿	15～16世紀	(屋敷溝)
16	B-1	SD	024	東西	(8.14)	0.39	—	0.08	加工円盤、木製品	15～16世紀	
16	B-1	SD	025	東西	(8.43)	(0.25)	—	0.11	—	15～16世紀	
16	B-1	SD	026	東西	(7.47)	0.35	—	0.13	陶器：小皿	15～16世紀	
16	B-1	SD	027	東西～南北	(7.26)	0.27	—	0.09	土師器、山茶碗	15～16世紀	(屋敷溝)
16	B-1	SD	028	東西～南北	(3.58)	0.34	—	0.13	土師器、山茶碗、陶器	15～16世紀	(屋敷溝)

A区2面

不明遺構

図	調査地区	遺構種別	遺構番号	方位	規模				主な出土遺物	時期	特記
				北から (溝方向)	長軸 (桁行) (m)	短軸 (梁行) (m)	面積 (㎡)	深さ (m)			
20	A-2	SX	119	—	(1.14)	(0.79)	—	0.21	土師器：壺	12世紀以前	

B区2面

竪穴建物

図	調査地区	遺構種別	遺構番号	方位	規模				構成				主な出土遺物	時期	特記
				北から (溝方向)	長軸 (桁行) (m)	短軸 (梁行) (m)	面積 (㎡)	深さ (m)	平面	火処	貯蔵穴	主柱			
20	B-2	SI	045	(N 35° E)	(2.63)	(1.19)	—	0.11	—	—	—	—	土師器：壺	9～11世紀	

C区1面

溝

図	調査地区	遺構種別	遺構番号	方位	規模				主な出土遺物	時期	特記
				北から (溝方向)	長軸 (桁行) (m)	短軸 (梁行) (m)	面積 (㎡)	深さ (m)			
22	C-1	SD	006	南北	(4.75)	1.10	—	0.18	山茶碗：碗、陶器：小皿・碗・鉢・壺、磁器：小碗、木製品	17～18世紀	
22	C-1	SD	007	東西	(12.41)	0.91	—	0.09	山茶碗：碗、土師質土器：焙烙、陶器：小皿・碗・小碗、磁器：碗・徳利、木製品	17～18世紀	

C区2面

溝

図	調査地区	遺構種別	遺構番号	方位	規模				主な出土遺物	時期	特記
				北から (溝方向)	長軸 (桁行) (m)	短軸 (梁行) (m)	面積 (㎡)	深さ (m)			
25	C-2	SD	020	北西～南東	(11.88)	1.30	—	0.13	山茶碗：小皿、陶器：小型鉢	12世紀以前	

第3表 主要遺構一覧表

第3節 遺物

(1) A区・B区 (第28図～第37図、写真図版16～22)

① 1面(上層)

【遺構名】 A区1面SK059(土坑)

1はA区1面SK059の出土遺物で、山茶碗小皿の口縁部～底部である。底面は糸切り後ヘラケズリされる。16世紀と考えられる。

【遺構名】 A区1面SD002(溝)(屋敷溝)

2はA区1面SD002の出土遺物で、灰釉陶器瓶の胴部～底部である。内外面に施釉が施される。9世紀と考えられる。SD002は層位から中世に相当し、平安時代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 A区1面SD003(溝)(屋敷溝)

3～5はA区1面SD003から出土した遺物である。3は弥生土器の台付甕胴部～台部で外面はナデ調整され、ユビオサエの痕が見られる。弥生時代後期と考えられる。4は須恵器坏身の口縁部～胴部で、内外面にロクロナデが施される。6世紀と考えられる。5は土師器甕の口縁部で緩く「く」の字に屈曲する。内外面はナデ調整である。7世紀と考えられる。SD003は層位から中世に相当し、弥生後期、古代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 A区1面SD004(溝)

6はA区1面SD004の出土遺物で、磁器小碗の口縁部である。内外面ともに染付で、19世紀と考えられる。SD004は層位から中世に相当し、近代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 A区1面SD005(溝)

7・8はA区1面SD005から出土した遺物である。7は瀬戸美濃の陶器小皿の底部である。内外面に茶色の釉が施され、重ね焼き痕が見られる。8は陶器皿の口縁部で、内外面ともに釉が施される。17～18世紀と考えられる。

【遺構名】 A区1面SD028(溝)

9はA区1面SD028の出土遺物で、弥生土器の高坏の脚部である。透孔径1.1cmを上下2段に有し、外面に黒色の付着物が見られる。弥生後期と考えられる。SD028は層位から中世に相当し、弥生時代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 A区1面SD029(溝)

10はA区1面SD029の出土遺物で、須恵器瓶または壺の口縁部である。内外面はロクロナデである。7世紀と考えられる。SD029は層位から中世に相当し、飛鳥時代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 A区1面SD039(溝)

11～13はA区1面SD039の出土遺物である。11は須恵器瓶または壺の口縁部で、内外面はロクロナデである。6～7世紀と考えられる。12は山茶碗の碗の底部で、内外面はロクロナデである。13世紀と考えられる。13は陶器小碗の口縁部で、内外面ともに口縁部に釉が施される。17～18世紀と考えられる。

【遺構名】 A区1面SD052(溝)

14・15はA区1面SD052の出土遺物である。14は縄文土器の小型深鉢の底部で、内外面はナデ調整である。縄文時代中期～後期と考えられる。15は陶器小碗の胴部～底部で、外面は透明釉が施される。17～18世紀と考えられる。

【遺構名】 A区1面SD053(溝)

16～18はA区1面SD053の出土遺物である。16は須恵器甕の胴部で、外面はタタキである。6～7世紀と考えられる。17は山茶碗小皿の底部で、底面は回転糸切りである。18は山茶碗の碗の底部で、高台に粉殻痕が見られる。16世紀と考えられる。

【遺構名】 A区1面SD055(溝)

19はA区1面SD055の出土遺物で、山茶碗小皿の底部である。底面は回転糸切りである。16世紀と考えられる。

【遺構名】 A区1面SD077(溝)

20はA区1面SD077の出土遺物で、弥生土器の甕の胴部である。外面はナデ・ハケ調整、内面はナデ調整である。弥生後期と考えられる。SD077は層位から中世に相当し、弥生時代後期の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 A区1面SD085(溝)

21はA区1面SD085の出土遺物で、弥生土器の甕の胴部である。外面はヨコハケ・タテハケ調整である。弥生後期と考えられる。SD085は中世に相当し、弥生時代後期の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 A区1面SD112(溝)

22～35はA区1面SD112の出土遺物である。22～29は須恵器である。22は甕の胴部で、波状文8条、波状文5条を沈線文1条×2で区画する。7世紀と考えられる。23・24は壺で、24は外面に沈線、内面に自然釉(緑)が施される。25～29は甕で、いずれも外面はタタキである。27は外面に沈線文1条が施される。28は土師質で焼成不良である。25は7世紀初頭、26～29は7世紀と考えられる。30～34は土師器甕である。31は内面にケズリ・ユビオサエの痕が見られる。33は外面口縁部はヨコナデ、体部はハケ調整である。34は外面口縁部はナデ、体部はハケ調整である。30～32は7世紀、33・34は7世紀後半と考えられる。35は青磁碗の口縁部で、内外面に釉が施される。18～19世紀と考えられる。

【遺構名】 A区1面SP034(ピット)

36はA区1面SP034の出土遺物で、山茶碗小皿の底部である。底面は回転糸切りで、内面は釉が付着する。13世紀と考えられる。

【遺構名】 A区1面SP075(ピット)

37はA区1面SP075の出土遺物で、土師器甕の胴部である。内面はナデ、外面はハケ調整される。7世紀と考えられる。SP075は層位から中世に相当し、飛鳥時代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 A区1面SP078(ピット)

38～41はA区1面SP078の出土遺物である。38は弥生土器の甕の胴部で、内面はナデ、外面はハケ・ナデ調整である。弥生後期と考えられる。39は須恵器甕の胴部で、外面はタタキである。焼成は不良である。40・41は土師器甕の胴部で、41は外面に煤が付着する。7世紀と考えられる。SP078は層位から中世に相当し、弥生後期、飛鳥時代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 A区1面SX043(不明遺構)

42はA区1面SX043の出土遺物で、陶器小碗の口縁部である。内外面に白釉が施され、外面は植物が染付される。17～18世紀と考えられる。

【遺構名】 A区1面SX058(不明遺構)

43はA区1面SX058の出土遺物で、山茶碗の碗の底部である。高台に粉殻痕が見られる。16世紀と考えられる。

【A区1面遺構外】

44～77はA区1面遺構外の出土遺物である。44～46は弥生土器である。44は高坏の脚部で、外面は櫛描文・刺突文・赤彩の痕跡が見られる。推定径1.0cmの円形透孔がある。45は台付甕の底部である。外面胴部はナデ、台部はハケ調整である。46は壺の口縁部で、内外面はハケ調整である。弥生後期と考えられる。47～57は須恵器である。47は甕の胴部である。48・49は坏蓋である。48は外面天井部に灰が付着しているため調整不明で、口縁部は回転ナデである。49は外面は自然釉が付着し、重ね焼き痕が見られる。50は蓋で、外面は自然釉が付着し、つまみ部は扁平な擬宝珠である。51は瓶または壺の底部である。52～56は甕の胴部である。52は外面に緑釉が施され、内面にユビオサエの痕が見られる。53～56は外面はタタキである。57は皿の底部で、内面は回転ナデ、外面は回転ヘラケズリである。47は6～7世紀、48は7世紀前半、49は7世紀後半、50・56は7～8世紀、51～55は7世紀、57は8世紀と考えられる。58・59は灰釉陶器である。58は碗の口縁部～胴部で、内面は施釉されている。59は皿の底部で、底面は回転糸切りである。9世紀と考えられる。60～65は山茶碗である。60～63は碗で、60は胴部～底部で、高台が貼り付けられる。61は胴部で、底面はロクロヘラケズリである。62は底部で、内外面はロクロナデである。63は胴部～底部で、高台に粉殻痕が見られ、底面は回転糸切りである。64・65は小皿で、いずれも底面は回転糸切りである。60は12世紀後半～13世紀初頭、61・62・64は13世紀、63・65は16世紀と考えられる。66～74は陶器である。66は天目茶碗の胴部～底部で、内外面に鉄釉が施される。67～

69は碗の底部で、70は瀬戸美濃の瓶または碗の口縁部である。68は内外面に施釉され貫入が見られ、内面に染付の圈線がある。69は内外面に緑釉が施され、高台内は蛇の目釉剥ぎである。70は内外面に釉が施される。71は茶碗の胴部～底部で内外面に釉が施され、高台が貼り付けられる。72は瓶掛の獅子頭文である。貼付文様のみで全容は不明であるが、ルス(呂宋)の瓶掛に獅子頭文が多く使用されている。また、内面は鉄釉がハケ塗りされており、これも瓶掛に見られることから本遺物も瓶掛の貼付文様である獅子頭文と思われる。73は甕の胴部で、内外面は釉が施される。74は型打皿の口縁部～底部で、内面は植物を染付で区画する。66は15～16世紀、67・68・70・74は17～18世紀、69・71・73は19世紀、72は18世紀後半～19世紀と考えられる。75～77は磁器である。75は小皿の口縁部～底部で、外面に人物・植物、高台に三重圈線がある。内面は見込みに植物・圈線、口縁に雲形・圈線がある。76は皿の胴部～底部で、内面に放射状の文様がある。77はほぼ完形の茶碗で、外面に植物、高台に二重圈線がある。19世紀と考えられる。

【遺構名】 B区1面SK004(土坑)

78はB区1面SK004の出土遺物で須恵器甕または壺の口縁部である。7世紀と考えられる。SK004は層位から中世に相当し、飛鳥時代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 B区1面SK006(土坑)

79はB区1面SK006の出土遺物で陶器天目茶碗の底部である。外面はロクロヘラケズリ出し、内面は鉄釉が施される。15世紀と考えられる。

【遺構名】 B区1面SK008(土坑)

80・81はB区1面SK008の出土遺物である。80は須恵器甕の胴部で、外面はタタキ、内面は自然釉である。8～9世紀と考えられる。81は灰釉陶器小皿の底部で、底面は回転糸切り後回転ヘラケズリである。8世紀後半～9世紀と考えられる。SK008は層位から中世に相当し、奈良時代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 B区1面SK010(土坑)

82～84はB区1面SK010の出土遺物である。82は須恵器坏身の胴部で、6世紀と考えられる。83・84は山茶碗である。83は碗の底部で、内外面はロクロナデである。84は皿の口縁部～胴部で、外面はロクロナデ、内面はロクロコテアテである。83は13世紀、84は15～16世紀と考えられる。

【遺構名】 B区1面SK014(土坑)

85はB区1面SK014の出土遺物で須恵器高坏の脚部である。内外面はロクロナデである。8～9世紀と考えられる。SK014は層位から中世に相当し、奈良時代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 B区1面SD003(溝)

86～88はB区1面SD003の出土遺物である。86は弥生土器の高坏の脚部で、内面に絞りが見られる。弥生後期と考えられる。87・88は須恵器である。87は甕または壺の口縁部～胴部で、外面は波状文8条が施される。88は甕の胴部で、外面はタタキである。87は5世紀、88は7～

8世紀と考えられる。SD003は層位から中世に相当し、弥生後期、飛鳥～奈良時代の遺物が混入したと考えられる。

【遺構名】 B区1面SD023(溝)

89～95はB区1面SD023の出土遺物である。89・90は弥生土器である。89は高坏の胴部～脚部で、内面は絞りが施される。90は壺の口縁部で、外面は連続刺突文が施される。弥生後期と考えられる。91～93は須恵器である。91は坏蓋の天井部である。92・93は甕の胴部で、外面はタタキである。91は6～7世紀、92・93は7～8世紀と考えられる。94は灰釉陶器碗の胴部～底部で、内面は施釉される。8世紀後半～9世紀と考えられる。95は山茶碗小皿の胴部～底部で、底面は回転糸切りである。15世紀と考えられる。

【遺構名】 B区1面SD024(溝)

96はB区1面SD024の出土遺物で、加工円盤である。内外面は鉄釉が施され、内面に櫛目が見られることから播鉢を転用したと思われる。重さは38.6g。時期不明である。

【遺構名】 B区1面SD026(溝)

97はB区1面SD026の出土遺物で、陶器小皿の口縁部～底部で、内外面の口縁部に鉄釉が施される。16世紀と考えられる。

【遺構名】 B区1面SD029(溝)

98はB区1面SD029の出土遺物で、土人形である。内面は手捏ね、外面は型枠整形である。下部のみ残存しているため全容は不明である。17～18世紀と考えられる。

【遺構名】 B区1面SX032(不明遺構)

99はB区1面SX032の出土遺物で、須恵器甕の胴部～底部である。外面はタタキである。7～8世紀と考えられる。

【B区1面遺構外】

100～120はB区1面遺構外の出土遺物である。100～102は弥生土器で、100は高坏または器台の口縁部で、外面にナデ・ミガキ調整、内面に赤彩の痕跡が見られる。101は台付甕の胴部～脚部で、外面はハケ調整される。102は甕の口縁部で、外面は靱殻圧痕が見られる。弥生後期と考えられる。103～106は須恵器である。103は坏蓋の天井～口縁部で、天井部上半は欠損している。104は甕の胴部で、外面は沈線・波状文4条が見られる。105は甕の口縁部である。106は甕の胴部で、外面にタタキ、釉が施されるが自然釉か釉かは不明である。103・104は7世紀、105は7～8世紀、106は8～9世紀と考えられる。107は土師器甕の胴部で、外面はハケ調整される。4世紀と考えられる。108～110は灰釉陶器である。108は皿の胴部～底部で、内外面はロクロナデである。109は碗の口縁部～底部で、外面は釉が施される。110は四足壺の胴部帯の一部で、外面は灰釉、突帯が見られる。108は8世紀後半～9世紀、109は9世紀、110は10世紀と考えられる。111～113は山茶碗である。111は小皿の口縁部～胴部で、内外面はロクロナデである。112・113は碗で113の底面はロクロヘラケズリである。111は15～16世紀、112・113は15世紀

と考えられる。114～119は陶器である。114・115は瀬戸美濃の天目茶碗である。114は高台と底面はヘラケズリ出し、内面は鉄釉が施される。115は高台と底面はロクロヘラケズリ、内面は錆釉が施される。116は瀬戸美濃の灯明皿で、外面の口縁部から内面にかけて鉄釉が施される。117は瀬戸美濃の皿の口縁部で、内面は線文がある。118は双耳鍋の口縁部で、内外面に鉄釉が施される。119は五徳である。114は14世紀後半～15世紀、115～117は17～18世紀、118は18～19世紀、119は19～20世紀と考えられる。120は磁器小碗の口縁部～底部で、内外面に透明釉が施される。19世紀と考えられる。

② 2面(下層)

【遺構名】 A区2面SK121(土坑)

121はA区2面SK121の出土遺物で、須恵器甕の胴部である。6世紀と考えられる。

【遺構名】 A区2面SK123(土坑)

122～124はA区2面SK123の出土遺物で、須恵器である。122は坏身の口縁部、123・124は壺の口縁部である。122は5世紀、123・124は6世紀と考えられる。

【遺構名】 A区2面SD118(溝)

125・126はA区2面SD118の出土遺物である。125は須恵器甕の口縁部で、内面はナデ調整、自然釉、外面はタタキである。7世紀と考えられる。126は土師器甕の胴部で、内外面はハケ調整である。4世紀と考えられる。

【遺構名】 A区2面SX119(不明遺構)

127はA区2面SX119の出土遺物で、土師器甕の口縁部～胴部である。外面口縁部はナデ調整、胴部はハケ調整、内面はナデ調整、工具痕が残る。7世紀と考えられる。

【A区2面遺構外】

128～145はA区2面遺構外の出土遺物である。128・129は弥生土器である。128は高坏の胴部～脚部で外面はナデ・ミガキ調整、内面はナデ調整、絞り痕が残る。透孔が4方向に見られる。弥生後期と考えられる。130～134は須恵器である。130は高坏の脚部で、内外面は回転ナデである。131は器台の脚部で、外面は沈線文2条、沈線文上部に波状文2条以上、沈線文下部に波状文9条以上が確認できる。内面は自然釉である。132は壺の底部で、底面はロクロ糸切りである。133は甕の胴部で、外面はタタキ、自然釉である。134は甕の口縁部で、内外面はナデ調整である。130は5世紀、131・132は6世紀、133は7世紀、134は7世紀後半と考えられる。135～141は山茶碗である。135は小皿の口縁部～底部で、底面はヘラケズリである。136～141は碗である。136は胴部～底部で、底面は回転糸切り、外面は自然釉である。137も胴部～底部で、内外面は回転ナデである。138は口縁部～底部で、底面は回転糸切り、高台に粉殻痕が見られる。139は底部で、底面はロクロヘラケズリである。140は底部で、底面に墨書があり「十」の文字が判読できる。141は底部で、底面は回転糸切りである。135は13世紀、136は14世紀、137～141は15世紀と考えられる。142・143は陶器である。142は四耳壺の胴部で、耳部がわずかに残存する。

外面は沈線6条が見られる。14～15世紀と考えられる。143は瀬戸美濃の小皿の口縁部～底部で、内外面口縁部に釉が施される。底面は回転ヘラケズリ、見込み中央に釉が施される。17世紀と考えられる。144は青磁碗の口縁部である。18～19世紀と考えられる。145は滑石製の紡錘車で、上面が剥離している。重量10.5g。7世紀と考えられる。

【遺構名】B区2面SI045(竪穴建物)

146はB区2面SI045の出土遺物で、土師器甕の底部である。内面はナデ調整、外面は黒色化し煤が付着しているため調整不明であるが、カマドへの設置痕が見られる。9～11世紀と考えられる。

【遺構名】B区2面SD051(溝)

147はB区2面SD051の出土遺物で、山茶碗小皿の口縁部～底部である。底面は回転糸切りである。13世紀と考えられる。

【B区2面遺構外】

148～169はB区2面遺構外の出土遺物である。148～151は弥生土器である。148・149は高坏の脚部で、148は内外面が摩耗している。149は内面に絞り痕、外面は赤彩の痕跡が見られる。150は台付甕の胴部～台部で、内外面はナデ調整される。151は甕または壺の口縁部で、外面口縁端部に連続刺突文が施される。148～150は弥生後期、151は弥生中期と考えられる。152～156は須恵器である。152は瓶の口縁部で、外面はカキ目が施される。6世紀と考えられる。153は蓋のつまみ部で、宝珠形である。154～156は甕の胴部で、いずれも外面はタタキである。153～155は7～8世紀、156は8世紀と考えられる。157は土師器甕の口縁部で、内外面はナデ調整である。7～8世紀と考えられる。158は灰釉陶器碗の口縁部～胴部で、外面は釉が付着する。12世紀と考えられる。159は中世土師器非ロクロ小皿の口縁部で、手づくねである。13世紀と考えられる。160～162は山茶碗の碗である。162は高台に粉殻痕、底面はロクロ糸切り後ロクロヘラケズリである。外面に粘土塊が付着する。160・161は13世紀、162は15世紀と考えられる。163～167は陶器である。163はロクロ調整の小皿である。内面は口縁端部のみ自然釉が付着し、底面は回転糸切りである。12～13世紀と考えられる。164は碗の胴部～底部で、内外面は釉が施される。165・166は播鉢の底部で、165は内外面に錆釉、内面は櫛目である。166は内外面に鉄釉、内面に櫛目、外面底面に「×」が線刻される。167は瀬戸美濃の壺の胴部である。168は瓦質土器播鉢の口縁部～胴部で、内外面は研磨される。17～18世紀と考えられる。169は磁器お猪口の胴部～底部で、内面は二重圏線内に植物、外面は植物と圏線、底面に「寿」の文字が染付される。19世紀と考えられる。

(2) C区 (第38図～第41図、写真図版23～25)

① 1面(上層)

【遺構名】C区1面SD006(溝)

170～178はC区1面SD006の出土遺物である。170は須恵器坏身の胴部で、6世紀と考えられる。

171は山茶碗の碗の胴部～底部で、底面は回転糸切りである。13世紀と考えられる。172～177は陶器である。172は小皿の口縁部～底部で、内外面に錆釉が施される。173は瀬戸美濃の小皿の口縁部で、内外面に釉が施される。174は瀬戸美濃の碗の底部で、内外面は釉が施され、貫入が見られる。175は鉢の口縁部で内外面に釉が施される。176は瓶または壺の胴部～底部で、外面体部下半～底部に煤が付着している。177は甕の口縁部である。172～176は18世紀、177は18～19世紀と考えられる。178は瀬戸の磁器の小碗(お猪口)で、内外面に釉が施される。18世紀と考えられる。

【遺構名】 C区1面SD007(溝)

179～201はC区1面SD007の出土遺物である。179・180は弥生土器である。179は高坏の胴部～脚部で、脚部には径1.3cmの円形の透孔が4方向に見られる。上面が黒く煤けている。180は台付甕の胴部～台部で、外面はユビオサエの痕が見られる。弥生後期と考えられる。181～183は須恵器である。181・182は坏身で、内外面はロクロナデである。183は甕の胴部で、外面はタタキである。5世紀と考えられる。184・185は土師器である。184は甕の胴部で、185は甕の口縁部で、口縁部～頸部にかけてやや器壁が増す。いずれも7世紀と考えられる。186は灰釉陶器碗の底部で、底面は回転糸切りで、内面に一部自然釉が付着する。8世紀後半～9世紀と考えられる。187は山茶碗の碗の底部で、内面に自然釉が付着する。13世紀と考えられる。188は土師質土器焙烙の口縁部で、外面に煤が付着する。18世紀と考えられる。189～194は陶器である。189は瀬戸美濃の天目茶碗で、外面は鉄釉、内面は透明釉が施される。190は小皿で、内面に釉が施される。191は瀬戸美濃の碗で、内外面に釉が施される。192は瀬戸の小碗で、外面体部に植物・圏線、内面に圏線がある。193は小碗で、内外面に釉が施される。194は瓶(急須)の胴部～底部で、外面胴部～腰部にかけて鉄釉が施される。内外面に煤が付着、底面は静止糸切りである。189～191・194は18世紀、192・193は18世紀後半～19世紀前半と考えられる。195～198は磁器である。195は瀬戸の碗の底部で、内外面に透明釉が施される。高台に圏線、見込みに染付花・圏線がある。196は瀬戸の小皿の口縁部～底部で、内外面に透明釉が施される。197は徳利の胴部～底部で、胴部が膨らみをもち、外面胴部下半に蓮弁がある。198は瀬戸の大黒天顔面である。195・196・198は17～18世紀、197は19世紀と考えられる。199～201は木製品である。199は、針葉樹のマツ属複雑管束亜属の板材である。200は針葉樹のアスナロの木杭、201は針葉樹のスギの木杭である。17世紀以降と考えられる。

【遺構名】 C区1面SD008(溝)

202はC区1面SD008の出土遺物で、陶器擂鉢の底部である。底面は回転ヘラケズリで、内面は櫛目がある。17～18世紀と考えられる。

【遺構名】 C区1面SD009(溝)

203～206はC区1面SD009の出土遺物である。203・204は瀬戸美濃の陶器である。203は蓋の口縁部～底部で、内面は釉が施され、外面はロクロコテアテである。204は小皿の口縁部～底部で、内外面に釉が施され、内面に重ね焼き痕が見られる。18世紀と考えられる。205・206は磁器である。205は伊万里の碗の口縁部～胴部で、外面に染付で植物、内面に圏線がある。206は碗の底部で、内外面に釉が施される。205は17～18世紀、206は19世紀と考えられる。

【遺構名】 C区1面SD014(溝)

207はC区1面SD014の出土遺物で、灰釉陶器碗の底部である。底面は回転ヘラケズリ、内外面はロクロナデである。9～10世紀と考えられる。

【遺構名】 C区1面SD017(溝)

208～212はC区1面SD017の出土遺物である。208は山茶碗の碗の底部で、高台に靱殻痕が見られ、底面は未調整である。内面は自然釉が付着する。209～211は陶器である。209・210は瀬戸美濃の小皿である。209は外面に釉が施され、貫入が見られる。底部～底面に煤が付着する。210は口縁部で内外面に釉が施され、貫入が見られる。211は鍋の口縁部で、外面に鉄釉が施される。208は15世紀、209は17世紀、210・211は18世紀と考えられる。212は銭貨である。表裏ともに摩耗し緑青が付着しているため判別不能であるが、供伴土器の年代から寛永通宝の可能性はある。重量2.2g。17～18世紀と考えられる。

【遺構名】 C区1面SD018(溝)

213～215はC区1面SD018の出土遺物である。213・214は陶器瓶である。213は胴部下半～底部で、内外面に鉄釉が施される。底面はトチンの目跡が残る。214は胴部～底部で、外面は錆釉が施される。18世紀と考えられる。215は伊万里の磁器碗の口縁部～胴部上半で、外面は染付で植物、内面は圈線がある。18世紀と考えられる。

【C区1面遺構外】

216～219はC区1面遺構外の出土遺物である。216・217は陶器である。216は蓋の口縁部～底部で、底面は静止糸切り、内面は鉄釉が施される。217は茶碗の口縁部～底部で、内外面は釉が施され、底面は静止糸切りである。内面は貫入が見られ、トチンの目跡が残る。18世紀と考えられる。218・219は土錘で、中央が膨らむ細長い樽形である。218は背面に凹みが見られる。時期不明である。

② 2面(下層)

【遺構名】 C区2面SD020(溝)

220・221はC区2面SD020の出土遺物である。220は山茶碗小皿の胴部～底部で、高台は潰れたような状態である。221は陶器小型鉢の口縁部～胴部で、内外面に鉄釉が施される。外面胴部下半に煤が付着する。220は15世紀、221は18世紀と考えられる。

【C区2面遺構外】

222～239はC区2面遺構外の出土遺物である。222・223は弥生土器である。222は高坏の脚部で、内面は絞り痕が見られる。内外面ともに摩耗する。223は壺の口縁部で、外面口縁端部に赤彩の痕跡が見られる。弥生後期と考えられる。224・225は須恵器である。224は高坏の脚部で、内外面はロクロナデである。225は甕の胴部で、外面はタタキである。226は土師器甕の口縁部で、内外面はナデである。7世紀と考えられる。227は中世土師器の内耳鍋の口縁部で、内外面はナデである。16世紀と考えられる。228・229は灰釉陶器である。228は坏または皿で、内面全面に

煤痕が見られることから、灯明皿の可能性もある。229は碗の口縁部で、内外面の口縁部の一部に自然釉が付着する。228は8世紀後半～9世紀、229は10～11世紀と考えられる。230は山茶碗小皿の胴部～底部で、底面は回転糸切りである。13世紀と考えられる。231～234は陶器である。231は坏の口縁部～胴部で、内外面に緑釉が施される。232は播鉢の底部で、底面は回転ヘラケズリである。内外面ともに煤が付着する。233は小型壺の口縁部～胴部で、内外面に錆釉が施される。234は徳利の胴部～底部で、底面にトチン痕が残る。231は9～10世紀、232は17～18世紀、233・234は18世紀と考えられる。235・236は磁器である。235は小皿の胴部～底部で、底面は蛇目凹型高台、見込みに染付二重圏線、その内側に竹・梅がある。236は碗の胴部～底部で、高台に染付二重圏線、見込みに染付圏線、五弁花がある。235は18世紀後半～19世紀、236は18～19世紀と考えられる。

(三島)

(3) NR001(旧河道) (第42図、写真図版26)

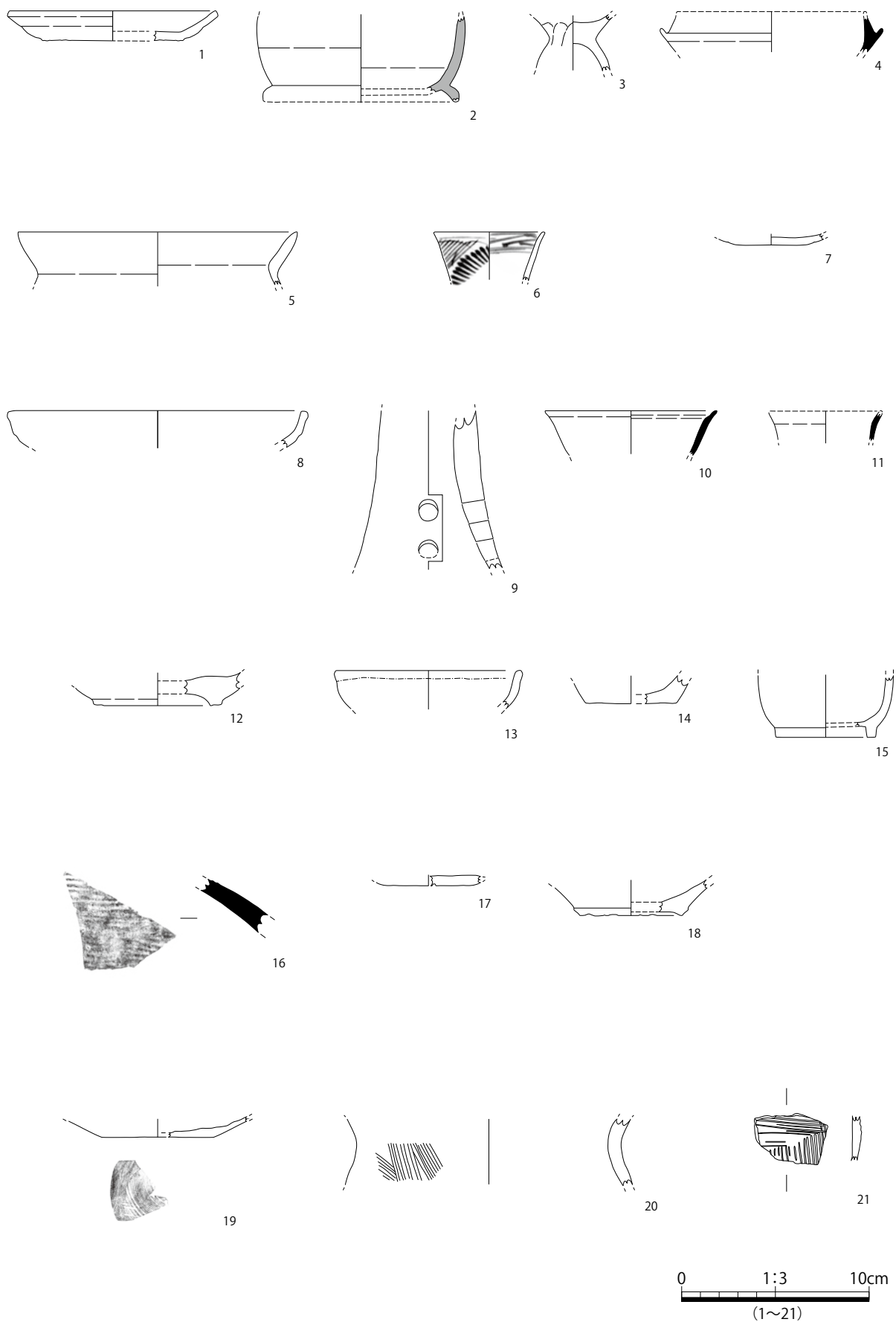
【A区1面】

237・239は西側トレンチからの出土である。237は弥生時代後期の弥生土器で、壺または高坏の口縁部である。内面に赤彩痕が残る。239は飛鳥～奈良時代(7～8世紀)の土師器で、甕の胴部である。238・240は東側トレンチからの出土である。238は飛鳥～奈良時代(7～8世紀)の土師器で、甕の口縁部である。240は戦国時代(16世紀後半)の陶器で、内耳鍋の口縁部～体部である。

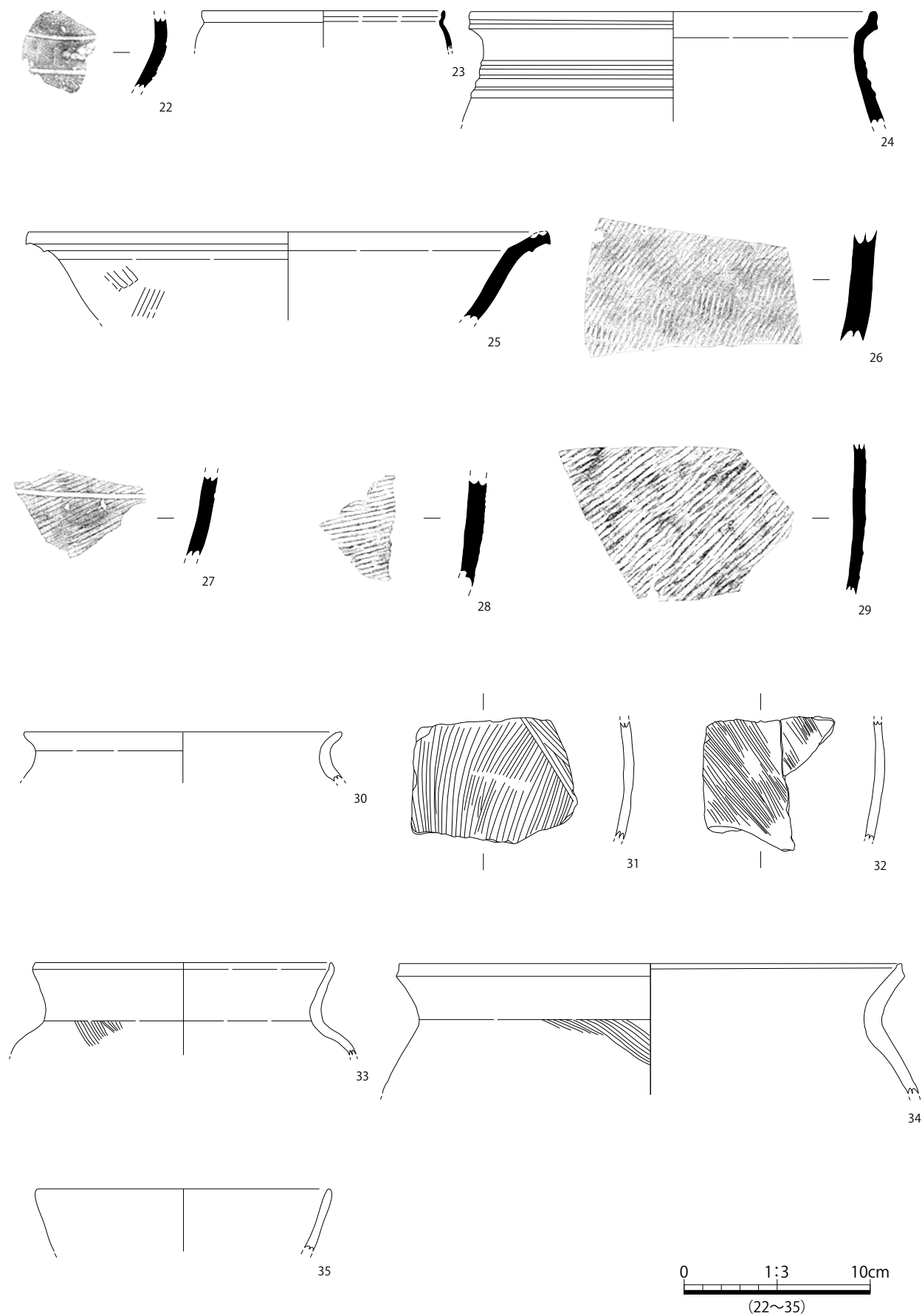
【B区2面】

241は古墳時代中期(5世紀)の須恵器で、甕の口縁部である。242は飛鳥良時代(7世紀中頃～後半)の須恵器、高坏の坏身である。

(基峰)

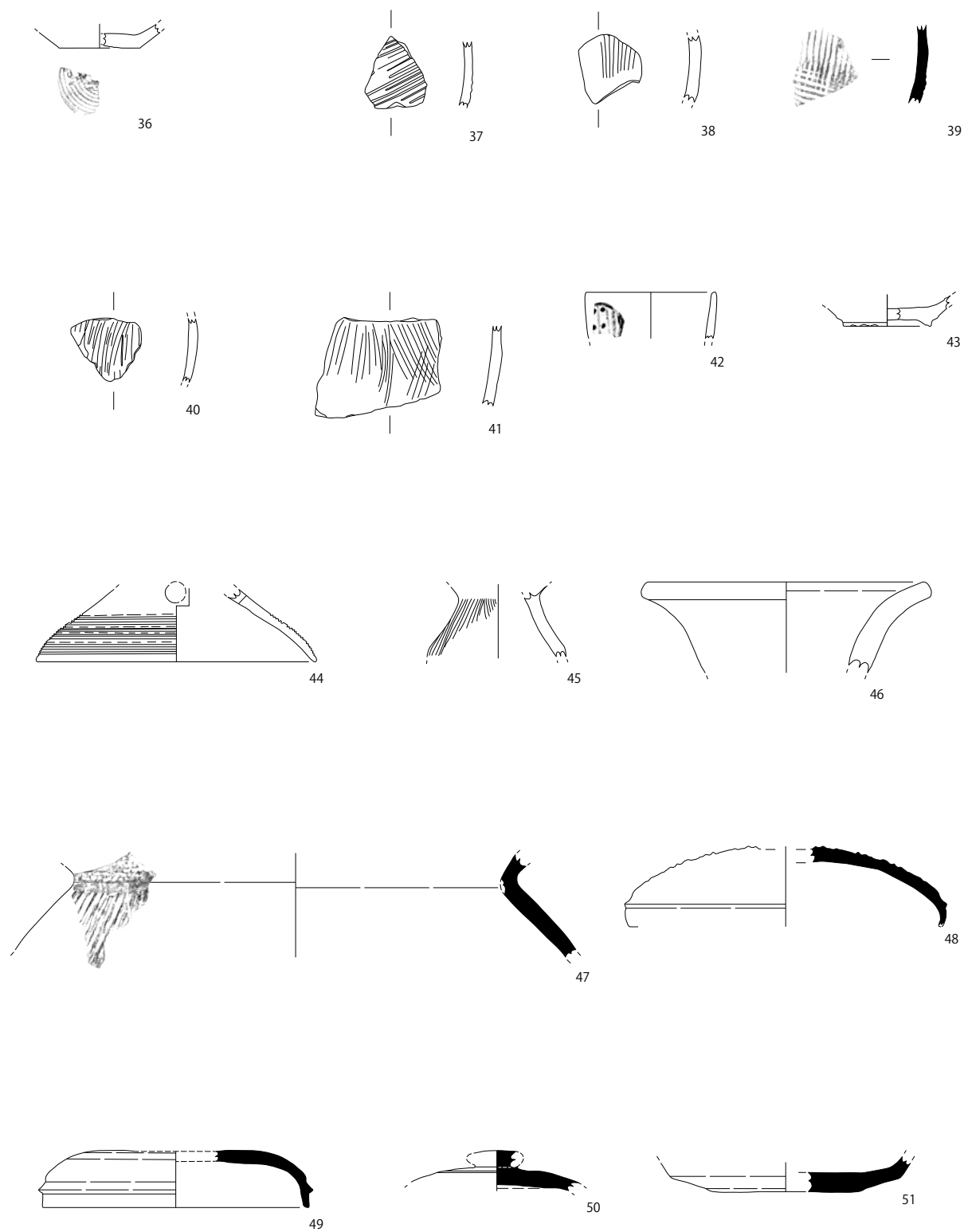


第28図 A区1面 遺物実測図 (1)



第29図 A区1面 遺物実測図 (2)

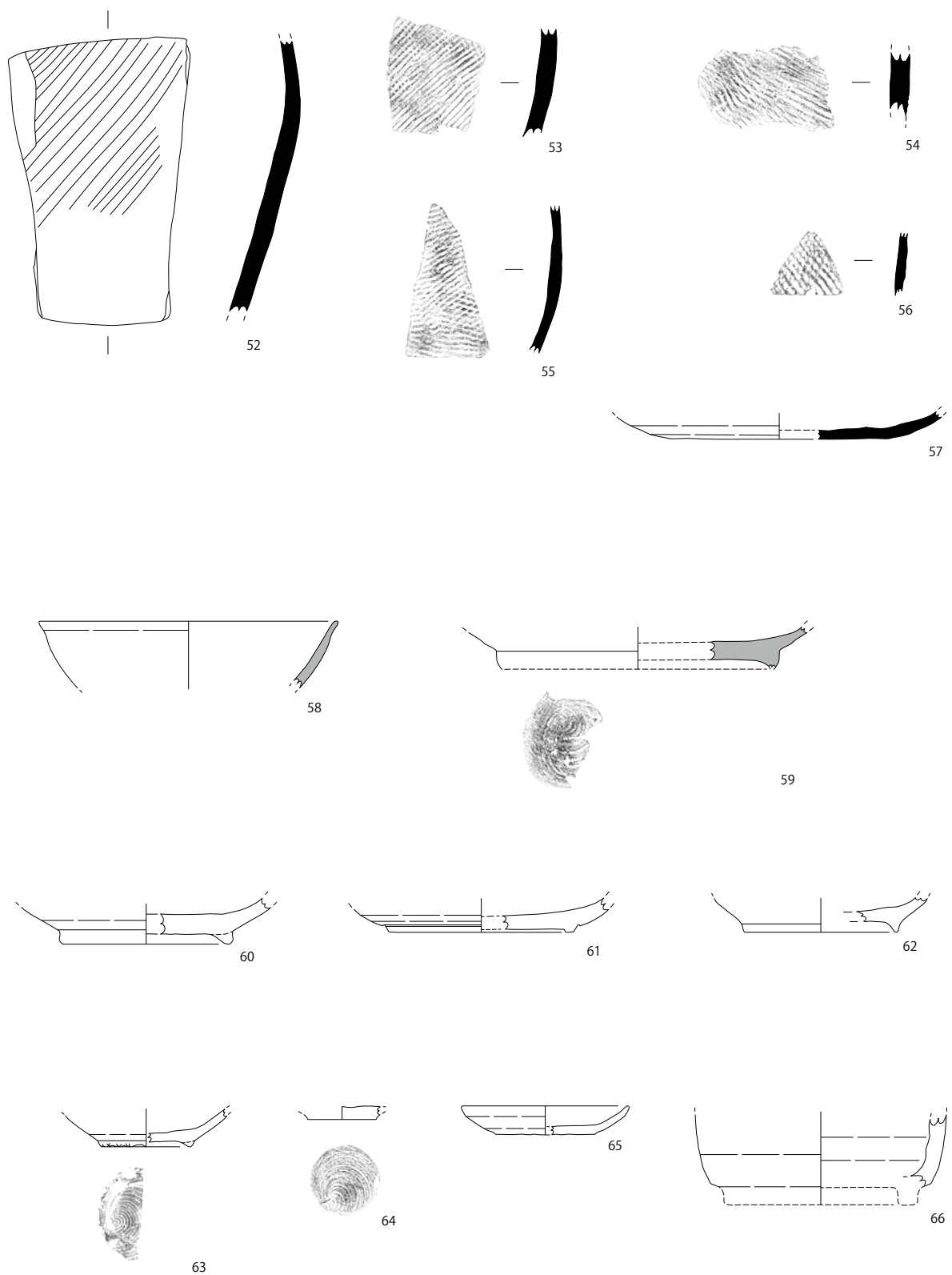
22~35:SD112



0 1:3 10cm
(36~51)

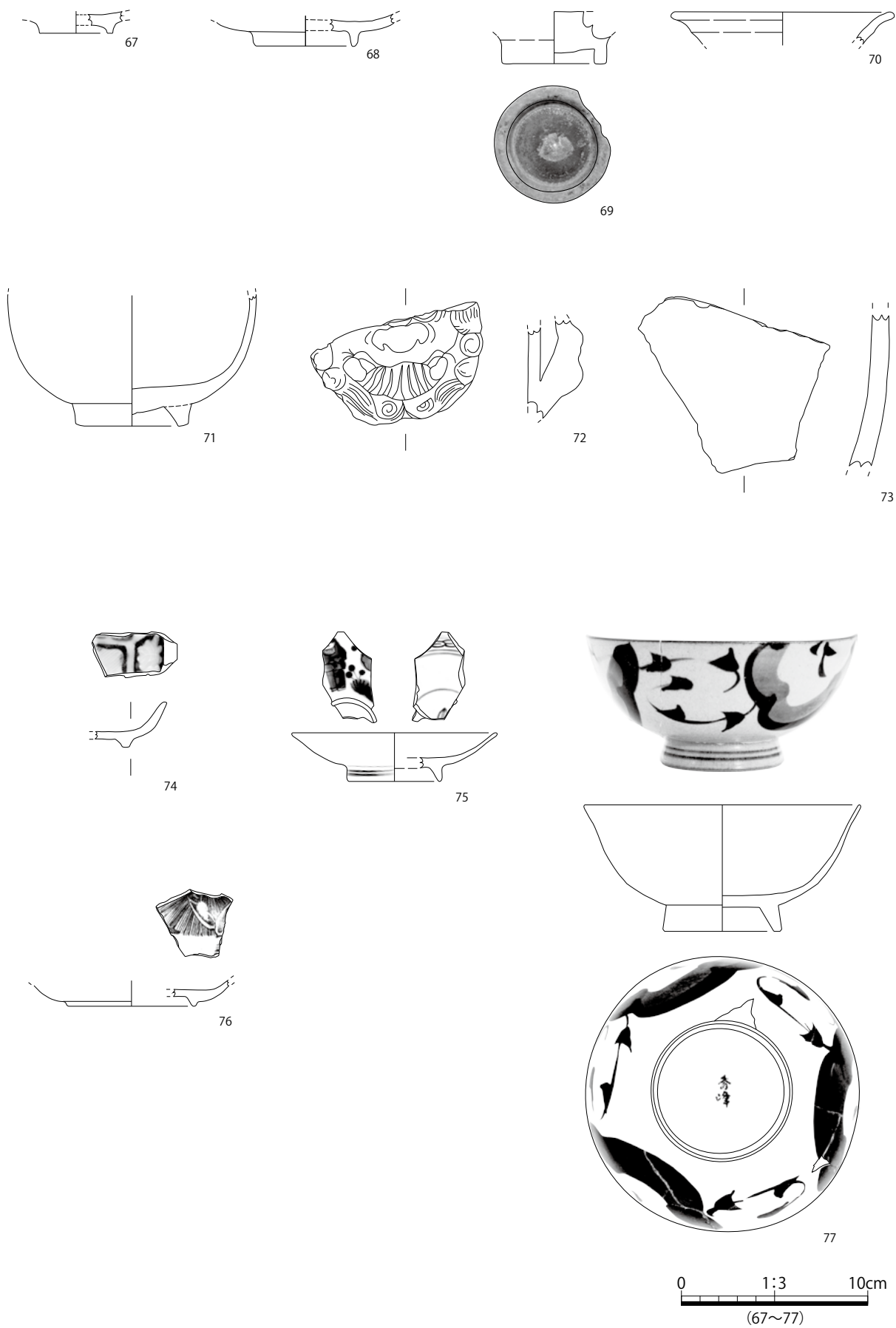
36:SP034 37:SP075 38~41:SP078 42: SX043 43: SX058
44~51: 遺構外

第30図 A区1面 遺物実測図 (3)



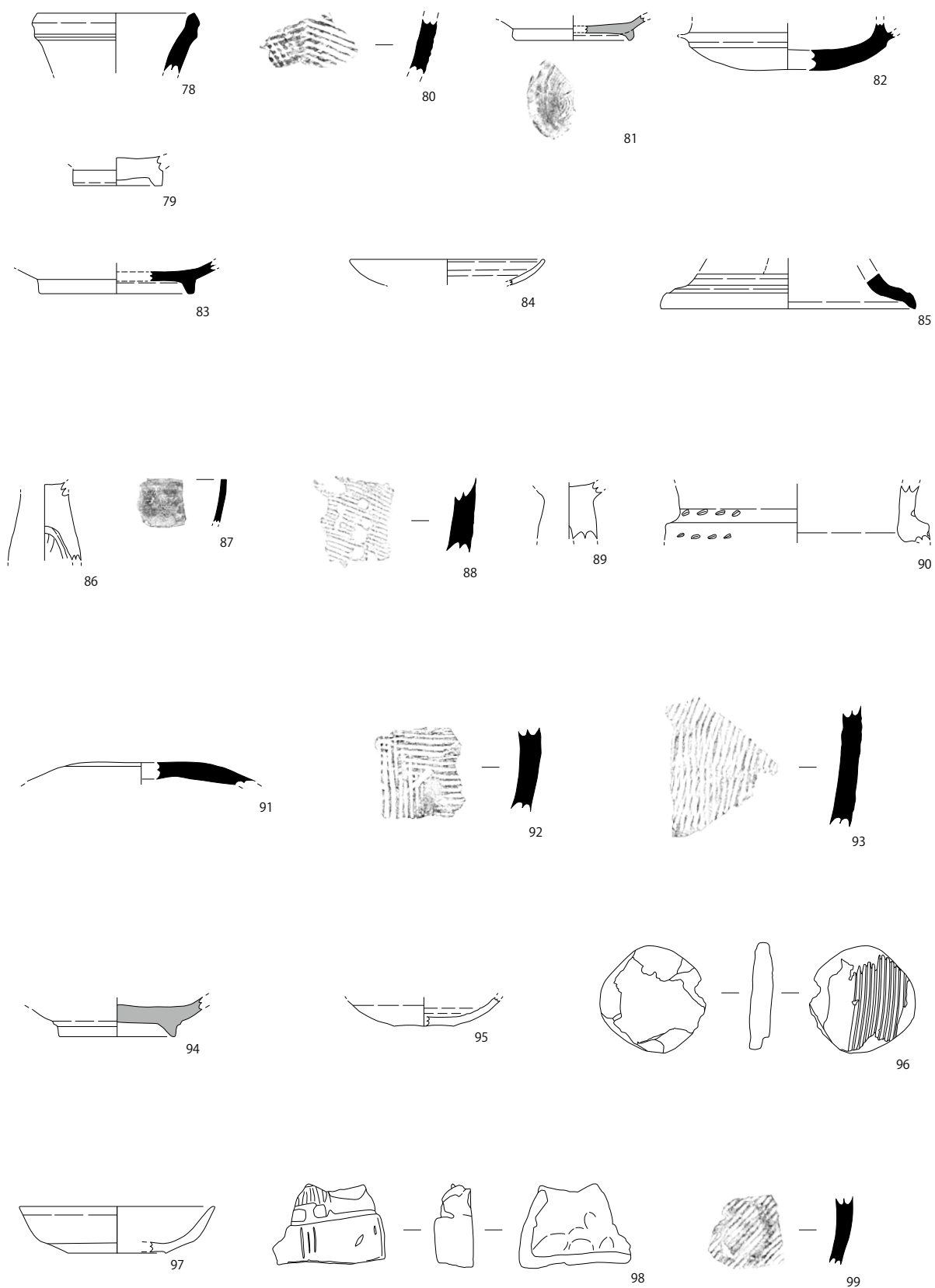
第31図 A区1面 遺物実測図 (4)

52~66:遺構外



第32図 A区1面 遺物実測図 (5)

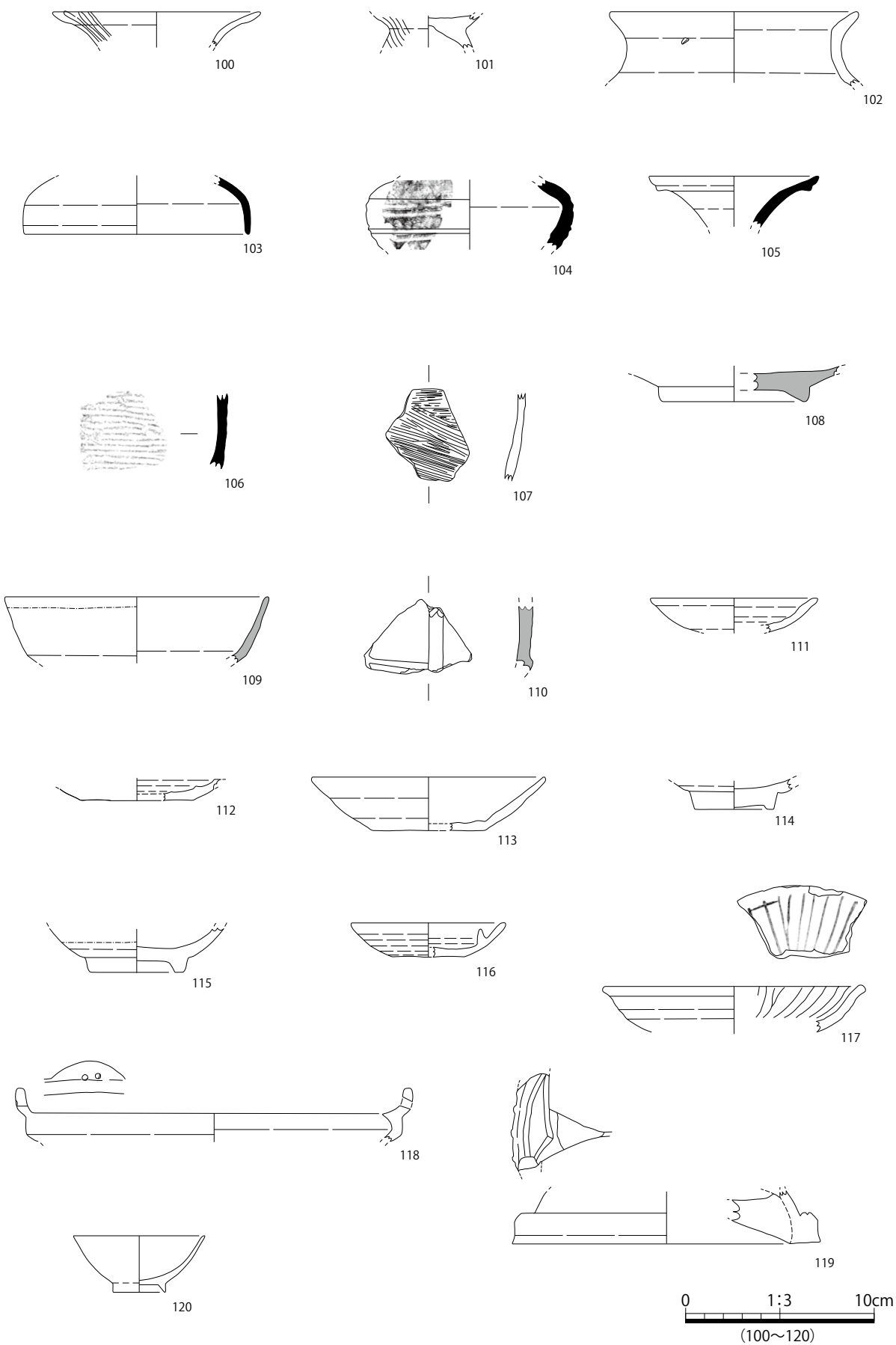
66~77:遺構外



0 1:3 10cm
(78~99)

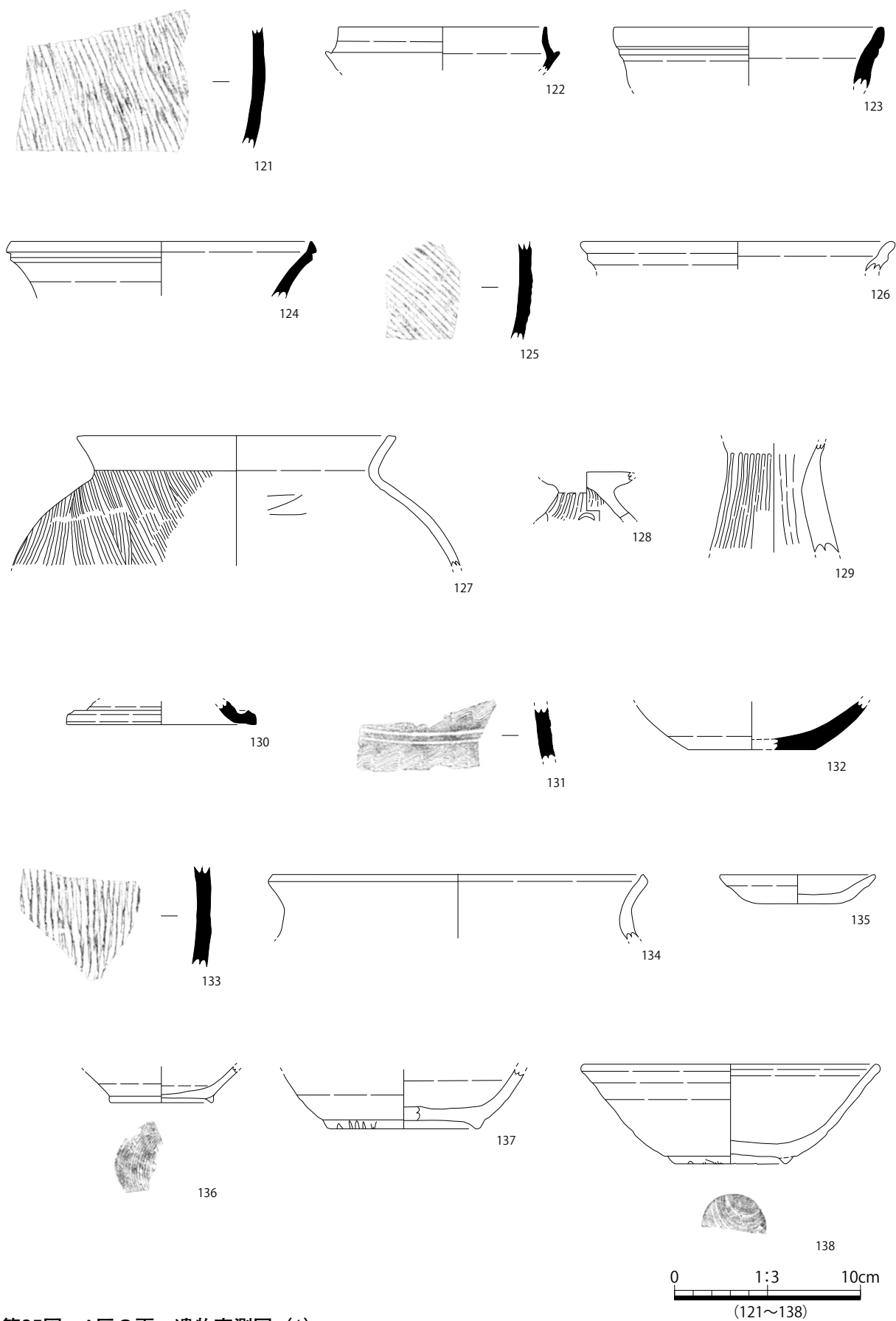
第33図 B区 1面 遺物実測図 (1)

78:SK004 79:SK006 80・81:SK008 82~84:SK010 85:SK014
86~88:SD003 89~95:SD023 96:SD024 97:SD026
98:SP029 99:SP032



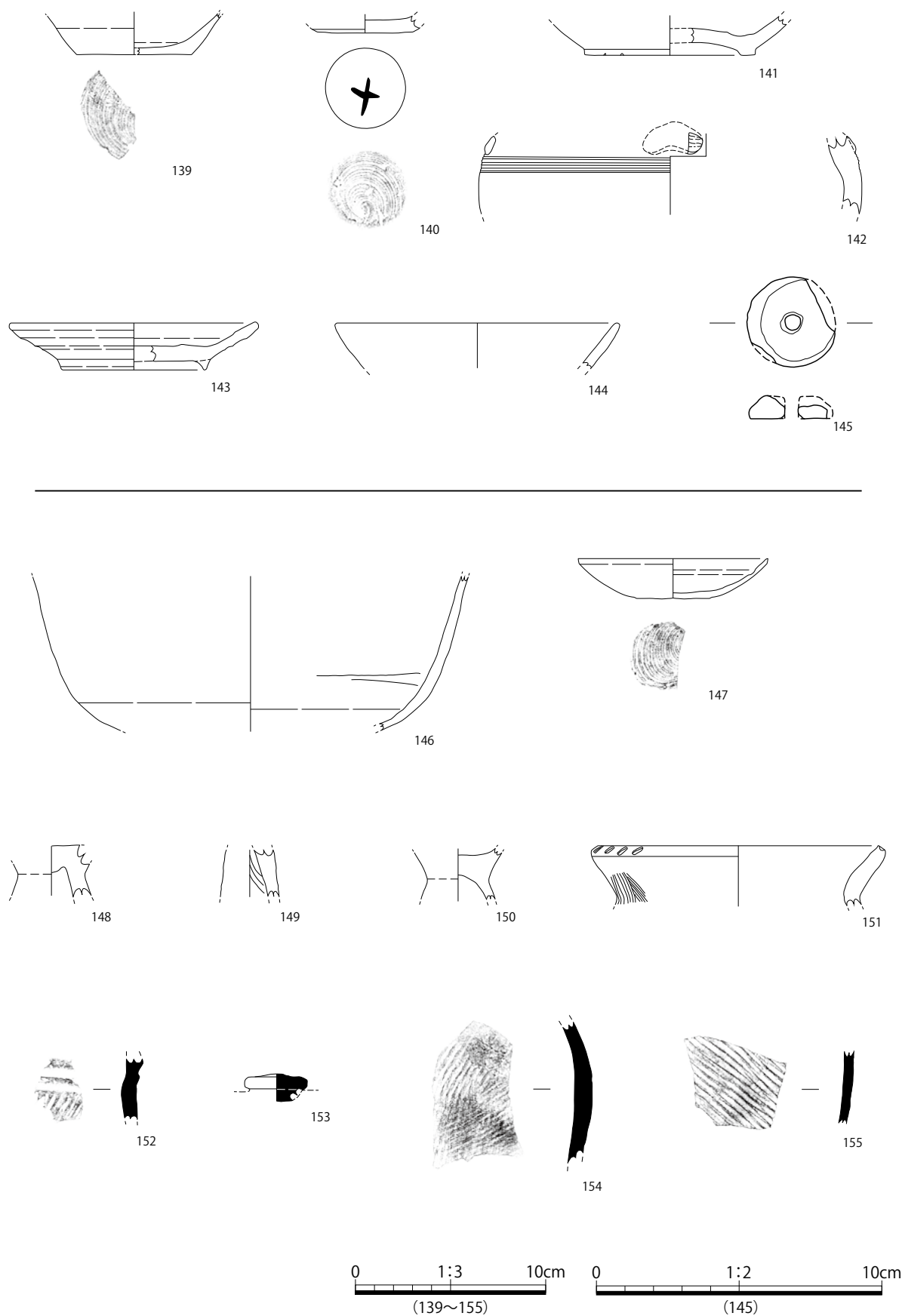
第34図 B区1面 遺物実測図 (2)

100~120:遺構外



第35図 A区2面 遺物実測図 (1)

121:SK121 122~124:SK123 125・126:SD118 127: SX119
128~138:遺構外



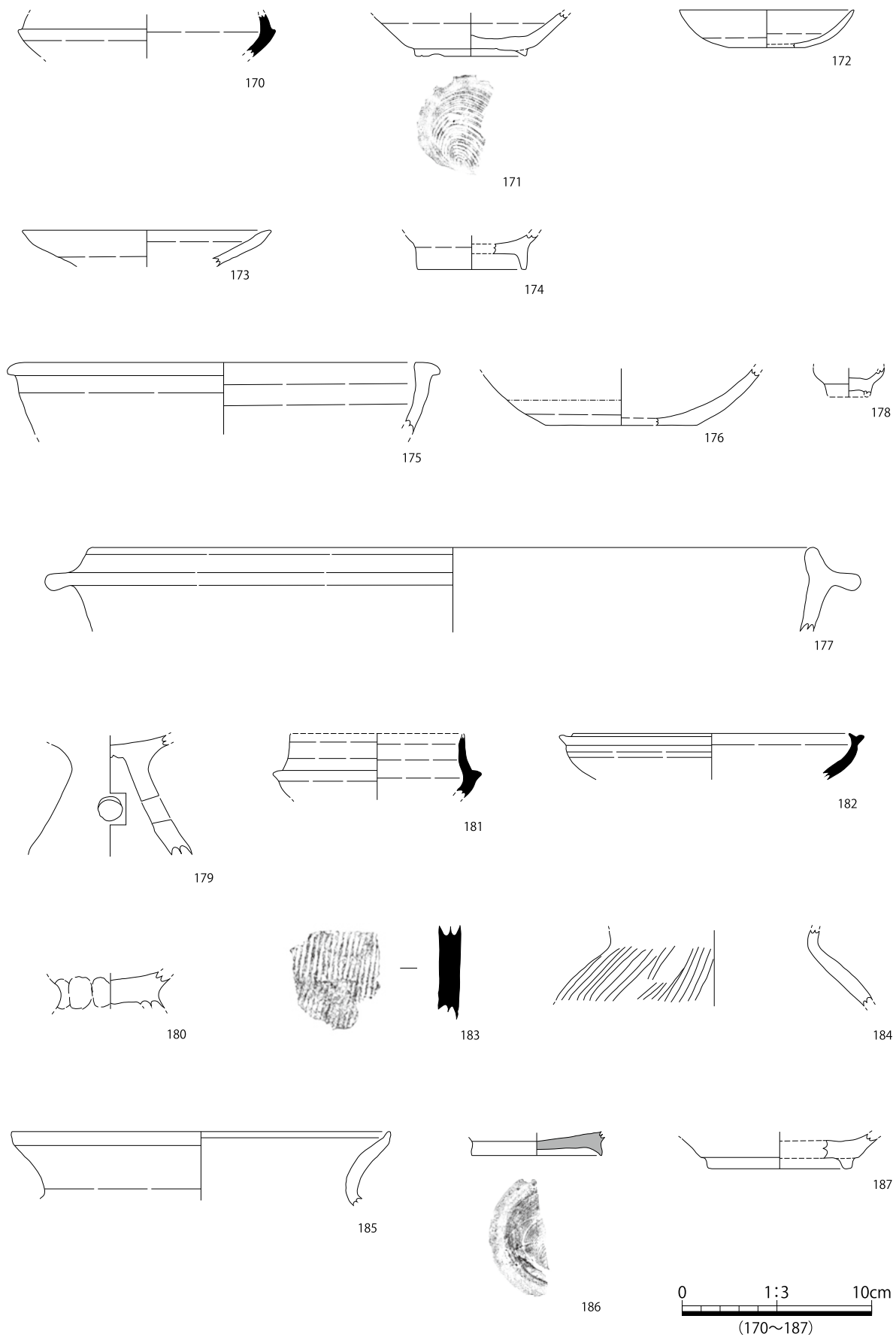
第36図 A区2面 遺物実測図(2)・B区2面 遺物実測図(1)

A区2面 139~145:遺構外
B区2面 146:SI045 147:SD051
148~155:遺構外



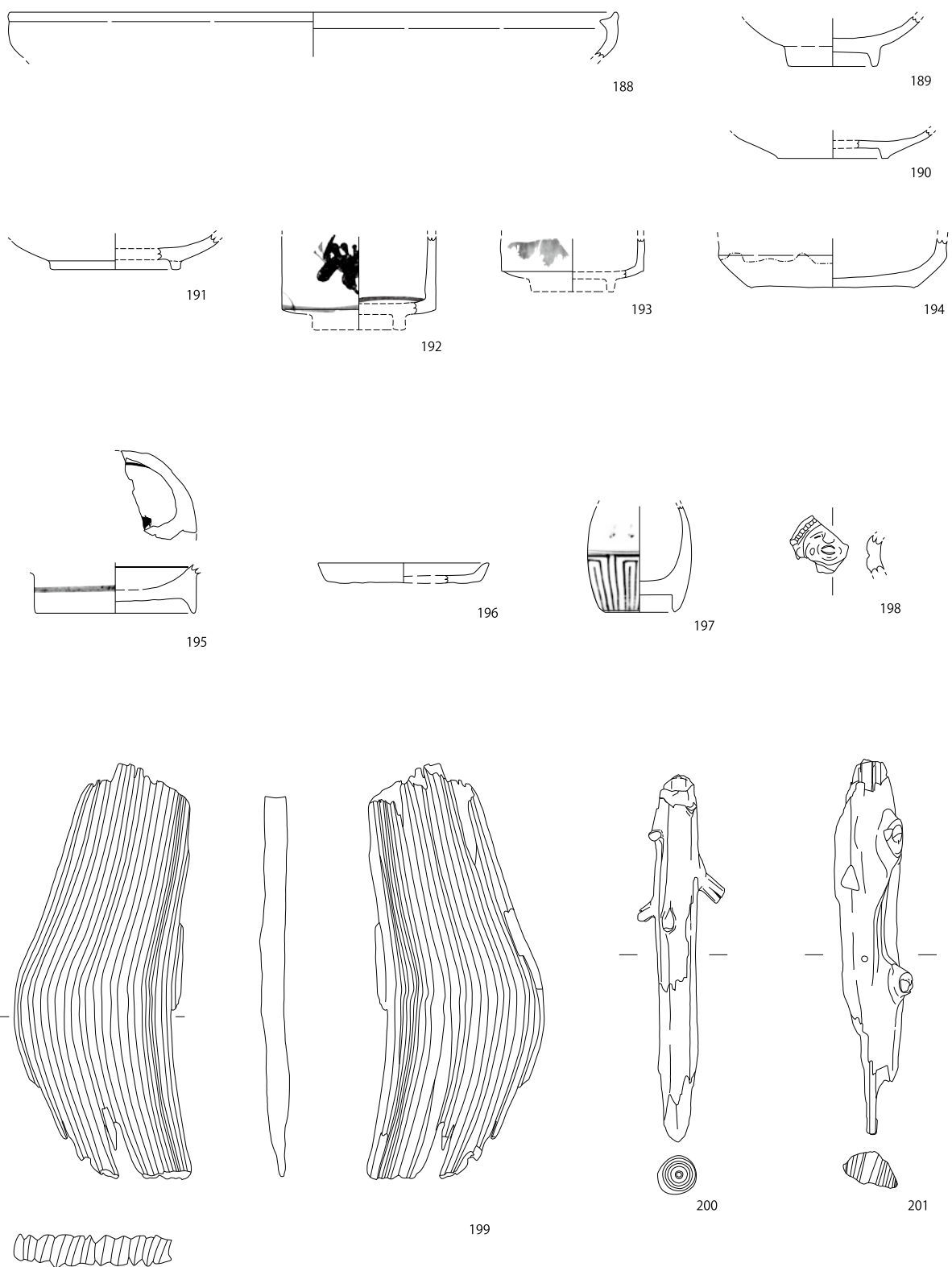
156~169:遺構外

第37図 B区2面 遺物実測図 (2)



第38図 C区 1面 遺物実測図 (1)

170~178:SD006 179~187:SD007

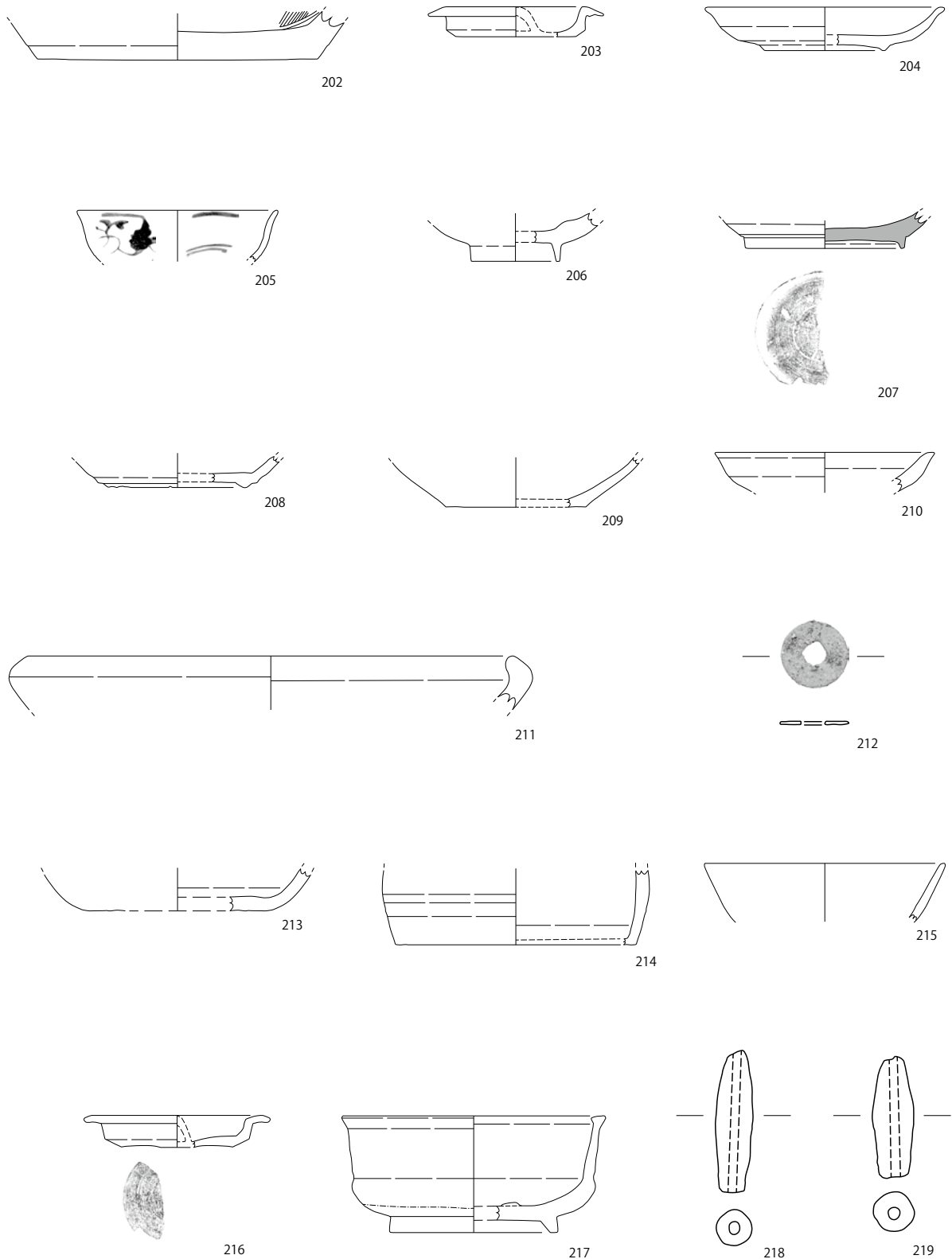


0 1:3 10cm
(188~198)

0 1:6 20cm
(199~201)

第39図 C区 1面 遺物実測図 (2)

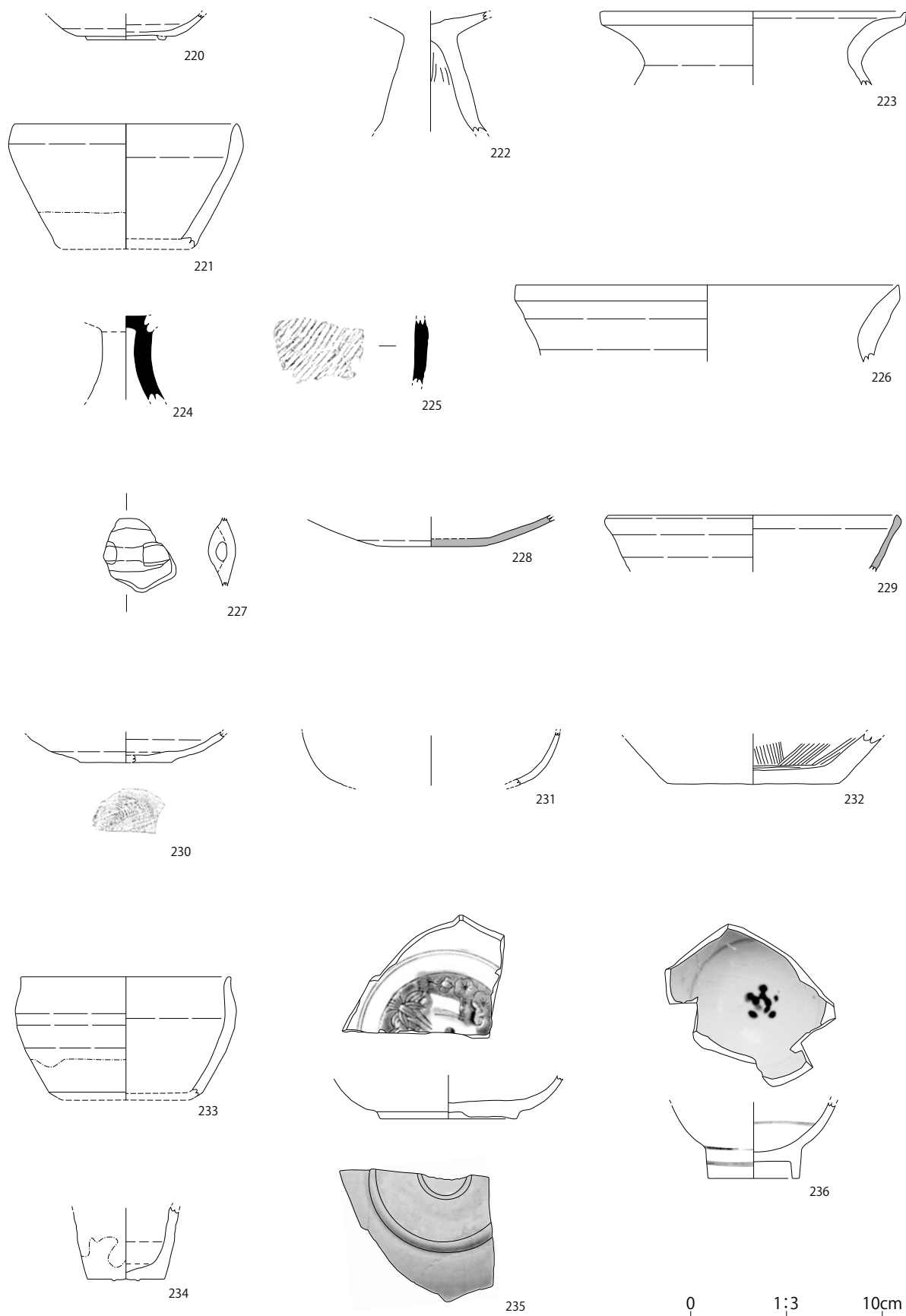
188~201:SD007



0 1:3 10cm 0 1:2 10cm
(202~211・213~217) (212・218・219)

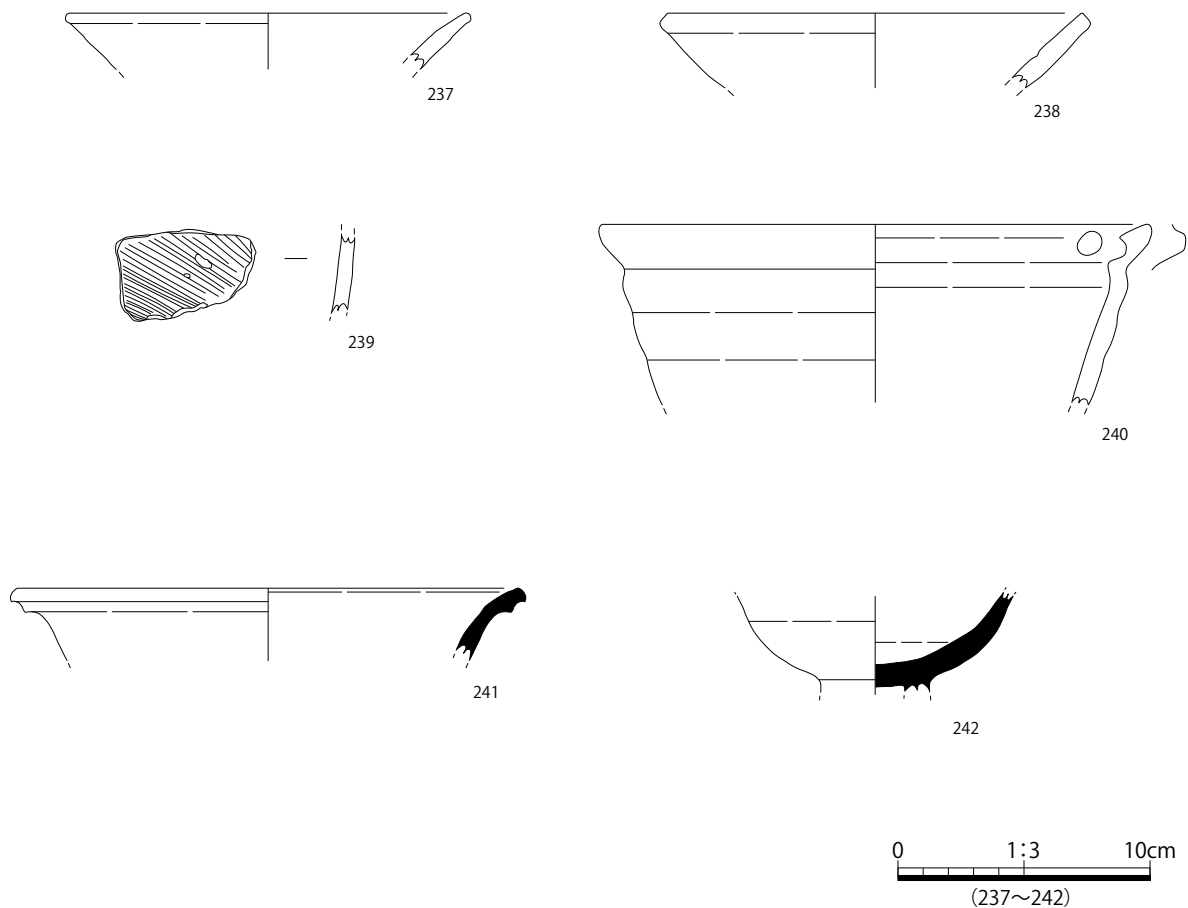
第40図 C区 1面 遺物実測図 (3)

202:SD008 203~206:SD009 207:SD014 208~212:SD017
213~215:SD018 216~219:遺構外



第41図 C区2面 遺物実測図

220・221:SD020 222～236:遺構外



237~240: A区 1 面
241・242: A区 2 面

第42図 NR001 遺物実測図

土器

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別 器種	寸法 (cm)			成形・調整・装飾等		胎土	焼成	色調		残存部 残存率	備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面		
28	1	A区 1面	SK059	山茶碗 小皿	(11.2)	(7.4)	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ、 底面：糸切り 後ヘラケズリ	緻密	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	口1/12 胴1/12 底1/12	16世紀
28	2	A区 1面	SD002	灰釉陶器 瓶	—	(10.2)	(4.5)	施釉、ロクロ ナデ	施釉、ロクロ ナデ	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	胴1/12 底1/12	9世紀
28	3	A区 1面	SD003	弥生土器 台付甕	—	—	(2.9)	摩耗	ユビオサエ、 ナデ、摩耗	並 白色粒を含む	不良	灰白 10YR 7/1	灰白 10YR 7/1	胴2/12 台2/12	弥生後期
28	4	A区 1面	SD003	須恵器 坏身	(10.0)	—	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰 N7	灰 N7	口1/12 胴1/12	6世紀
28	5	A区 1面	SD003	土師器 甕	(15.0)	—	(2.8)	ナデ、摩耗	ナデ、摩耗	並	良	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	口1/12	7世紀
28	6	A区 1面	SD004	磁器 小碗	(6.0)	—	(2.5)	施釉、染付	施釉、 染付：植物か	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	口1/12	19世紀
28	7	A区 1面	SD005	陶器 小皿	—	(3.6)	(0.6)	施釉（茶）、 重ね焼き痕	施釉（茶）、 重ね焼き痕	並	良	褐 10YR4/4	褐 10YR4/4	底6/12	瀬戸美濃 17～18世紀
28	8	A区 1面	SD005	陶器 皿	(16.0)	—	(2.0)	施釉	施釉	緻密	良	灰白 7.5Y7/2	灰白 7.5Y7/2	口1/12	17～18世紀
28	9	A区 1面	SD028	弥生土器 高坏	—	—	(8.4)	ナデ	摩耗、黒色の 付着物あり	並 白色粒を含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	脚4/12	透孔径1cm上下2段 弥生後期
28	10	A区 1面	SD029	須恵器 瓶又は壺	(9.2)	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰白 N7	灰 N6	口1/12	7世紀
28	11	A区 1面	SD039	須恵器 瓶又は壺	(6.0)	—	(1.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰 N6	灰 N6	口1/12	6～7世紀
28	12	A区 1面	SD039	山茶碗 碗	—	(6.8)	(1.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	並	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	底1/12	13世紀
28	13	A区 1面	SD039	陶器 小碗	(10.0)	—	(2.1)	口縁部施釉、 ロクロナデ	口縁部施釉、 ロクロナデ	緻密	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/1	口1/12	17～18世紀
28	14	A区 1面	SD052	縄文土器 深鉢	—	(4.8)	(1.5)	ナデ	ナデ	粗雑 1mm以下の白 色粒を含む	不良	黒褐 2.5Y3/1	暗灰黄 2.5Y5/2	底1/12	縄文時代中期～後期
28	15	A区 1面	SD052	陶器 小碗	—	(5.6)	(3.2)	ロクロナデ	施釉（透明）、 底面：ロクロ ナデ	緻密	良	淡黄 2.5Y8/3	灰白 10Y7/1	胴1/12 底1/12	17～18世紀
28	16	A区 1面	SD053	須恵器 甕	—	—	(2.9)	ロクロナデ	タタキ、摩耗	緻密	良	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	胴1/12	6～7世紀
28	17	A区 1面	SD053	山茶碗 小皿	—	(4.6)	(0.6)	ロクロナデ	ロクロナデ、 底面：回転糸 切り	緻密	良	灰白 10YR7/1	灰白 10YR7/1	底3/12	16世紀
28	18	A区 1面	SD053	山茶碗 碗	—	(5.6)	(1.9)	ロクロナデ	ロクロナデ、 高台：粗裁痕、 底面：ロクロ ナデ	緻密	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	底1/12	16世紀
28	19	A区 1面	SD055	山茶碗 小皿	—	(6.0)	(1.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、 底面：回転糸 切り	緻密	良	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	底2/12	16世紀
28	20	A区 1面	SD077	弥生土器 甕	—	—	(3.5)	ナデ、上面剥 離	ナデ、ハケ	緻密 白色粒を含む	良	明褐灰 7.5YR7/2	浅黄橙 7.5YR8/6	胴1/12	弥生後期
28	21	A区 1面	SD085	弥生土器 甕	—	—	(2.5)	ナデ	ヨコハケ、タ テハケ	並 1mm以下の長 石・石英を含 む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/4	胴1/12	弥生後期
29	22	A区 1面	SD112	須恵器 甕	—	—	(3.7)	ナデ	沈線文1条× 2で区画、波 状文8条、波 状文5条	緻密	良	灰白 N7	灰白 N7	胴1/12	7世紀
29	23	A区 1面	SD112	須恵器 壺	(13.0)	—	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰白 N8	灰白 N7	口1/12	8世紀
29	24	A区 1面	SD112	須恵器 壺	(22.0)	—	(6.0)	自然釉（緑）	ロクロナデ、 沈線	緻密	良	灰白 N7	灰白 N7	口1/12 胴1/12	8世紀
29	25	A区 1面	SD112	須恵器 甕	(28.0)	—	(4.7)	ロクロナデ	ロクロナデ、 タタキ	緻密	良	灰 N6	灰 N6	口1/12	7世紀初頭
29	26	A区 1面	SD112	須恵器 甕	—	—	(6.0)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰白 N7	灰 N6	胴1/12	7世紀
29	27	A区 1面	SD112	須恵器 甕	—	—	(4.2)	ナデ	タタキ、 沈線1条	緻密	良	灰白 7.5Y8/1	灰白 N7	胴1/12	7世紀
29	28	A区 1面	SD112	須恵器 甕	—	—	(5.7)	ナデ	タタキ	並	不良 (土師 質)	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	胴1/12	7世紀
29	29	A区 1面	SD112	須恵器 甕	—	—	(8.1)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰白 N7	灰 N6	胴1/12	7世紀
29	30	A区 1面	SD112	土師器 甕	(17.0)	—	(2.6)	ナデ	ナデ	並 白色粒を含む	良	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	口1/12	7世紀
29	31	A区 1面	SD112	土師器 甕	—	—	(6.3)	ケズリ、 ユビオサエ	ハケ	並 2mm以下の石英・ 長石を含む	良	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/4	胴1/12	7世紀
29	32	A区 1面	SD112	土師器 甕	—	—	(6.1)	ケズリ	ハケ	並	良	灰白 10YR8/2	にぶい黄褐 10YR5/3	胴1/12	7世紀
29	33	A区 1面	SD112	土師器 甕	(16.0)	—	(5.0)	ナデ、ハケ	口縁部ヨコナ デ、体部ハケ	並	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/1	口6/12 胴1/12	7世紀後半

第4表 遺物観察表（1）

土器

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別 器種	寸法 (cm)			成形・調整・装飾等		胎土	焼成	色調		残存部 残存率	備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面		
29	34	A区 1面	SD112	土師器 甕	(27.0)	—	(7.0)	ナデ	口縁部ナデ、 体部ハケ	並	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	口4/12 胴4/12	7世紀後半
29	35	A区 1面	SD112	青磁 碗	(16.0)	—	(3.4)	施釉	施釉	緻密	良	灰オリーブ 5Y5/3	灰オリーブ 5Y5/3	口1/12	18～19世紀
30	36	A区 1面	SP034	山茶碗 小皿	—	(4.0)	(1.2)	ロクロナデ、 釉付着	ロクロナデ、底 面：回転糸切り	緻密	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	底1/12	13世紀
30	37	A区 1面	SP075	土師器 甕	—	—	(3.2)	ナデ	ハケ	並 3mm以下の石英・ 長石を含む	良	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR4/2	胴1/12	7世紀
30	38	A区 1面	SP078	弥生土器 甕	—	—	(3.4)	ナデ	ハケ、ナデ	並 白色粒を含む	良	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	胴1/12	弥生後期
30	39	A区 1面	SP078	須恵器 甕	—	—	(3.9)	ナデ	タタキ	並	不良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/2	胴1/12	7世紀
30	40	A区 1面	SP078	土師器 甕	—	—	(3.2)	ナデ	ハケ	並 1mm以下の白色 粒・黒色粒を含む	良	浅黄橙 10YR8/3	黒褐 10YR3/2	胴1/12	7世紀
30	41	A区 1面	SP078	土師器 甕	—	—	(4.1)	ナデ	ハケ、スス付 着	並	良	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	胴1/12	7世紀
30	42	A区 1面	SX043	陶器 小碗	(6.5)	—	(2.3)	白釉	白釉、染付： 植物か	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	口1/12	17～18世紀
30	43	A区 1面	SX058	山茶碗 碗	—	(4.4)	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ、高 台：粉殻痕、底 面：ロクロナデ	並	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	底1/12	16世紀
30	44	A区 1面	表土掘削	弥生土器 高坏	—	-14	((3.6))	ミガキ	ミガキ、描 文、刺突文(赤 彩か)	緻密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	脚2/12	円形透孔あり (推定径1.0cm) 弥生後期
30	45	A区 1面	清掃	弥生土器 台付甕	—	—	(3.4)	ナデ剥離あり	体部ナデ、 台部ハケ	並 白色粒を含む	良	にぶい橙 7.5YR7/3	橙 7.5YR7/6	底2/12	弥生後期
30	46	A区 1面	表土掘削	弥生土器 壺	(14.0)	—	(4.5)	ナデ	ナデ	緻密 白色粒を含む	良	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/3	口4/12	弥生後期
30	47	A区 1面	清掃	須恵器 甕	—	—	(5.1)	ロクロナデ、 ヘラケズリ	ロクロナデ、 タタキ	緻密	良	灰白 N7	灰白 N7	胴1/12	6～7世紀
30	48	A区 1面	遺構検出	須恵器 坏蓋	((15.8))	—	(4.0)	回転ナデ	天井部：不明 (灰付着のた め)、口縁： 回転ナデ	緻密 2mm以下の白色 粒を含む	良	灰 N6	灰白 N7	口1/12 天井2/12	7世紀前半
30	49	A区 1面	排土	須恵器 坏蓋	(13.2)	—	(2.9)	ロクロナデ	回転ヘラケズ リ、ロクロナ デ、自然釉、 重ね焼き痕	緻密	良	灰 N6	灰黄 2.5Y7/2	口1/12 天井3/12	7世紀後半
30	50	A区 1面	遺構検出	須恵器 蓋	—	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、 自然釉	緻密 白色粒を含む	良	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	つまみ 6/12 天井5/12	7～8世紀
30	51	A区 1面	表土掘削	須恵器 瓶又は壺	—	(7.6)	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰白 N7	灰白 N7	底1/12	7世紀
31	52	A区 1面	表土掘削	須恵器 甕	—	—	(13.4)	ユビオサエ、 ナデ	タタキ、施釉 (緑釉)	緻密	良	黄灰 2.5Y6/1	灰オリーブ 7.5Y5/2	胴1/12	7世紀
31	53	A区 1面	表採	須恵器 甕	—	—	(5.3)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰 N6	灰 N6	胴1/12	7世紀
31	54	A区 1面	清掃	須恵器 甕	—	—	(3.4)	ナデ	タタキ	並	良	灰白 N7	灰白 N7	胴1/12	7世紀
31	55	A区 1面	表土掘削	須恵器 甕	—	—	(7.2)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰黄 2.5Y7/2	灰 5Y6/1	胴1/12	7世紀
31	56	A区 1面	遺構検出	須恵器 甕	—	—	(3.2)	ナデ、当て具 痕か	タタキ	緻密	良	灰白 N7	灰 N6	胴1/12	7～8世紀
31	57	A区 1面	遺構検出	須恵器 皿	—	(11.0)	(1.4)	回転ナデ	回転ヘラケズ リ	緻密 1mm以下の白色 粒を含む	良	灰 N5	灰 N6	底2/12	8世紀
31	58	A区 1面	表土掘削	灰釉陶器 碗	(15.0)	—	(3.3)	施釉	ロクロナデ	緻密	良	灰白 5Y7/2	灰白 5Y8/1	口1/12 胴1/12	9世紀
31	59	A区 1面	清掃	灰釉陶器 皿	—	(13.6)	(2.0)	施釉、ロクロ ナデ(研磨)	ロクロナデ、 施釉、底面： 回転糸切り	緻密 2mm以下の白色 粒を含む	良	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	底2/12	9世紀
31	60	A区 1面	表土掘削	山茶碗 碗	—	(8.4)	(2.4)	自然釉	ロクロナデ	緻密	良	灰白 5Y7/2	灰白 5Y8/1	胴1/12 底1/12	高台：貼り付け 12世紀後半～13世紀初頭
31	61	A区 1面	遺構検出	山茶碗 碗	—	(9.2)	(1.7)	ロクロナデ	ロクロコテアテ、 底面：ロクロ ヘラケズリ	並	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	胴1/12	13世紀
31	62	A区 1面	清掃	山茶碗 碗	—	(7.6)	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	並 1～5mmの白色 粒を含む	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/2	底2/12	13世紀
31	63	A区 1面	清掃	山茶碗 碗	—	(4.6)	(1.9)	ロクロナデ	ロクロナデ、高 台：粉殻痕、底 面：回転糸切り	並	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	胴3/12 底5/12	16世紀
31	64	A区 1面	清掃	山茶碗 小皿	—	(3.4)	(0.7)	ロクロナデ	ロクロナデ、底 面：回転糸切り	緻密	良	灰白 2.5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	底12/12	13世紀
31	65	A区 1面	清掃	山茶碗 小皿	(8.4)	(5.0)	(1.4)	ロクロナデ	ロクロナデ、ロ クロコテアテ、 底面：回転糸 切り	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	口1/12 胴1/12 底3/12	16世紀

第4表 遺物観察表 (2)

土器

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別 器種	寸法 (cm)			成形・調整・装飾等		胎土	焼成	色調		残存部 残存率	備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面		
31	66	A区 1面	清掃	陶器 天目茶碗	—	—	(3.7)	鉄釉	鉄釉、ロクロ ナデ、ロクロ ヘラケズリ	並	良	黒 5Y2/1	黒 5Y2/1	胴1/12 底1/12	15～16世紀
32	67	A区 1面	清掃	陶器 碗	—	(4.0)	(1.2)	施釉 (白)	施釉	並	不良	灰白 2.5Y8/2	淡黄 2.5Y8/3	底4/12	17～18世紀
32	68	A区 1面	清掃	陶器 碗	—	(5.4)	(1.6)	施釉貫入、染 付圏線	施釉貫入	相雑	普通	灰白 5Y8/1	灰白 5Y7/1	底2/12	17～18世紀
32	69	A区 1面	清掃	陶器 碗	—	(5.6)	(2.8)	施釉 (緑)	施釉 (緑)、 高台内：蛇の 目軸剥ぎ	並	良	灰白 7.5Y8/2	灰オリーブ 7.5Y6/2	底11/12	19世紀
32	70	A区 1面	清掃	陶器 瓶又は碗	(12.0)	—	(1.8)	施釉、ロクロ ナデ	施釉	緻密	良	浅黄 5Y7/3	浅黄 5Y7/3	口3/12	瀬戸美濃 17～18世紀
32	71	A区 1面	表土掘削	陶器 茶碗	—	(6.0)	(7.0)	施釉	施釉、ロクロ ナデ	緻密	良	灰白 7.5Y8/2	灰白 7.5Y7/2	胴7/12 底8/12	19世紀
32	72	A区 1面	清掃	陶器 瓶掛	—	—	(5.3)	鉄釉 (ハケ塗 り)	施釉 (呂宋)、 獅子頭文	並	良	オリーブ灰 10Y4/2	オリーブ灰 10Y4/2	胴1/12	18世紀後半 ～19世紀
32	73	A区 1面	表土掘削	陶器 甕	—	—	(8.1)	施釉	施釉	緻密	良	浅黄 5Y7/4	浅黄 5Y7/3	胴1/12	19世紀
32	74	A区 1面	排土	陶器 型打皿	—	—	(2.4)	染付：区画内 に植物、施釉	施釉	緻密	良	明緑灰 10G7/1	明青灰 10BG7/1	口1/12 胴1/12 底1/12	17～18世紀
32	75	A区 1面	表土掘削	磁器 小皿	(11.0)	(5.0)	(2.6)	染付：圏線・ 植物・雲形	染付：人物・ 植物 高台： 三重圏線	緻密	良	灰白 N8	灰白 N8	口1/12 胴2/12 底2/12	19世紀
32	76	A区 1面	検出面	磁器 皿	—	(6.8)	(1.5)	施釉、文様	施釉	緻密	良	灰白 N8	灰白 N8	胴1/12 底1/12	19世紀
32	77	A区 1面	排土	磁器 茶碗	14.6	6.5	6.8	施釉	施釉 染付： 植物、高台： 二重圏線	緻密	良	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	口11/12 胴11/12 底12/12	19世紀
33	78	B区 1面	SK004	須恵器 甕又は壺	(8.0)	—	(3.3)	施釉	口縁施釉、ロ クロナデ	緻密	良	灰白 7.5Y8/1	灰 N6	口2/12	7世紀
33	79	B区 1面	SK006	陶器 天目茶碗	—	(4.5)	(1.7)	鉄釉	ロクロヘラケズリ 高台・底面：ロクロ ヘラケズリ出し	緻密	良	黒褐 10YR2/2	灰白 2.5Y8/2	底6/12	15世紀
33	80	B区 1面	SK008	須恵器 甕	—	—	(2.8)	自然釉	タタキ	緻密	良	灰オリーブ 5Y6/2	黄灰 2.5Y6/1	胴1/12	8～9世紀
33	81	B区 1面	SK008	灰釉陶器 小皿	—	(6.0)	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、底面： 回転糸切り後回転 ヘラケズリ	緻密	良	灰白 2.5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	底3/12	8世紀後半～9世紀
33	82	B区 1面	SK010	須恵器 坏身	—	—	(2.4)	ロクロナデ	ロクロナデ、 ロクロケズリ	緻密	良	灰白 N7	灰 N6	胴2/12	6世紀
33	83	B区 1面	SK010	山茶碗 碗	—	(8.0)	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密 2mm以下の白 色粒を含む	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	底2/12	13世紀
33	84	B区 1面	SK010	山茶碗 皿	(10.0)	—	(1.3)	ロクロコテア テ	ロクロナデ	並	良	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	口2/12 胴1/12	15～16世紀
33	85	B区 1面	SK014	須恵器 高坏	(10.0)	—	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1	脚1/12	8～9世紀
33	86	B区 1面	SD003	弥生土器 高坏	—	—	(4.0)	絞り	ナデ、摩耗	緻密	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	脚7/12	弥生後期
33	87	B区 1面	SD003	須恵器 甕又は壺	—	—	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、 波状文8条	緻密 白色粒を含む	良	灰 N5	灰 N5	口1/12 胴1/12	5世紀
33	88	B区 1面	SD003	須恵器 甕	—	—	(3.8)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰 5Y6/1	灰白 2.5Y7/1	胴1/12	7～8世紀
33	89	B区 1面	SD023	弥生土器 高坏	—	—	(2.9)	絞り	ナデ、摩耗	並	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	胴5/12 脚5/12	弥生後期
33	90	B区 1面	SD023	弥生土器 壺	—	—	(3.0)	ナデ、摩耗	ナデ、連続刺 突	緻密 白色粒を含む	良	浅黄橙 7.5YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/4	口1/12	弥生後期
33	91	B区 1面	SD023	須恵器 坏蓋	—	—	(1.1)	ロクロナデ	ロクロケズリ、 ロクロナデ	緻密 白色粒を含む	良	灰白 N8	灰 N5	天井3/12	6～7世紀
33	92	B区 1面	SD023	須恵器 甕	—	—	(4.3)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 N7	胴1/12	7～8世紀
33	93	B区 1面	SD023	須恵器 甕	—	—	(6.0)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰 N5	灰白 N7	胴1/12	7～8世紀
33	94	B区 1面	SD023	灰釉陶器 碗	—	(6.0)	(2.0)	施釉、ロクロ ナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	胴1/12 底2/12	8世紀後半～9世紀
33	95	B区 1面	SD023	山茶碗 小皿	—	(3.0)	(1.5)	ロクロコテア テ	ロクロナデ、底 面：回転糸切り	並	良	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	胴2/12 底3/12	15世紀
33	97	B区 1面	SD026	陶器 小皿	(10.0)	(5.0)	(2.4)	口縁鉄釉、ロ クロナデ	口縁鉄釉、ロ クロナデ、ロクロ ヘラケズリ	緻密	良	灰白 10YR7/1	にぶい黄橙 10YR7/2	口2/12 胴1/12 底1/12	16世紀
33	99	B区 1面	SX032	須恵器 甕	—	—	(3.4)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰 N5	灰 N5	胴1/12	7～8世紀
34	100	B区 1面	表土掘削	弥生土器 高坏又は 器台	(11.0)	—	(1.8)	赤彩	ナデ、ミガキ	緻密	良	橙 2.5YR7/8	浅黄橙 10YR8/4	口2/12	弥生後期
34	101	B区 1面	遺構検出	弥生土器 台付甕	—	—	(1.8)	ナデ、摩耗	ハケ	並 白色粒を含む	良	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	胴2/12 脚2/12	弥生後期
34	102	B区 1面	遺構検出	弥生土器 甕	(13.0)	—	(3.9)	ナデ、剥離有 り	ナデ、初穀圧 痕有り	並 黒色粒を含む	良	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	口2/12	弥生後期
34	103	B区 1面	東壁整形	須恵器 坏蓋	(12.0)	—	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰 N4	灰 N6	口3/12 天井1/12	7世紀

第4表 遺物観察表 (3)

土器

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別 器種	寸法 (cm)			成形・調整・装飾等		胎土	焼成	色調		残存部 残存率	備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面		
34	104	B区 1面	遺構検出	須恵器 甕	—	—	(3.7)	ロクロナデ	沈線、波状文4 条、ロクロナデ	緻密	良	灰 N6	灰白 N7	胴2/12	7世紀
34	105	B区 1面	遺構検出	須恵器 甕	(9.0)	—	(2.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰白 N7	黒褐 10YR3/1	口2/12	7～8世紀
34	106	B区 1面	遺構検出	須恵器 甕	—	—	(4.0)	ナデ	タタキ、釉薬 (自然釉か施 釉かは不明)	緻密	良	黄灰 2.5Y6/1	灰黄 2.5Y7/2	胴1/12	8～9世紀
34	107	B区 1面	遺構検出	土師器 甕	—	—	(4.7)	ナデ	ハケ	緻密	良	淡黄 2.5Y8/4	にぶい黄橙 10YR7/2	胴1/12	4世紀
34	108	B区 1面	遺構検出	灰釉陶器 皿	—	(7.8)	(1.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y8/1	胴2/12 底4/12	8世紀後半～9世紀
34	109	B区 1面	表土掘削	灰釉陶器 碗	(14.0)	—	(3.5)	ロクロナデ	施釉、ロクロ ナデ	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y7/1	口1/12 胴1/12 底1/12	9世紀
34	110	B区 1面	遺構検出	灰釉陶器 四足壺	—	—	(3.4)	ロクロナデ	灰釉、突帯に よる区画	緻密	普通	灰白 10YR7/1	灰オリーブ 7.5Y6/2	胴1/12	10世紀
34	111	B区 1面	遺構検出	山茶碗 小皿	(9.2)	—	(1.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	黒褐 10YR3/1	灰黄 2.5Y6/2	口3/12 胴1/12	15～16世紀
34	112	B区 1面	遺構検出	山茶碗 碗	—	(6.0)	(1.2)	ロクロコテア テ	ロクロナデ	緻密	良	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	胴1/12 底2/12	15世紀
34	113	B区 1面	遺構検出	山茶碗 碗	(12.3)	(6.0)	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ、 底面：ロクロ ヘラケズリ	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	口2/12 胴2/12 底2/12	15世紀
34	114	B区 1面	表土掘削	陶器 天目茶碗	—	(4.3)	(1.6)	鉄釉	ロクロコテア テ、高台・底 面：ヘラケズ リ出し	緻密	良	黒褐 10YR3/2	灰黄 2.5Y7/2	胴1/12 底11/12	瀬戸美濃 14世紀後半～15世紀
34	115	B区 1面	遺構検出	陶器 天目茶碗	—	(5.0)	(2.3)	錆釉	ロクロコテア テ、高台・底 面：ロクロヘ ラケズリ出し	並	不良	淡黄 2.5Y8/3	褐 7.5YR4/3	胴4/12 底4/12	瀬戸美濃 17～18世紀
34	116	B区 1面	遺構検出	陶器 灯明皿	(8.2)	(3.8)	(1.8)	ロクロナデ、 鉄釉	ロクロコテア テ、底面：ロ クロナデ、口 縁部に鉄釉	緻密	良	にぶい赤褐 5YR4/3	にぶい黄橙 10YR7/3	口7/12 胴7/12 底7/12	瀬戸美濃 17～18世紀
34	117	B区 1面	遺構検出	陶器 皿	(13.2)	—	(2.5)	施釉、線文	施釉	並	良	灰黄 2.5Y7/2	灰白 5Y8/1	口1/12	瀬戸美濃 17～18世紀
34	118	B区 1面	南壁整形	陶器 双耳鍋	(20.0)	—	(2.9)	鉄釉	鉄釉	緻密	不良	暗褐 7.5YR3/3	暗褐 7.5YR3/4	口1/12	18～19世紀
34	119	B区 1面	遺構検出	陶器 五徳	—	(16.4)	(2.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	底1/12	19～20世紀
34	120	B区 1面	表土掘削	磁器 小碗	(7.0)	(2.8)	(3.0)	透明釉	透明釉	緻密	不良	白 N9	白 N9	口2/12 胴7/12 底7/12	19世紀
35	121	A区 2面	SK121	須恵器 甕	—	—	(6.5)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰白 N8	灰 N6	胴1/12	6世紀
35	122	A区 2面	SK123	須恵器 坏身	(11.2)	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰 N5	灰 N5	口1/12	5世紀
35	123	A区 2面	SK123	須恵器 壺	(14.6)	—	(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密 1mm以下の白 色粒を含む	良	灰 N6	灰 N6	口1/12	6世紀
35	124	A区 2面	SK123	須恵器 壺	(16.0)	—	(3.0)	ロクロナデ、 自然釉	ロクロナデ	緻密	良	灰白 N7	灰白 N7	口1/12	6世紀
35	125	A区 2面	SD118	須恵器 甕	—	—	(5.4)	ナデ、自然釉	タタキ	緻密 2mm以下の白色 粒を少量含む	良	オリーブ灰 2.5GY6/1	灰白 N7	胴1/12	7世紀
35	126	A区 2面	SD118	土師器 甕	(17.0)	—	(1.6)	ナデ	ナデ	並 1mm以下の白 色粒を含む	良	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	口1/12	4世紀
35	127	A区 2面	SX119	土師器 甕	(17.4)	—	(7.0)	ナデ、工具痕 有り	口縁部：ナデ、 体部：ハケ	緻密 白色粒を含む	良	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	口5/12 胴4/12	7世紀
35	128	A区 2面	遺構検出	弥生土器 高坏	—	—	(2.6)	絞り、ナデ	ナデ、ミガキ	緻密 白色粒を含む	良	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	胴5/12 脚5/12	透孔4方向 弥生後期
35	129	A区 2面	杭NO.17 の下	弥生土器 器台	—	—	(5.7)	絞り、上部は 磨滅	ミガキ、上部 は剥離	緻密 白色粒 を含む	良	灰白 10YR8/1	浅黄橙 10YR8/3	脚10/12	弥生後期
35	130	A区 2面	遺構検出	須恵器 高坏	—	(10.2)	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ	緻密	良	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	脚3/12	5世紀
35	131	A区 2面	包含層掘 削(東側)	須恵器 器台	—	—	(2.7)	自然釉	波状文2条以 上、沈線文2 条、波状文9 条以上	緻密 1mm以下の白色 粒を少量含む	良	オリーブ灰 10Y4/2	黒 10Y2/1	脚1/12	6世紀
35	132	A区 2面	包含層掘 削(西側 河川)	須恵器 壺	—	(6.8)	(2.6)	ロクロナデ	ロクロヘラケ ズリ、底面： ロクロ糸切り	緻密	良	灰白 N7	灰 N6	底2/12	6世紀
35	133	A区 2面	包含層 掘削	須恵器 甕	—	—	(5.4)	ナデ	タタキ、自然 釉	並	良	灰白 N8	灰白 2.5Y7/1	胴1/12	7世紀
35	134	A区 2面	遺構検出	須恵器 甕	(20.0)	—	(3.5)	ナデ	ナデ	並	良	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	口2/12	7世紀後半
35	135	A区 2面	清掃	山茶碗 小皿	(8.4)	(4.7)	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ、 底面：ヘラケ ズリ、未調整	並 2mm以下の 白色粒を含む	良	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	口5/12 胴6/12 底7/12	13世紀

第4表 遺物観察表 (4)

土器

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別 器種	寸法 (cm)			成形・調整・装飾等		胎土	焼成	色調		残存部 残存率	備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面		
35	136	A区 2面	包含層掘削 (西側河川)	山茶碗 碗	—	(5.6)	(1.9)	自然釉、ロク ロナデ	回転ナデ、 底面：回転糸 切り	緻密	良	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	胴3/12 底3/12	14世紀
35	137	A区 2面	遺構検出	山茶碗 碗	—	(8.2)	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ	並 2mm以下の白 色粒を含む	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	胴2/12 底2/12	15世紀
35	138	A区 2面	包含層掘削	山茶碗 碗	(15.7)	(6.0)	(5.4)	回転ナデ	回転ナデ、底 面：回転糸切 り、高台：杓 殻痕	並	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/2	口2/12 胴4/12 底6/12	15世紀
36	139	A区 2面	遺構検出	山茶碗 碗	—	(6.0)	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、 底面：ロクロ ヘラケズリ	並	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	底2/12	15世紀
36	140	A区 2面	包含層掘削	山茶碗 碗	—	(4.5)	(0.9)	ロクロナデ	ロクロナデ、 底面：回転糸 切り、墨書「 十」	緻密	良	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2	底12/12	墨書土器 15世紀
36	141	A区 2面	包含層掘削 (東側)	山茶碗 碗	—	(9.0)	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、 底面：回転糸 切り(不明瞭)	並 1～6mmの白 色粒・黒色粒 を含む	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	底4/12	15世紀
36	142	A区 2面	遺構検出	陶器 四耳壺	—	—	(4.2)	ナデ	耳部残存、沈 線6条、ナデ、 摩耗風化	並	良	淡黄 2.5Y8/3	灰白 2.5Y8/2	胴1/12	14～15世紀
36	143	A区 2面	北壁整形	陶器 小皿	(12.8)	(7.6)	(2.5)	口縁部施釉、 回転ナデ、回 転ナデ、ヘラ ケズリ、見込 中央：施釉	口縁部施釉、 回転ナデ、回 転ナデ、底面 ：回転ヘラ ケズリ	並 1mm以下の白 色粒を少量含 む	良	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	口3/12 胴3/12 底3/12	瀬戸美濃 17世紀
36	144	A区 2面	側溝内	青磁 碗	(15.0)	—	(2.4)	施釉	施釉	並	良	灰オリーブ 7.5Y6/2	灰オリーブ 7.5Y6/2	口1/12	18～19世紀
36	146	B区 2面	SI045	土師器 甕	—	—	(8.1)	ナデ	不明、黒色化 ス付着	並	良	浅黄橙 10YR8/3	黒 10YR7/1	底4/12	外面にカマドへ の設置痕あり 9～11世紀
36	147	B区 2面	SD051	山茶碗 小皿	(10.0)	(3.9)	(2.1)	ロクロコテア テ、ロクロナ デ	ロクロナデ、 底面：回転糸 切り	緻密	良	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	口1/12 胴3/12 底5/12	13世紀
36	148	B区 2面	重機掘削 (西側)	弥生土器 高坏	—	—	(2.7)	摩耗	摩耗、(赤彩)	並 白色粒を含む	良	明褐灰 7.5YR7/2	にぶい橙 7.5YR7/3	脚2/12	弥生後期
36	149	B区 2面	遺構検出	弥生土器 高坏	—	—	(2.4)	絞り	赤彩	緻密 白色粒を含む	良	灰白 5YR8/2	橙 5YR7/6	脚3/12	弥生後期
36	150	B区 2面	遺構検出	弥生土器 台付甕	—	—	(2.6)	ナデ	ナデ、磨滅	並 白色粒を含む	不良	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	胴1/12 台1/12	弥生後期
36	151	B区 2面	排土 (西側)	弥生土器 甕又は壺	(15.0)	—	(3.1)	ナデ	口縁端部連続 刻突、ナデ、 ハケ	並 白色粒を含む	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/4	口1/12	弥生中期
36	152	B区 2面	遺構検出	須恵器 瓶	—	—	(3.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、 カキ目	緻密	良	灰 N6	灰 N5	口1/12	6世紀
36	153	B区 2面	清掃	須恵器 蓋	—	—	(1.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密 白色粒を含む	良	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	つまみ 12/12	7～8世紀
36	154	B区 2面	重機掘削 (西側)	須恵器 甕	—	—	(7.4)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰 N6	灰 N5	胴1/12	7～8世紀
36	155	B区 2面	排土 (西側)	須恵器 甕	—	—	(3.8)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰 N6	暗灰 N3	胴1/12	7～8世紀
37	156	B区 2面	重機掘削 (西側)	須恵器 甕	—	—	(5.2)	ナデ、一部釉	タタキ、釉剥 離	緻密	良	灰 N5	灰白 N7	胴1/12	8世紀
37	157	B区 2面	重機掘削 (西側)	土師器 甕	(14.0)	—	(2.7)	ナデ、摩耗	ナデ、摩耗	並	良	淡黄 2.5Y8/3	灰白 2.5Y8/2	口1/12	7～8世紀
37	158	B区 2面	遺構検出	灰釉陶器 碗	(14.0)	—	(4.2)	回転ナデ	回転ナデ、釉 付着	緻密 1mm以下の白 色粒を含む	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y8/1	口1/12 胴 1/12	12世紀
37	159	B区 2面	重機掘削 (西側)	中世土師 器 非ロクロ 小皿	(7.0)	—	(1.2)	手づくね	手づくね	並	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	口3/12	13世紀
37	160	B区 2面	排土 (西側)	山茶碗 碗	(14.0)	—	(3.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密 1mm以下の白 色粒を含む	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	口2/12 胴2/12	13世紀
37	161	B区 2面	遺構検出	山茶碗 碗	(14.0)	—	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ	緻密	良	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	口1/12 胴1/12	13世紀
37	162	B区 2面	重機掘削 (西側)	山茶碗 碗	—	(3.0)	(2.5)	ロクロナデ	ロクロナデ、 高台：杓殻 痕、底面：ロ クロ糸切り後 ロクロヘラケ ズリ、粘土塊 付着	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	胴3/12 底5/12	15世紀
37	163	B区 2面	—	陶器 小皿	10.6	4.4	2.4	ロクロナデ、 口縁端部のみ 自然釉	ロクロナデ、 底面：回転糸 切り	緻密	良	灰白 5Y8/1	にぶい橙 7.5YR6/4	口12/12 胴12/12 底12/12	ロクロ調整皿 12～13世紀
37	164	B区 2面	遺構検出	陶器 碗	—	(5.2)	(1.2)	施釉、ロクロ ナデ	施釉、底面に ロクロヘラケ ズリ	緻密	良	灰オリーブ 7.5Y5/2	浅黄 5Y7/3	胴5/12 底10/12	17～18世紀

第4表 遺物観察表 (5)

土器

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別 器種	寸法 (cm)			成形・調整・装飾等		胎土	焼成	色調		残存部 残存率	備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面		
37	165	B区 2面	重機掘削 (西側)	陶器 擂鉢	—	(9.0)	(3.2)	錆釉、櫛目	錆釉	並	良	灰黄褐 10YR4/2	褐 10YR4/4	底1/12	17～18世紀
37	166	B区 2面	東壁整形	陶器 擂鉢	—	(5.8)	(2.6)	鉄釉、櫛目	鉄釉、底面： 線刻「×」	並	良	黒褐 5YR3/1	黒褐 5YR3/1	底3/12	17～18世紀
37	167	B区 2面	北壁整形	陶器 壺	—	—	(2.9)	施釉	施釉	並	良	淡黄 5Y8/3	灰白 5Y8/2	胴1/12	瀬戸美濃 17～18世紀
37	168	B区 2面	水路下 (A・Bの 間)	瓦質土器 擂鉢	(24.0)	—	(4.6)	ロクロナデ、 研磨、櫛目	ロクロナデ、 研磨	緻密	良	黒褐 5YR3/1	黒褐 5YR3/1	口1/12 胴1/12	17～18世紀
37	169	B区 2面	遺構検出	磁器 お猪口	—	(2.1)	(2.1)	染付：二重 圏内に植物	染付：植物と 圏線、底面：寿	緻密	良	明青灰 5B7/1	明青灰 5B7/1	胴3/12 底11/12	19世紀
38	170	C区 1面	SD006	須恵器 坏身	—	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、ロ クロヘラケズリ	緻密	良	灰 N4	暗灰 N3	胴2/12	6世紀
38	171	C区 1面	SD006	山茶碗 碗	—	(5.8)	(2.3)	ロクロナデ、 自然釉付着	ロクロナデ、底 面：回転糸切り	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	胴3/12 底7/12	13世紀
38	172	C区 1面	SD006	陶器 小皿	(9.2)	(4.0)	(2.0)	錆釉	錆釉、ロクロ ヘラケズリ	緻密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	暗赤褐 2.5YR3/2	口1/12 胴5/12 底2/12	18世紀
38	173	C区 1面	SD006	陶器 小皿	(13.0)	—	(1.9)	施釉	施釉	緻密	良	灰白 5Y7/2	灰白 5Y7/2	口3/12	瀬戸美濃 18世紀
38	174	C区 1面	SD006	陶器 碗	—	(5.8)	(1.8)	施釉（貫入）	施釉（貫入）	並	良	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	底4/12	瀬戸美濃 18世紀
38	175	C区 1面	SD006	陶器 鉢	(23.0)	—	(3.8)	施釉	施釉	緻密	良	灰白 5Y7/2	灰白 5Y7/2	口1/12	18世紀
38	176	C区 1面	SD006	陶器 瓶又は壺	—	(8.0)	(3.0)	ナデ	施釉、ロクロ ナデ	緻密	良	灰白 10YR8/1	灰白 5Y7/2	胴3/12 底2/12	外面体部下半～ 底部に煤付着 18世紀
38	177	C区 1面	SD006	陶器 壺	(76.0)	—	(9.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	並	良	橙 5YR7/6	浅黄橙 7.5YR8/6	口4/12	18～19世紀
38	178	C区 1面	SD006	磁器 小碗（お 猪口）	—	—	(0.8)	施釉	施釉、素地（ロ クロコテアテ）	緻密	良	灰白 10YR8/1	灰白 5Y8/1	胴5/12 底10/12	瀬戸 18世紀
38	179	C区 1面	SD007	弥生土器 高坏	—	—	(6.4)	ナデ	摩耗	並 白色粒を含む	良	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR7/3	胴2/12 脚3/12	透孔径1.3cm、4方向 上面が黒く煤けている 弥生後期
38	180	C区 1面	SD007	弥生土器 台付甕	—	—	(2.0)	ナデ、摩耗	ユビオサエ	並 白色粒を多く 含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	胴2/12 台2/12	弥生後期
38	181	C区 1面	SD007	須恵器 坏身	(9.2)	—	(3.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	口1/12 胴1/12	5世紀
38	182	C区 1面	SD007	須恵器 坏身	(14.4)	—	(2.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1	口1/12	7世紀
38	183	C区 1面	SD007	須恵器 甕	—	—	(4.6)	ナデ	タタキ	緻密	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y8/1	胴1/12	7世紀
38	184	C区 1面	SD007	土師器 甕	—	—	(4.0)	ナデ	ナデ、ハケ	並 3mm以下の白 色粒を含む	良	にぶい褐 7.5YR5/3	浅黄橙 7.5YR8/3	胴1/12	7世紀
38	185	C区 1面	SD007	土師器 甕	(20.0)	—	(3.9)	ナデ	ナデ	並	良	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	口1/12	7世紀
38	186	C区 1面	SD007	灰釉陶器 碗	—	(7.0)	(1.3)	ロクロナデ、 一部自然釉付 着	ロクロナデ、 底面：回転糸 切り	緻密	良	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	底5/12	8世紀後半～9世紀
38	187	C区 1面	SD007	山茶碗 碗	—	(7.8)	(1.7)	ロクロナデ、 自然釉付着	ロクロナデ	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y7/1	底2/12	13世紀
39	188	C区 1面	SD007	土師質土器 焙烙	(30.0)	—	(2.2)	ナデ	ナデ	並	良	褐 7.5YR4/3	黒褐 7.5YR3/1	口1/12	外面煤付着 18世紀
39	189	C区 1面	SD007	陶器 天目茶碗	—	(4.4)	(2.4)	施釉（透明）	鉄釉 高台・底面： ロクロヘラケ ズリ出し	緻密	良	浅黄 5Y7/3	黒褐 7.5YR2/2	胴4/12 底10/12	瀬戸美濃 18世紀
39	190	C区 1面	SD007	陶器 小皿	—	(4.8)	(1.4)	施釉	ロクロナデ	緻密	良	灰白 2.5Y8/2	淡黄 2.5Y8/3	胴2/12 底3/12	18世紀
39	191	C区 1面	SD007	陶器 碗	—	(6.4)	(1.7)	施釉	施釉、ロクロ ナデ	緻密	良	灰白 5Y7/2	灰白 5Y8/2	胴1/12 底2/12	瀬戸美濃 18世紀
39	192	C区 1面	SD007	陶器 小碗	—	—	(3.8)	施釉、染付： 圏線	施釉、染付： 植物・圏線	緻密	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	胴2/12 底1/12	瀬戸 18世紀後半～19世紀前半
39	193	C区 1面	SD007	陶器 小碗	—	—	(1.9)	施釉	施釉	緻密	良	灰白 7.5Y7/2	灰白 7.5Y7/2	胴2/12 底1/12	18世紀後半～19世紀前半
39	194	C区 1面	SD007	陶器 瓶（急須）	—	(8.0)	(2.4)	ロクロナデ	錆釉、ロクロ コテアテ、底 面：静止糸切り	並	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/1	胴3/12 底3/12	内外面煤付着 18世紀
39	195	C区 1面	SD007	磁器 碗	—	(8.0)	(2.3)	見込：染付花・ 圏線、透明釉	高台：圏線、 透明釉	緻密	良	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	底2/12	瀬戸 17～18世紀
39	196	C区 1面	SD007	磁器 小皿	(8.4)	(7.6)	(1.0)	透明釉	透明釉	緻密	良	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1	口1/12 胴1/12 底1/12	瀬戸 17～18世紀
39	197	C区 1面	SD007	磁器 德利	(—)	(3.4)	(5.2)	ナデ	施釉、染付： 蓮弁	緻密	良	灰白 5Y8/1	灰白 5GY8/1	胴4/12 底7/12	19世紀
39	198	C区 1面	SD007	磁器 不明	—	—	(2.7)	ナデ	透明釉、大黒 天顔面	緻密	良	灰白 7.5YR8/1	灰白 7.5YR8/1	胴1/12	瀬戸 17～18世紀

第4表 遺物観察表 (6)

土器

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別 器種	寸法 (cm)			成形・調整・装飾等		胎土	焼成	色調		残存部 残存率	備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面		
40	202	C区 1面	SD008	陶器 擂鉢	—	(14.0)	(2.4)	櫛目	ロクロナデ、 底面：回転ヘラケズリ	並	良	灰褐 5YR4/2	灰褐 5YR4/2	底1/12	17～18世紀
40	203	C区 1面	SD009	陶器 蓋	(6.4)	(6.0)	(1.5)	施釉	ロクロコテア テ	緻密	良	浅黄 10YR7/4	浅黄橙 10YR8/3	□2/12 胴2/12 底2/12	瀬戸美濃 18世紀
40	204	C区 1面	SD009	陶器 小皿	(12.0)	(6.0)	(2.2)	施釉、重ね焼 き痕	施釉	緻密	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	□4/12 胴4/12 底4/12	瀬戸美濃 18世紀
40	205	C区 1面	SD009	磁器 碗	(10.0)	—	(2.5)	施釉、園線	施釉、染付： 植物	緻密	良	灰白 2.5GY8/1	灰白 2.5GY8/1	□1/12 胴1/12	伊万里 17～18世紀
40	206	C区 1面	SD009	磁器 碗	—	(4.4)	(2.4)	施釉	施釉	緻密	良	灰白 5GY8/1	灰白 5GY8/1	底3/12	19世紀
40	207	C区 1面	SD014	灰釉陶器 碗	—	(8.0)	(1.8)	灰釉、ロクロ ナデ	ロクロナデ、底面 回転ヘラケズリ	緻密	良	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	底2/12	9～10世紀
40	208	C区 1面	SD017	山茶碗 碗	—	(7.0)	(1.5)	ロクロナデ、 自然釉付着	ロクロナデ、 高台：粉殻痕、 底面：未調整	緻密 1mm以下の白 色粒を含む	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	底4/12	15世紀
40	209	C区 1面	SD017	陶器 小皿	—	(7.0)	(2.5)	ロクロナデ	施釉（貫入）、 ロクロナデ、 底部～底面： スス付着	緻密	良	浅黄 2.5Y7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	胴2/12 底1/12	瀬戸美濃 17世紀
40	210	C区 1面	SD017	陶器 小皿	(11.0)	—	(2.0)	施釉（貫入）	施釉（貫入）	緻密	良	灰黄 2.5Y7/2	灰白 2.5Y8/2	□1/12	瀬戸美濃 18世紀
40	211	C区 1面	SD017	陶器 鍋	(24.0)	—	(2.7)	ロクロナデ	施釉（鉄釉）	緻密	良	灰白 5Y7/1	黒褐 5YR2/2	□1/12	18世紀
40	213	C区 1面	SD018	陶器 瓶	—	—	(2.1)	鉄釉	鉄釉 底面： トチン跡有り	緻密	良	暗褐 7.5YR3/4	暗褐 7.5YR3/4	胴2/12 底2/12	18世紀
40	214	C区 1面	SD018	陶器 瓶	—	—	(3.7)	ロクロナデ	錆釉	緻密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい赤褐 5YR4/3	胴1/12 底1/12	18世紀
40	215	C区 1面	SD018	磁器 碗	(12.0)	—	(2.9)	施釉、園線	施釉、 染付：植物	緻密	-	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	□1/12 胴2/12	伊万里 18世紀
40	216	C区 1面	トレンチ	陶器 蓋	(9.3)	(5.5)	(1.6)	施釉（黒）： 鉄釉	ロクロコテア テ、底面：静 止糸切り	緻密	良	黒褐 10YR2/2	灰白 2.5Y8/1	□2/12 胴2/12 底2/12	18世紀
40	217	C区 1面	遺構検出	陶器 茶碗	(13.2)	(8.4)	(5.8)	施釉（貫入）、 トチンの跡目	施釉、ロクロ ナデ、底面： 静止糸切り	緻密	良	灰黄 2.5Y7/2	灰白 10YR8/2	□1/12 胴4/12 底4/12	18世紀
41	220	C区 2面	SD020	山茶碗 小皿	—	(4.0)	(1.4)	ロクロナデ	ロクロナデ、 高台：潰れた ような状態	緻密	良	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	胴2/12 底4/12	15世紀
41	221	C区 2面	SD020	陶器 小型鉢	(11.6)	—	(6.6)	施釉（鉄釉）	施釉（鉄釉）、 ロクロナデ	緻密	良	黒褐 7.5YR3/2	黒褐 7.5YR3/2	□1/12 胴2/12	外面体部下半に 煤付着 18世紀
41	222	C区 2面	表土掘削 （調査区 西側）	弥生土器 高坏	—	—	(6.3)	絞り、摩耗	摩耗	並 白色粒を含む	良	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	脚5/12	弥生後期
41	223	C区 2面	排土	弥生土器 壺	(16.0)	—	(3.8)	ナデ	口縁端部赤彩、 ナデ	並 赤色粒を含む	良	にぶい黄橙 10YR7/3	灰白 10YR8/2	□2/12	弥生後期
41	224	C区 2面	東壁整形 （調査区 西側）	須恵器 高坏	—	—	(4.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密 白色粒を含む	良	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	脚4/12	7世紀
41	225	C区 2面	西壁整形 （調査区 西側）	須恵器 甕	—	—	(3.3)	ナデ	タタキ	緻密 2mm以下の白 色粒を含む	良	灰 N6	灰 N5	胴1/12	7世紀
41	226	C区 2面	東壁整形 （調査区 西側）	土師器 甕	(20.0)	—	(4.0)	ナデ	ナデ	並 白色粒を含む	良	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	□1/12	7世紀
41	227	C区 2面	遺構検出	中世土師器 内耳鍋	—	—	(3.5)	ナデ	ナデ	並	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	□1/12	16世紀
41	228	C区 2面	西壁整形 （調査区 西側）	灰釉陶器 坏又は皿	—	(6.0)	(1.6)	ロクロナデ、 全面にスス痕	ロクロナデ	緻密	良	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	底1/12	灯明皿か 8世紀後半～9世紀
41	229	C区 2面	西壁整形 （調査区 西側）	灰釉陶器 碗	(15.0)	—	(3.0)	ロクロナデ、 自然釉付着	ロクロナデ、口 縁部の一部に 自然釉薬付着	緻密	良	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	□2/12	10～11世紀
41	230	C区 2面	表土掘削	山茶碗 小皿	—	(4.8)	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ、底 面：回転糸切り	緻密	良	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	胴3/12 底3/12	13世紀
41	231	C区 2面	表土掘削	陶器 坏	—	—	(2.8)	緑釉	緑釉	緻密	良	暗オリーブ 7.5Y4/3	暗オリーブ 7.5Y4/3	□1/12 胴2/12	9～10世紀
41	232	C区 2面	表土掘削	陶器 擂鉢	—	(9.0)	(2.6)	櫛目	ロクロナデ、 底面：回転ヘ ラケズリ	並	良	褐灰 7.5YR4/1	褐灰 7.5YR4/1	底5/12	内外面ともに 煤付着 17～18世紀
41	233	C区 2面	表土掘削 （調査区 西側）	陶器 小型壺	(11.0)	—	(6.2)	錆釉	錆釉、ロクロ ナデ、ロクロ コテアテ	緻密	良	褐 7.5YR4/3	暗褐 7.5YR3/3	□3/12 胴3/12	18世紀
41	234	C区 2面	東壁整形 （調査区 西側）	陶器 徳利	—	(4.0)	(3.8)	施釉	施釉、底面： トチン痕	緻密	良	にぶい黄褐 10YR5/4	灰白 5Y7/2	胴1/12 底4/12	18世紀
41	235	C区 2面	表土掘削	磁器 小皿	—	(7.2)	(2.3)	施釉、染付二重 園線、円内に付・梅	施釉、底面： 蛇目凹型高台	緻密	良	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	胴3/12 底5/12	瀬戸 18世紀後半～19世紀
41	236	C区 2面	表土掘削	磁器 碗	—	(4.8)	(4.0)	施釉、見込み： 染付園線、五 弁花	施釉、高台： 染付二重園線	並	良	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	胴2/12 底11/12	瀬戸 18～19世紀

第4表 遺物観察表 (7)

土器

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別 器種	寸法 (cm)			成形・調整・装飾等		胎土	焼成	色調		残存部 残存率	備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面		
42	237	A区 1面	NR001 西側 トレンチ	弥生土器 壺又は高 坏	(16.0)	—	(2.2)	ナデ、摩耗、 赤彩痕	ナデ、摩耗	並 2mm以下の石 英・長石を含 む	良	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	口1/12	弥生後期
42	238	A区 1面	NR001 東側 トレンチ	土師器 甕	(16.4)	—	(3.0)	ナデ、摩耗	ナデ	並 1mm以下の長 石・石英を少 量含む	良	淡黄 2.5Y8/3	にぶい黄橙 10YR6/3	口1/12	7～8世紀
42	239	A区 1面	NR001 西側 トレンチ	土師器 甕	—	—	(3.0)	ナデ	ハケ	並 3mm以下の石 英を含む	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	胴1/12	7～8世紀
42	240	A区 1面	NR001 東側 トレンチ	陶器 内耳鍋	(21.8)	—	(7.2)	ヨコナデ、耳 部：ユビオサエ	ヨコナデ、耳 部：ユビオサエ	並 3mm以下の白 色粒を含む	良	にぶい赤褐 5YR4/3	にぶい赤褐 5YR4/3	口2/12 胴1/12	16世紀後半
42	241	A区 2面	NR001	須恵器 甕	(20.0)	—	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	緻密	良	灰 N6	灰白 N8	口1/12	5世紀
42	242	A区 2面	NR001	須恵器 高坏	—	—	(3.8)	ロクロナデ	ロクロケズリ、 ロクロナデ	緻密 白色粒を多く 含む	良	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	胴4/12	坏身 7世紀中頃～後半

土製品

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別	寸法 (cm)			成形・調整・装飾等		胎土	焼成	色調		残存率	備考
					最大長	最大幅	最大厚	内面	外面			内面	外面		
33	96	B区 1面	SD024	加工円盤 播鉢転用	縦幅 (5.4)	横幅 (5.3)	(1.1)	鉄釉、櫛目	鉄釉	緻密	良	褐灰 5YR4/1	暗赤褐 2.5YR3/3	—	重さ：38.6g 17～18世紀
33	98	B区 1面	SD029	土人形	(5.7)	—	(4.0)	手捏ね	型枠成形	緻密	良	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄橙 10YR7/4	底2/12	17～18世紀
40	218	C区 1面	西壁整形 (調査区 西側)	土鍾	長さ 4.7	幅 1.3	孔径 0.3	—	ナデ	緻密	良	—	にぶい橙 7.5YR6/4	12/12	背面に凹みあり 重さ：6.9g 時期不明
40	219	C区 1面	表土掘削	土鍾	長さ 4.0	幅 1.5	孔径 0.3	—	ナデ	緻密	良	—	にぶい橙 7.5YR7/4	12/12	重さ：7.1g 時期不明

石器・石製品

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別	寸法 (cm)			石材	残存率	備考
					最大長	最大幅	最大厚			
36	145	A区 2面	遺構検出	紡錘車	(3.2)	(0.6)	(0.8)	滑石	9/12	上面：剥離 重量：10.5g 7世紀

金属製品

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別	寸法 (cm)			残存部	備考
					最大長	最大幅	最大厚		
40	212	C区 1面	SD017	寛永通宝か	2.2	2.3	0.1	12/12	重量：2.2 g 17～18世紀

木製品

※寸法の()は復元径または残存長を表す

図No.	番号	地区	遺構名	種別	寸法 (cm)			木取り	残存率	備考
					最大長	最大幅	最大厚			
39	199	C区 1面	SD007	板材	41.0	15.7	3.0	柾目	11/12	17世紀以降
39	200	C区 1面	SD007	木杭	36.2	8.5	3.9	—	10/12	17世紀以降
39	201	C区 1面	SD007	木杭	36.7	6.8	3.5	柾目	7/12	横木取り 17世紀以降

第4表 遺物観察表 (8)